

出 来 町 遺 跡

— 福岡県柳川市出来町所在近世柳川城下町の調査 —

柳川市文化財調査報告書 第13集

序

筑後川と矢部川が有明海に注ぐ、筑後平野南西部に位置する柳川市は、柳川藩十一万石の城下町であり、詩人北原白秋の詩歌の母胎となった水郷都市です。

このたび、報告をいたします上町遺跡は、近世柳川城下町の町人町「出来町」の遺跡です。平成 27 年に共同住宅の建設に伴い、柳川市教育委員会が発掘調査を実施いたしました。その結果、排水遺構、廃棄土坑など、城下町における人々の暮らしを生き生きと現在に伝える生活遺構が確認され、出土した陶磁器や木製品、金属器等と合わせて、城下町の変遷を明らかにする手がかりとなりました。

本報告が今後の調査研究に寄与すると共に、埋蔵文化財に対する理解を深め、文化財保護に対する取り組みの一助となることを願います。

最後に、今回の調査にご理解を頂きご協力頂きました地元の皆様を始め、地権者様、調査にあたりご助言ご指導を賜りました皆様、発掘調査に従事して頂きました皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成 29 年 3 月 31 日

柳川市教育委員会

教育長 日高 良

例 言

- 1 本書は、共同住宅建設に伴い、株式会社シフトライフの委託を受けて柳川市が受託事業として実施した、柳川市出来町所在 出来町（できまち）遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は柳川市教育委員会が事業主体となり、柳川市教育委員会生涯学習課の橋本清美が調査を担当した。
- 3 本書に掲載した遺構実測図の作成は調査担当者、堤伴治が行った。遺物実測図の作成は、（株）アーキジオ九州が行った。
- 4 本書に掲載した空中写真撮影は空中写真企画が、遺構写真撮影は調査担当者が、遺物写真撮影は橋本が行った。
- 5 遺物の整理復元及び遺構、遺物の製図は（株）アーキジオ九州が行った。
- 6 出土遺物、写真、実測図は全て柳川市教育委員会において保管している。
- 7 本書遺構の略表記は次のとおりである。
SK…土坑、SD…溝
- 8 本書の執筆、編集は堤伴治の補助を得て橋本清美が行った。

本文目次

I	はじめに	1
1	調査に至る経過	1
2	調査組織	1
II	位置と環境	3
III	調査の内容	5～101
1	第1調査区第1遺構面土坑	5～23
2	第1調査区第1遺構面その他の出土遺物	23～25
3	第2調査区第1遺構面土坑	25～41
4	第2調査区第1遺構面その他の出土遺物	41～46
5	第1調査区第2遺構面土坑	46～58
6	第1調査区第2遺構面その他の出土遺物	58～63
7	第2調査区第2遺構面土坑	63～69
8	溝	69～88
9	第2調査区第2遺構面その他の出土遺物	88～93
10	第2遺構面土その他の出土遺物	93～94
11	その他の出土遺物	93～99
12	石製品出土遺物	96～100
IV	総括	101

図版目次

図版 1	1. 出来町遺跡調査区遠景（南東上空から） 2. 出来町遺跡調査区全景（西上空から）
図版 2	1. 出来町遺跡第1区調査区（北から） 2. 出来町遺跡第2区調査区（西から）
図版 3	1. 基本土層堆積状況 2. SK－1（東から） 3. SK－28（西から）
図版 4	1. SK－37（北西から） 2. SK－43（北から） 3. SK－50（北西から）
図版 5	1. SK－54（北西から） 2. SK－86（南から） 3. SK－115（南から）

図版 6	1. SK - 118 (西から)
	2. SK - 149 (西から)
	3. SK - 150 (西から)
図版 7	1. SK - 177 (南から)
	2. SK - 179 (北西から)
	3. SK - 224 (西から)
図版 8	出土遺物①
図版 9	出土遺物②
図版 10	出土遺物③

挿 図 目 次

第 1 図	柳川市位置図	1
第 2 図	周辺遺跡分布図 (1/25,000)	2
第 3 図	調査区位置図 (1/2,500)	4
第 4 図	出来町絵図 (檜垣文庫・国立大学法人九州大学附属図書館)	4
第 5 図	出来町遺跡第 1・2 区第 1 遺構面遺構配置図 (1/200)	折込
第 6 図	出来町遺跡基本土層図 (1/40)	6
第 7 図	SK - 1・3・8・10・18・19 実測図 (1/40)	8
第 8 図	SK - 1・2 出土遺物実測図 (9・10 は 1/4、他は 1/3)	9
第 9 図	SK - 2・4・8・16・18 出土遺物実測図 (11・13・16 は 1/4、他は 1/3)	10
第 10 図	SK - 20・25・27・28・30・32 実測図 (1/40)	11
第 11 図	SK - 19・20・27・28・30・32 出土遺物実測図 (1/3)	13
第 12 図	SK - 33・35・37・40 実測図 (1/40)	14
第 13 図	SK - 33・35・37 出土遺物実測図 (1/3)	16
第 14 図	SK - 37・40 出土遺物実測図 (53・57・59 は 1/4、他は 1/3)	18
第 15 図	SK - 40・43 出土遺物実測図 (60・61 は 1/4、他は 1/3)	20
第 16 図	SK - 41・44・47・50 実測図 (1/40)	21
第 17 図	SK - 52・55 実測図 (1/40)	23
第 18 図	SK - 44・47・49・52・55 出土遺物実測図 (1/3)	24
第 19 図	第 1 区第 1 遺構面出土遺物実測図① (1/3)	26
第 20 図	第 1 区第 1 遺構面出土遺物実測図② (1/3)	27
第 21 図	SK - 69・80・83・86・88・97 実測図 (1/40)	28
第 22 図	SK - 69・86・87・93・97・99 出土遺物実測図 (112・113 は 1/4、他は 1/3)	30
第 23 図	SK - 98・100・108・115・118 実測図 (1/40)	32

第 24 図	SK - 115・118・120・121・125・126・138 出土遺物実測図 (115・112・119・120 は 1/4、他は 1/3) ……………	34
第 25 図	SK - 117・120・121・125・127・138 実測図 (1/40) ……………	36
第 26 図	SK - 145～147・149 実測図 (1/40) ……………	37
第 27 図	SK - 150・167 実測図 (1/40) ……………	39
第 28 図	SK - 140・143・145～147・149・150・165・167 出土遺物実測図 (129・134・135・139 は 1/4、他は 1/3) ……………	40
第 29 図	第 2 区第 1 遺構面出土遺物実測図① (1/3) ……………	42
第 30 図	第 2 区第 1 遺構面出土遺物実測図② (1/3) ……………	43
第 31 図	第 2 区第 1 遺構面出土遺物実測図③ (1/3) ……………	45
第 32 図	第 2 区第 1 遺構面出土遺物実測図④ (1/3) ……………	47
第 33 図	第 2 区第 1 遺構面出土遺物実測図⑤ (1/3) ……………	48
第 34 図	出来町遺跡第 1 区・2 区第 2 遺構面遺構配置図 (1/200) ……………	折込
第 35 図	SK - 174・175・177・179 実測図 (1/40) ……………	50
第 36 図	SK - 171・174～177・179・197 出土遺物実測図 (207・212 は 1/4、他は 1/3) …	51
第 37 図	SK - 197・201 実測図 (1/40) ……………	52
第 38 図	SK - 203・204・220・221・224 実測図 (1/40) ……………	54
第 39 図	SK - 201・202 出土遺物実測図 (219・220・221 は 1/4、他は 1/3) ……………	55
第 40 図	SK - 203・204・219～221・224 出土遺物実測図 (227・228・232・235 は 1/4、他は 1/3) ……………	57
第 41 図	第 1 区第 2 遺構面出土遺物実測図① (1/3) ……………	59
第 42 図	第 1 区第 2 遺構面出土遺物実測図② (1/3) ……………	61
第 43 図	第 1 区第 2 遺構面出土遺物実測図③ (271・276 は 1/4、他は 1/3) ……………	62
第 44 図	SK - 225・226 実測図 (1/40) ……………	64
第 45 図	SK - 225 出土遺物実測図① (283～285 は 1/4、他は 1/3) ……………	65
第 46 図	SK - 225 出土遺物実測図② (1/4) ……………	66
第 47 図	SK - 226 出土遺物実測図① (301 は 1/4、他は 1/3) ……………	68
第 48 図	SK - 226 出土遺物実測図② (1/3) ……………	70
第 49 図	SK - 226 出土遺物実測図③ (314 は 1/3、他は 1/4) ……………	71
第 50 図	SK - 226 出土遺物実測図④ (321～324 は 1/4、他は 1/3) ……………	72
第 51 図	SK - 226・228 出土遺物実測図⑤ (330・332 は 1/4、その他は 1/3) ……………	73
第 52 図	SK - 227 実測図 (1/40) ……………	74
第 53 図	SD - 85 出土遺物実測図① (1/3) ……………	76
第 54 図	SD - 85 出土遺物実測図② (1/3) ……………	78
第 55 図	SD - 85 出土遺物実測図③ (1/3) ……………	80
第 56 図	SD - 85 出土遺物実測図④ (1/3) ……………	81
第 57 図	SD - 85 出土遺物実測図⑤ (1/3) ……………	82
第 58 図	SD - 85 出土遺物実測図⑥ (1/3) ……………	84

第 59 図	SD－85 出土遺物実測図⑦（1/4）	85
第 60 図	SD－85 出土遺物実測図⑧（437・441 は 1/4、他は 1/3）	86
第 61 図	SD－85 出土遺物実測図⑨（1/3）	87
第 62 図	SD－85 出土遺物実測図⑩（1/3）	89
第 63 図	第 2 区第 2 遺構面出土遺物実測図①（1/3）	91
第 64 図	第 2 区第 2 遺構面出土遺物実測図②（1/3）	92
第 65 図	第 2 区第 2 遺構面・第 2 遺構面出土遺物実測図（504 は 1/4、他は 1/3）	94
第 66 図	調査区出土遺物実測図①（523 は 1/4、他は 1/3）	95
第 67 図	調査区出土遺物実測図②（1/3）	97
第 68 図	調査区出土遺物実測図③（1/4）	98
第 69 図	調査区出土遺物実測図④（1/4）	99
第 70 図	石製品出土遺物実測図（1/4）	100

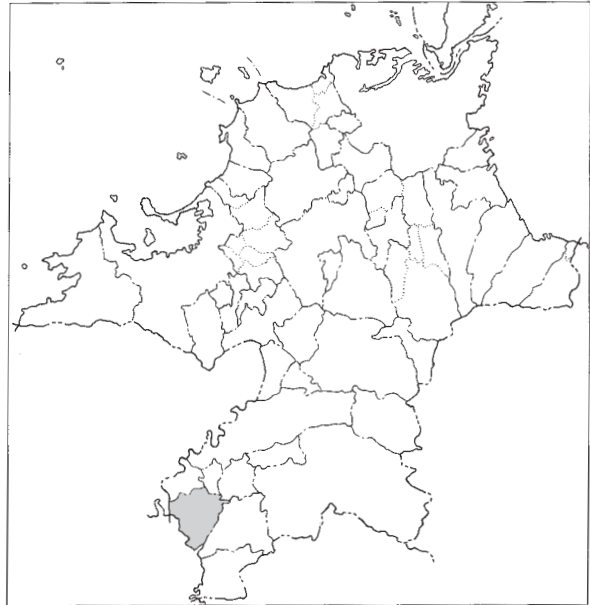
I はじめに

1 調査に至る経過

福岡県柳川市は筑後川と矢部川とに挟まれた筑後平野の南西に位置する、人口約69,000人、面積76.88平方キロメートルの地方都市である。市南部には近世以前から戦後まで造られた広大な干拓地が広がる他、本市を含む筑紫平野南部一帯には、水田の灌漑用水の水路が網のように巡り、独特の景観を形成している。

平成27年5月22日付で共同住宅建設に先立ち株式会社シフトライフ代表取締役から、文書により埋蔵文化財の有無についての照会を受け、平成27年6月5日から6日に柳川市教育委員会が確認調査を行った。その結果、近世の遺物を伴う遺構面を確認したため、当地が近世柳川城下町に当たることから城下町に関連する遺構であると判断し、その後の協議を始めた。

数次の協議を経て、事前調査により遺構が確認された共同住宅建設範囲について発掘調査を行うこと、調査費用は原因者が負担することを合意し、文化財保護法による諸手続きを経て株式会社シフトライフと柳川市は、出来町遺跡埋蔵文化財発掘調査に関する契約を締結した。



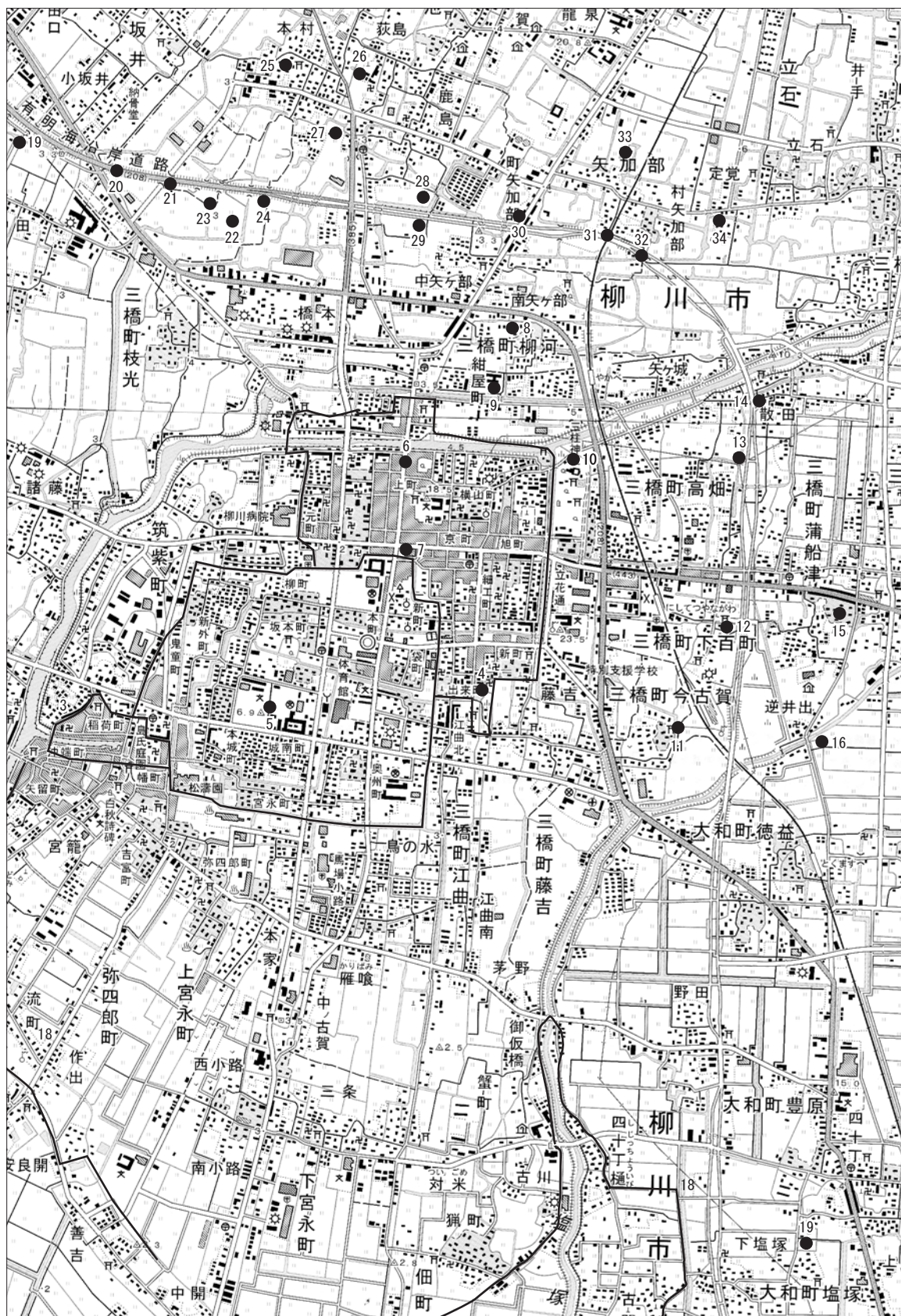
第1図 柳川市位置図

2 調査組織

発掘調査及び報告書作成の関係者は次のとおりである。

総括 柳川市教育委員会

	平成27年度	平成28年度
教育長	日高 良	日高 良
教育部長	樽見 孝則	樽見 孝則
生涯学習課長	袖崎 朋洋	袖崎 朋洋
生涯学習課長補佐		堤 英幸
文化財保護係長		堤 伴治
文化財保護係		橋本 清美(整理・経理担当)
文化係長	野田 学	
	堤 伴治	
文化係	須崎精一郎	
	堤 智一	
	橋本 清美(調査担当)	
	権丈 和徳	
株式会社シフトライフ 代表取締役	樋口由紀夫	



1. 柳河（城下町） 2. 御家中（城内） 3. 沖端（港町） 4. 出来町遺跡 5. 柳川城址
6. 上町遺跡 7. 京町遺跡 8. 南矢ヶ部遺跡Ⅰ 9. 南矢ヶ部遺跡Ⅱ 10. 三柱神社
11. 今古賀城 12. 蒲船津西ノ内遺跡 13. 蒲船津水町遺跡 14. 蒲船津江頭遺跡
15. 蒲船津城跡 16. 逆井出遺跡 17. 塩塚城遺跡 18. 慶長本土居 19. 坂井長永遺跡
20. 西蒲池古塚遺跡 21. 西蒲池将監坊遺跡 22. 西蒲池古溝遺跡 23. 扇ノ内遺跡
24. 西蒲池下里遺跡 25. 三島神社 26. 蓮池城跡 27. 蓮池遺跡
28. 東蒲池大内曲り遺跡 29. 東蒲池榎町遺跡 30. 矢ヶ部町屋敷遺跡
31. 矢ヶ部五反田遺跡 32. 矢ヶ部遺跡南屋敷遺跡 33. 玉垂命神社遺跡 34. 阿弥陀屋舗遺跡

第2図 周辺遺跡分布図（1/25,000）

Ⅱ 位置と環境

出来町遺跡は、柳川市の中央部やや東寄り、柳川市中心市街地に所在する、近世柳川城下町の遺跡である。旧城下町の全域が周知の埋蔵文化財包蔵地「柳川城郭跡」にあたり、確認調査により遺構を確認した拠点から随時、近世の旧地名に由来する現在の町名を与えた遺跡を登録している。

本遺跡が所在する柳川市は筑後平野南西部の有明海北縁にあたり、西を筑後川、東を矢部川に挟まれた三角州に立地し、標高0～5 m程度の平坦な低平地である。柳川市に面する有明海は干満差の激しい国内有数の干潟を有し、沿岸部には干拓地が広がる。柳川城の城郭を形成する城堀は、城下町の東辺にある3ヶ所の水門から二ツ川の水を取水して水路で繋ぎ、さらに城堀の南岸に複数の取水口を備え、二ツ河から市南部の宮永地区及び両開地区に再分配するための中盤施設の役割を果たす。

天正15(1587)年、立花宗茂が柳川城に入り、三潆・下妻・山門の三郡を支配した。慶長5(1600)年に関ヶ原の戦いで西軍に与した宗茂が改易されると、田中吉政が筑後国の領主として柳川城に入る。しかし2代忠政に後嗣が無く、断絶改易となった。そして元和6(1620)年、立花宗茂が再封され、以後幕末まで立花氏の支配が続いた。

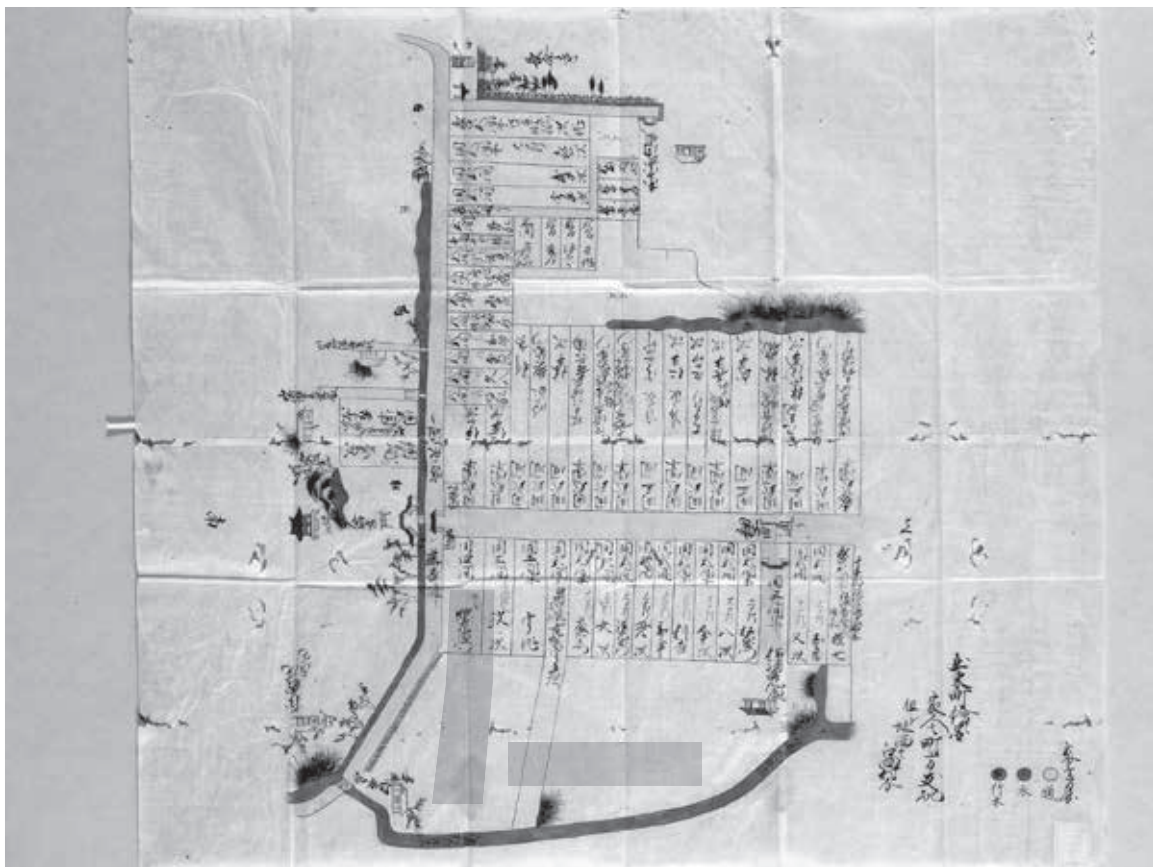
近世柳川城下の構造は地理的な関係から、柳川城を中核に武家が集中する「城内」と通称される地区と、町人が主に居住した「沖端町」と「柳河町」の三地区に大別することができる。沖端町「城内」の南西部に、柳河町は北部から東部にかけて展開する。沖端町と柳河町には武家屋敷や寺社があり、純然とした町人地ではないが、柳河町では、足軽などが居住する地区を「弓小路」「鉄砲小路」など小路の名前で呼ぶのに対し、町人が主に居住する地区は「瀬高町」「細工町」など「町」と呼び、いくつかの町を束ねて「本町組」「瀬高町組」という二つの町組が形成される。町組を統括するのは別当と年行司である。

出来町遺跡は柳河町の中でも本町組に属する町人地出来町にあたる。近世の柳川城下町では、武家居住区や寺社地を除く一般の町人地が、一本の通りを挟んで町(チョウ)を組織する、いわゆる両側町の構成をとる。出来町は、南限に天満宮があり、その門前には、水路を挟んで東西に通りがはしっている。この通りから、南北に「細工町通り」がはしり、それに沿って南側に屋敷が並んでいた。天満宮門前の通りは、木戸門によって「細工町通り」とへだてられており、西側を「宮永通り」、東側を「藤吉通り」として、それぞれ近隣の宮永村・藤吉村方面へと通じている。なお、この木戸門の両脇には、「御番所」・「火番所」が設けられていた。出来町全域が描かれている第4図には、南北にはしる通りに「細工町通り」とする書き込みがみえる。この出来町は、細工町南側の江曲村地面に、何らかの要因によって、新規にたてられた「町」であろうと考えられる。

また、細工町との関係については、「細工町之内出来町」との記載が「両役控」[享保4年(1719)年9月27日条]に記載されていることから、同町の「枝町」的な存在であったのではないと思われる。つまり出来町は、細工町とは木戸門によってへだてられ、また組頭を中心として、ほかの「町」と同様に町政を運営しながらも、現実には「細工町之内」と認識されていたと考えられる。



第3図 調査区位置図 (1/2,500)



第4図 出来町絵図 (檜垣文庫・国立大学法人九州大学附属図書館)

Ⅲ 調査の内容

出来町遺跡の発掘調査は、平成 27 年 12 月 15 日から重機による表土掘削を開始した。表土除去後は第 1 調査区から遺構検出作業を行い、順次遺構の掘削作業を進めた。遺構密度はそれほど高くはないが、調査区全面にわたっており、全体を 1/20 縮尺で実測し、各遺構のレベルを入れる作業を行った。また主要遺構については個別に実測図作成を行い、写真撮影も行った。調査が終了したのは平成 28 年 2 月 18 日である。

調査範囲は第 1 調査区東西 37m、南北 8m で、調査面積は 296㎡、第 2 調査区は東西 8m、南北 43m で、調査面積は 344㎡の、合計 640㎡。遺構面の標高は 2.4m 前後である。検出した主な遺構は、土坑 68 基、溝 1 条である。出土遺物は、近世陶磁器、瓦、木製品、銅銭である。

以下、個別の遺構および遺物の説明を行う。

1 第 1 調査区第 1 遺構面土坑

SK-1 (図版 3、第 7 図)

調査区の西北に位置する不整形の土坑で、土坑の中心に甕が据えられている。長軸 1m・短軸 0.9m、深さは最深部で 0.2m を測る。底は全体的に平坦で、立ち上がりは緩やかに傾斜。

出土遺物 (第 8 図)

1・2 は染付、1 は小坏、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は露胎、砂目跡が残る。外面口縁部に、雨降文が描かれる。口径 7.6cm、器高 4.1cm、高台径 3.1cm。

2 は碗で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。外面に丸文、高台に 2 条の界線が描かれる。口径 (9.3cm)、器高 4.9cm、高台径 (4.1cm)。

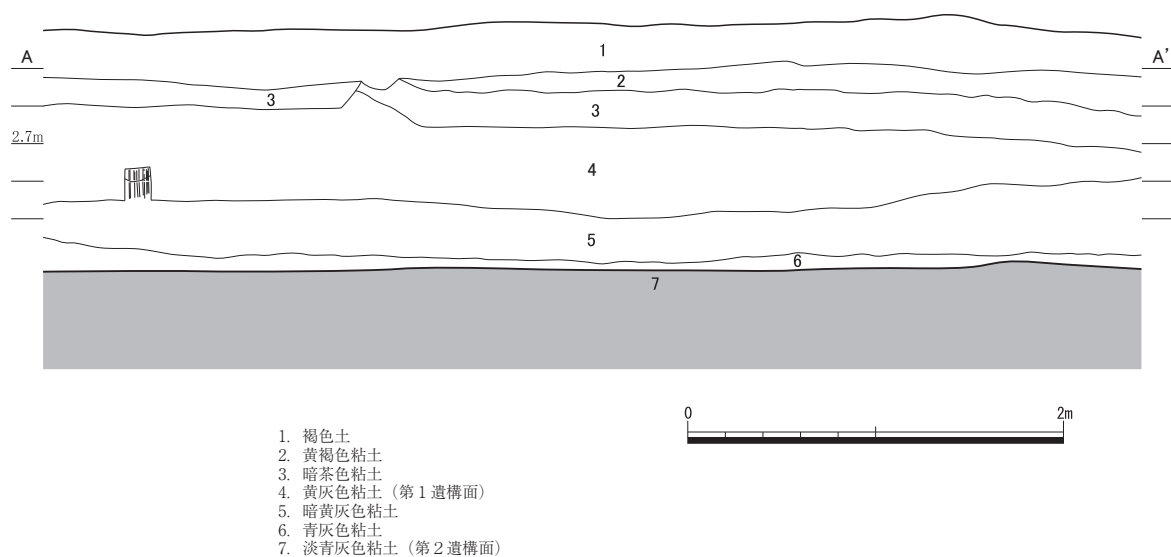
SK-2 (第 7 図)

調査区の南西に位置する長楕円形の土坑で、長軸 2.8m・短軸 1.2m、深さは最深部で、0.1m を測る。底は全体的に平坦で、立ち上がりは緩やかに傾斜。

出土遺物 (第 8・9 図)

3・4 は染付の皿で、3 の胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付けは釉剥ぎが施される。外面に唐草、内面に松竹文、見込みにコンニャク印判、高台内に寿が描かれる。口径 (14.4cm)、器高 4.4cm、高台径 (7.9cm)。4 の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、高台は蛇ノ目釉剥ぎが施される。見込みに、山水文が描かれる。口径 12.8cm、器高 3.3cm、高台径 7.2cm。輪花口縁。

5・6 は染付の碗で、5 の胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付けは蛇ノ目釉剥ぎが施される。見込みに、砂が付着する。外面に草花文、見込みに花が描かれる。口径 11.2cm、器高 5.9cm、高台径 4.5cm。6 の胎土は灰白色を呈し、全体に釉が施され、畳付けは釉剥ぎが施される。外面の口縁部と同部下に、亀甲文が描かれる。口径 (10.8cm)、器高 7.4cm、高台



第6図 出来町遺跡基本土層図（1/40）

径（4.9cm）。7は陶器の碗で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。外面はケズリによる調整が施される。口径8.4cm、器高4.5cm、高台径3.7cm。

8は染付の仏飯器で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は蛇ノ目釉剥ぎが施される。口径（8.0cm）、器高6.3cm、高台径5.4cm。9～10は陶器の播鉢で、9の胎土は橙色を呈す。外面はヨコナデ、内面は櫛描文が施される。口径（30.6cm）、器高11.2cm、底径（11.8cm）。10の胎土は暗褐色を呈し、全体に釉が施される。高台には、砂が付着し畳付は露胎となる。内面は櫛描文が施され、上部及び見込みに指頭圧痕が残る。口径（33.4cm）、器高13.6cm、底径（13.8cm）。11は陶器の鉢で、胎土は暗黄色を呈す。全体に露胎であるが、一部鉄釉が筆で施される。口径（33.2cm）、器高16.9cm、底径（21cm）。

SK-3（第7図）

調査区の北西隅に位置する円形の土坑で、長軸0.9m・短軸0.5m、深さは最深部で0.24mを測る。底は全体的に平坦で、立ち上がりは垂直に近い。

出土遺物（第9図）

12は陶器の埴で、胎土は灰黄色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径（9.4cm）、器高5.3cm、高台径3.9cm

SK-4（第5図）

出土遺物（第9図）

13は陶器の播鉢で、胎土は赤褐色を呈す。内面に櫛描文が施される。口径（30.8cm）、器高7.3cm以上。

SK-8 (第7図)

調査区の西隅に位置する不定形の土坑で柱穴を伴う、長軸 0.7m・短軸 0.5m、深さは最深部で 1.2m を測る。底は全体的に平坦で、立ち上がりは垂直に近い。

出土遺物 (第9図)

14 は土師質の皿で、胎土は暗黄色を呈す。外面及び内面はヨコナデによる調整が施される。内口径 (8.8cm)、器高 2.3cm、底径 (4.5cm)

SK-10 (第7図)

調査区の西に位置する不定形の土坑、長軸 0.9m・短軸 0.8m、深さは最深部で 0.1m を測る。底は全体的に平坦で、立ち上がりは緩やかに傾斜。

実測にたえられる遺物は出土していない。

SK-16 (第5図)

出土遺物 (第9図)

16 は土師質の甕で、胎土は灰黄色を呈す。内面及び外面の器壁はハケ目、底部はナデによる調整が施される。口径 46.2cm 以上、器高 26.1cm 以上、底径 31.0cm。

SK-18 (第7図)

調査区の南西に位置する不定形の土坑、長軸 0.8m・短軸 0.3m、深さは最深部で 0.1m を測る。底は全体的に平坦で、立ち上がりは緩やかな傾斜。

出土遺物 (第9図)

15 は染付の碗で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。外面に草花文、高台に 2 条の界線が描かれる。口径不明、器高 2.7cm 以上、高台径 4.1cm。

SK-19 (第7図)

調査区の西に位置する楕円形の土坑で、東側でピット状に深くなっている。長軸 1.2m・短軸 0.7m、深さは最深部で 0.6m を測る。壁の立ち上がりは急角度に傾斜。

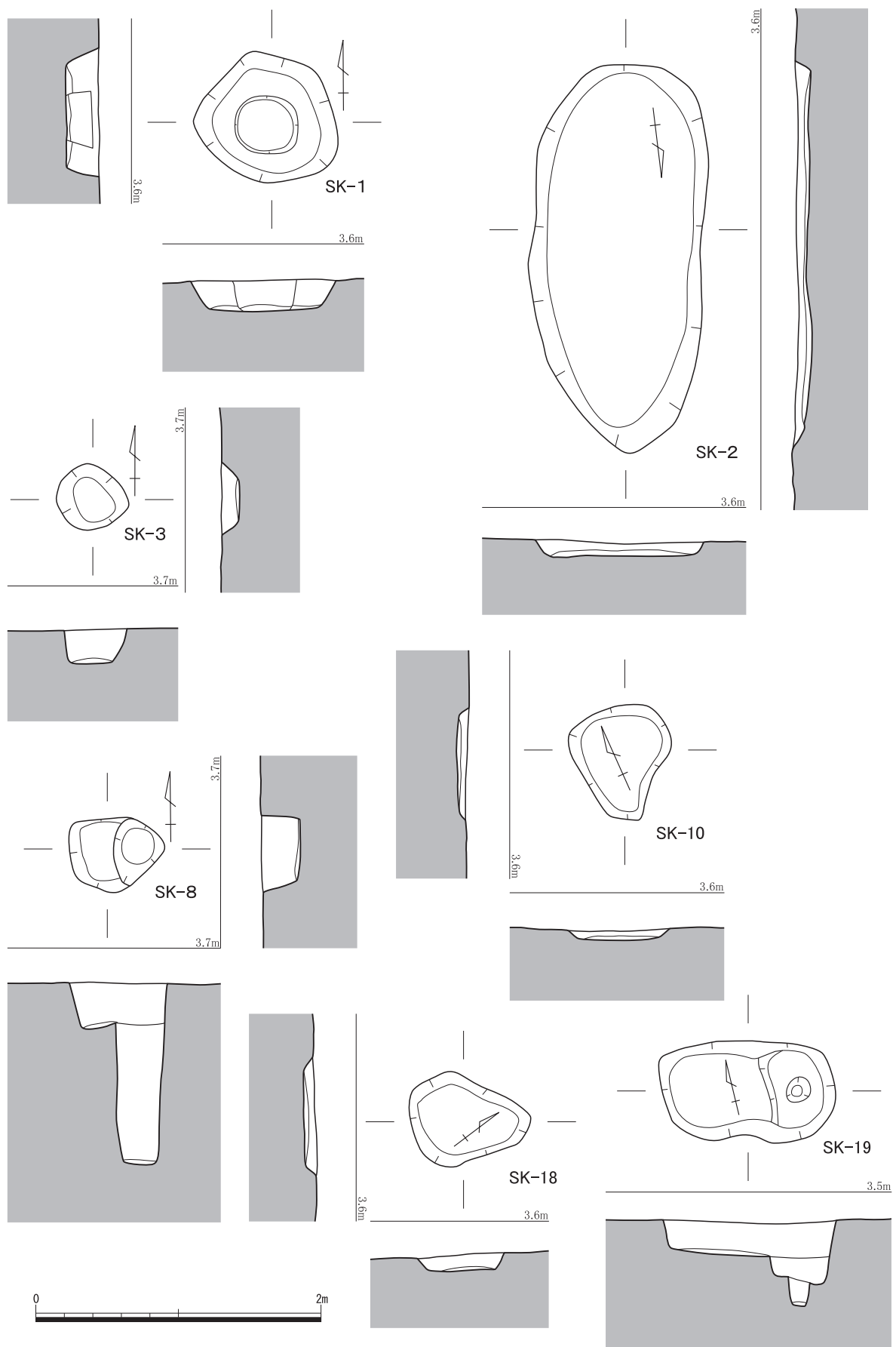
出土遺物 (第11図)

17 は土師質の皿で、胎土は暗黄色を呈す。内面及び外面は、ヨコナデによる調整が施される。口径 (8.6cm)、器高 2.2cm、高台径 4.0cm。18 は陶器の皿で、胎土は淡黄色を呈す。全体に釉が施され、畳付は切削り出し高台で露胎。口径不明、器高 2.6cm 以上、高台径 (5.9cm)。19 は陶器の碗で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は露胎。見込みに、鉄釉により風景が描かれる。口径 (9.3cm)、器高 4.4cm、高台径 3.5cm。

SK-20 (第10図)

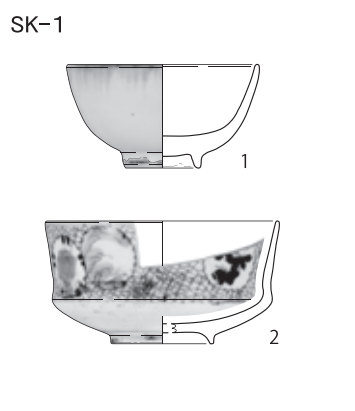
調査区の北西に位置する楕円形の土坑で、長軸 1.1m・短軸 0.9m、深さは最深部で 0.1m を測る。底は平坦面であるが、南側で一段深くなる。壁の立ち上がりは緩やかな角度で傾斜。

出土遺物 (第11図)

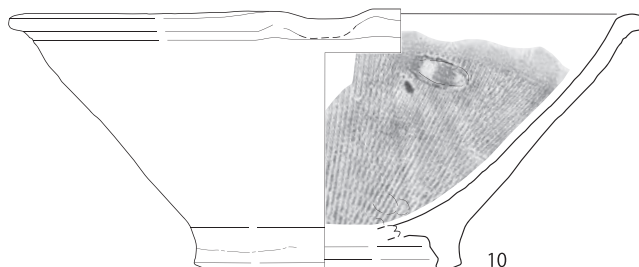
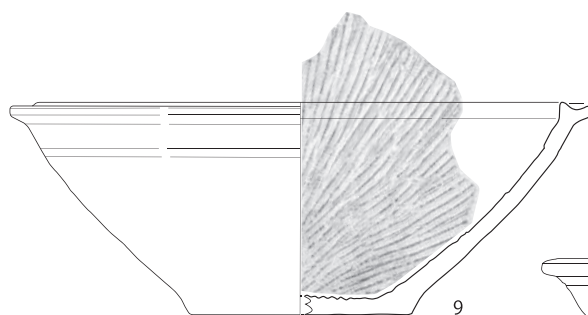
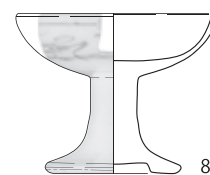
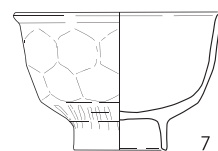
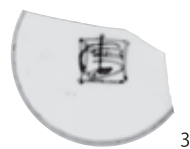
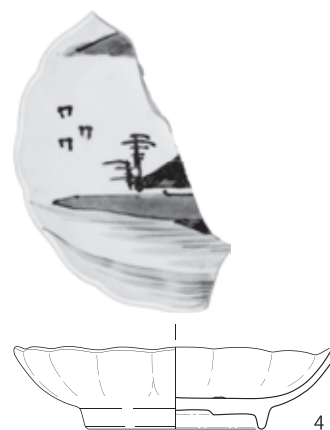
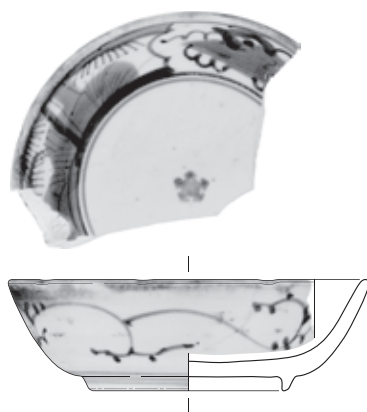
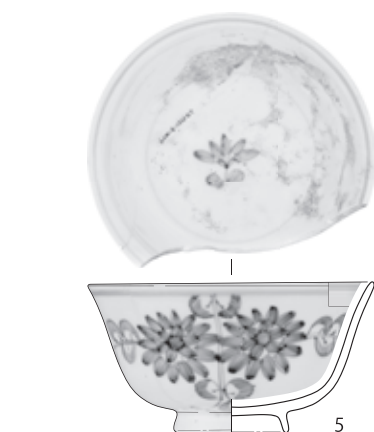


第7図 SK - 1~3・8・10・18・19実測図 (1/40)

SK-1

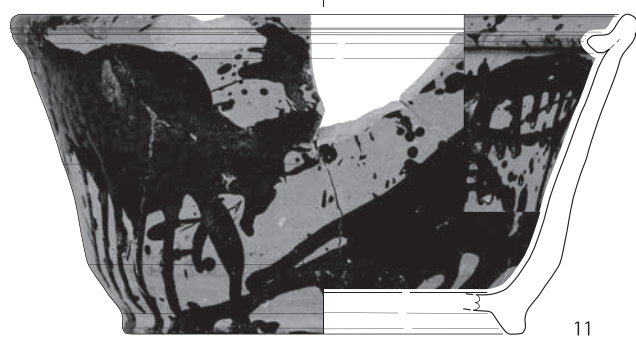
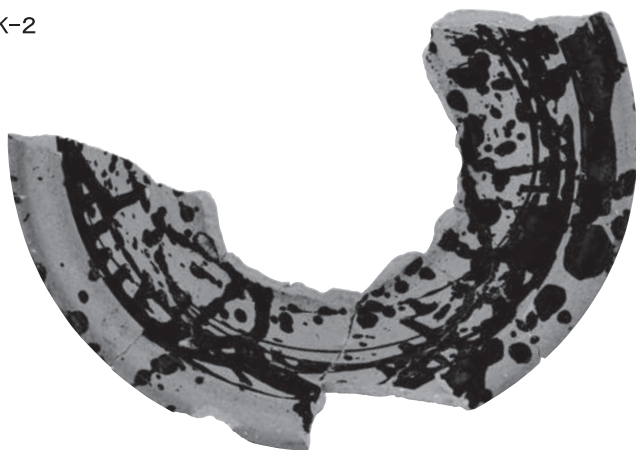


SK-2

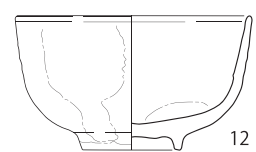


第 8 図 SK - 1・2 出土遺物実測図 (9・10 は 1/4、他は 1/3)

SK-2



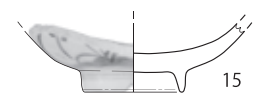
SK-3



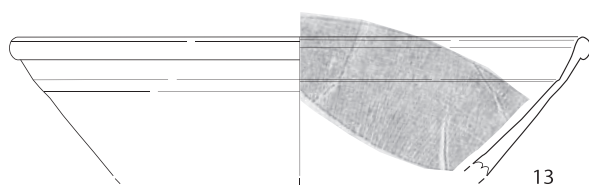
SK-8



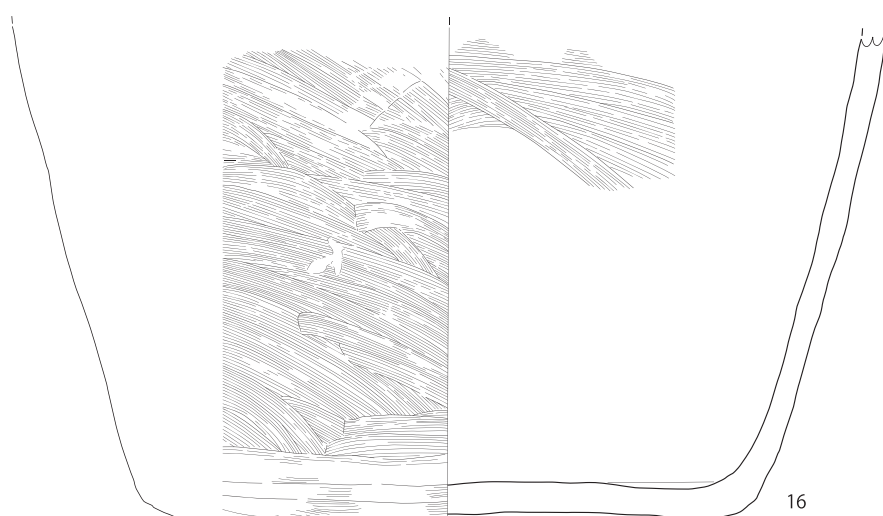
SK-18



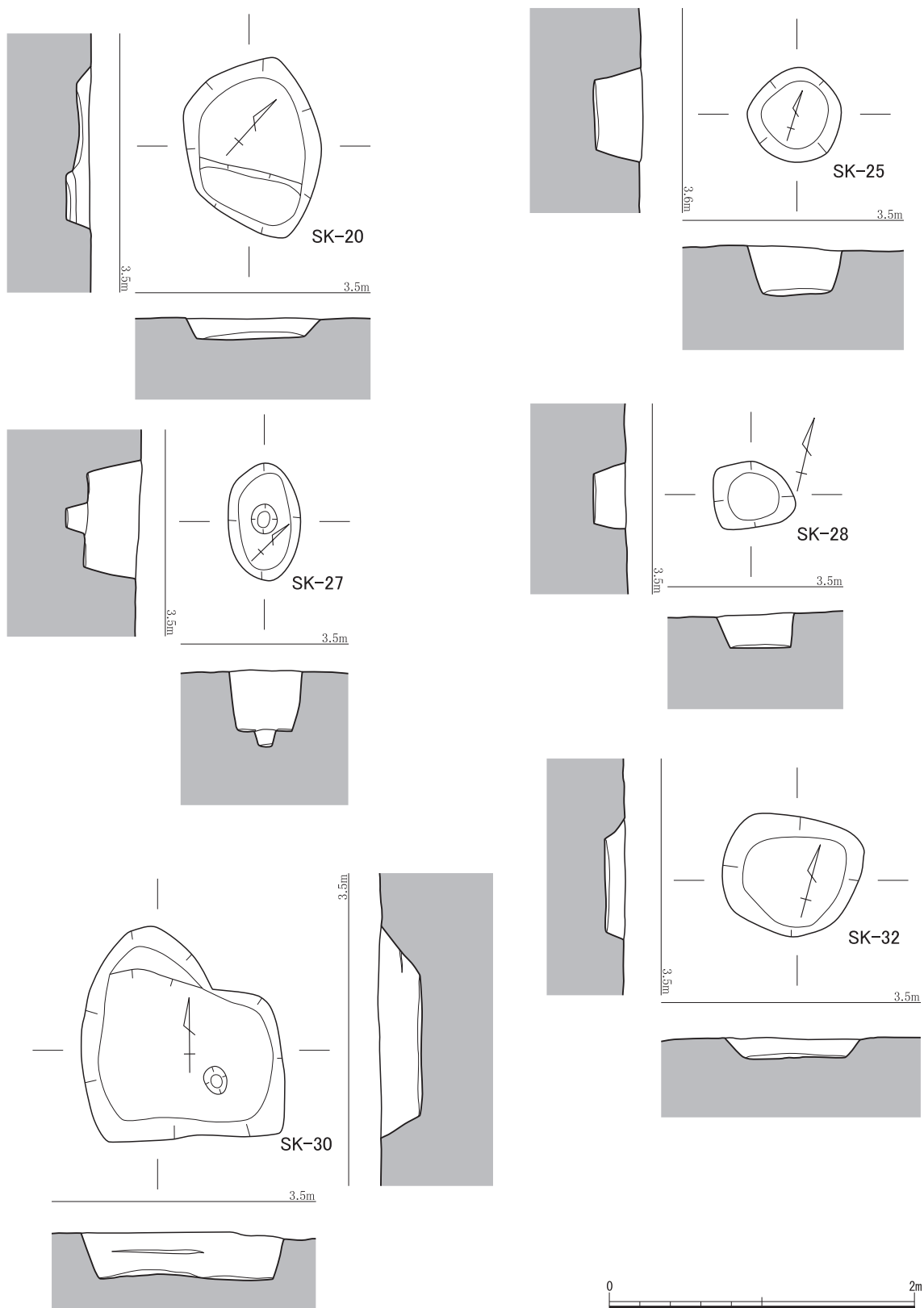
SK-4



SK-16



第9図 SK - 2~4・8・16・18 出土遺物実測図 (11・13・16 は 1/4、他は 1/3)



第 10 図 SK - 20・25・27・28・30・32 実測図 (1/40)

20 は白磁の小坏で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は露胎。口径不明、器高 1.9cm 以上、高台径 (3.5cm)。21 は銅銭で、寛永通宝。

SK-25 (第 10 図)

調査区の北、SK-1 の南西に位置する円形の土坑で、長軸 0.6m・短軸 0.6m、深さは最深部で 0.4m を測る。底は平坦面で、壁の立ち上がりはほぼ垂直に傾斜。

実測に耐えられる遺物は出土しなかった。

SK-27 (第 10 図)

調査区の西、SK-19 の東に位置する楕円形の土坑で、中央はピット状に深くなっている。長軸 0.8m・短軸 0.5m、深さは最深部で 0.5m を測る。壁の立ち上がりはほぼ垂直に傾斜。

出土遺物 (第 11 図)

22 は白磁の小坏で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は露胎、砂が付着する。口径 (6.6cm)、器高 3.9cm、高台径 2.3cm。23 は染付の碗で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は露胎。外面に、草花文、高台に 2 条の界線が描かれる。口径 (10.5cm)、器高 5.1cm、高台径 (4.5cm)。

SK-28 (図版 3、第 10 図)

調査区の西、SK-27 の南に位置する不定形の土坑で、長軸 0.5m・短軸 0.4m、深さは最深部で 0.2m を測る。東側の壁の立ち上がりはほぼ垂直に傾斜し、西側ではやや急に傾斜。

出土遺物 (図版 8、第 11 図)

24 は陶器の徳利で、胎土は灰白色を呈す。外面は釉が施され、畳付は釉剥ぎが施され、内面は露胎。器高 17.0cm、高台径 7.9cm。25 は陶器の灯明皿で、胎土は暗褐色を呈す。全体に釉が施され、見込みに砂目跡が残る。口径 (8.6cm)、器高 2.2cm、高台径 4.0cm。

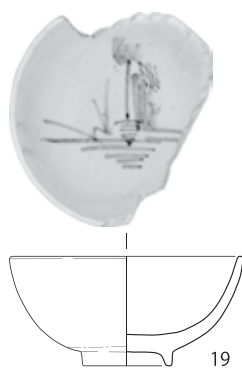
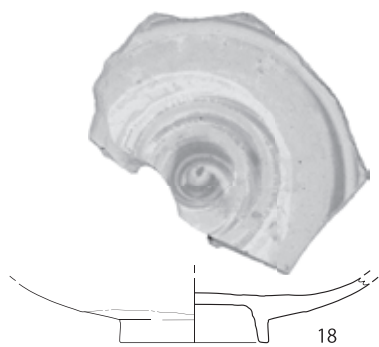
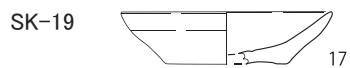
SK-30 (第 10 図)

調査区の南西、SK-19 の南に位置する隅丸方形の土坑で、長軸 1.4m・短軸 1.3m、深さは最深部で 0.3m を測る。底面は平坦で、壁の立ち上がりは急な傾斜。

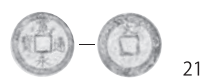
出土遺物 (図版 8、第 11 図)

26 は染付の碗で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。外面に花文、高台に 2 条の界線が描かれる。口径 (9.6cm)、器高 5.1cm、高台径 4.1cm。27 は土師の皿で、胎土は黒褐色を呈す。内面及び外面はヨコナデによる調整が施される。口径 (6.6cm)、器高 3.9cm、高台径 2.3cm。28 は染付の皿で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は露胎。外面に唐草文、見込みに草文が描かれる。口径 10.1cm、器高 2.5cm、高台径 5.6cm。29 は金属製のキセルで、長軸 4.8cm、幅 1.4cm、厚さ 1.1cm。30 は銅銭、劣化が激しく詳細は不明。

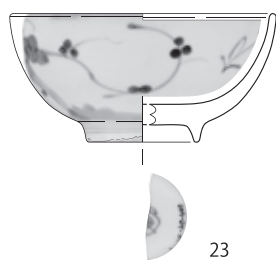
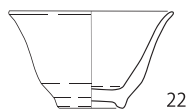
SK-19



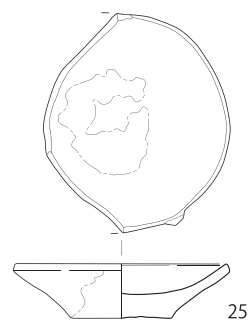
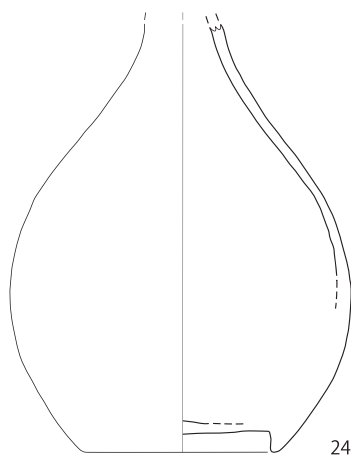
SK-20



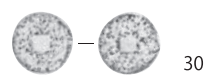
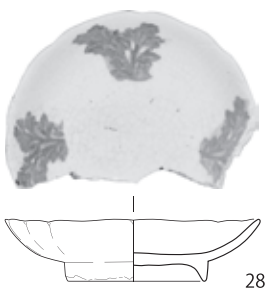
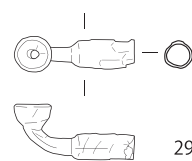
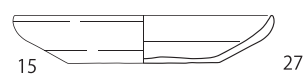
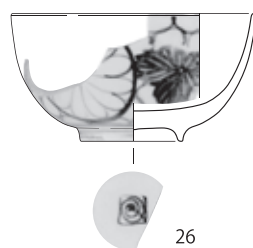
SK-27



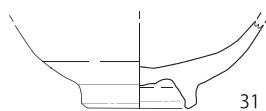
SK-28



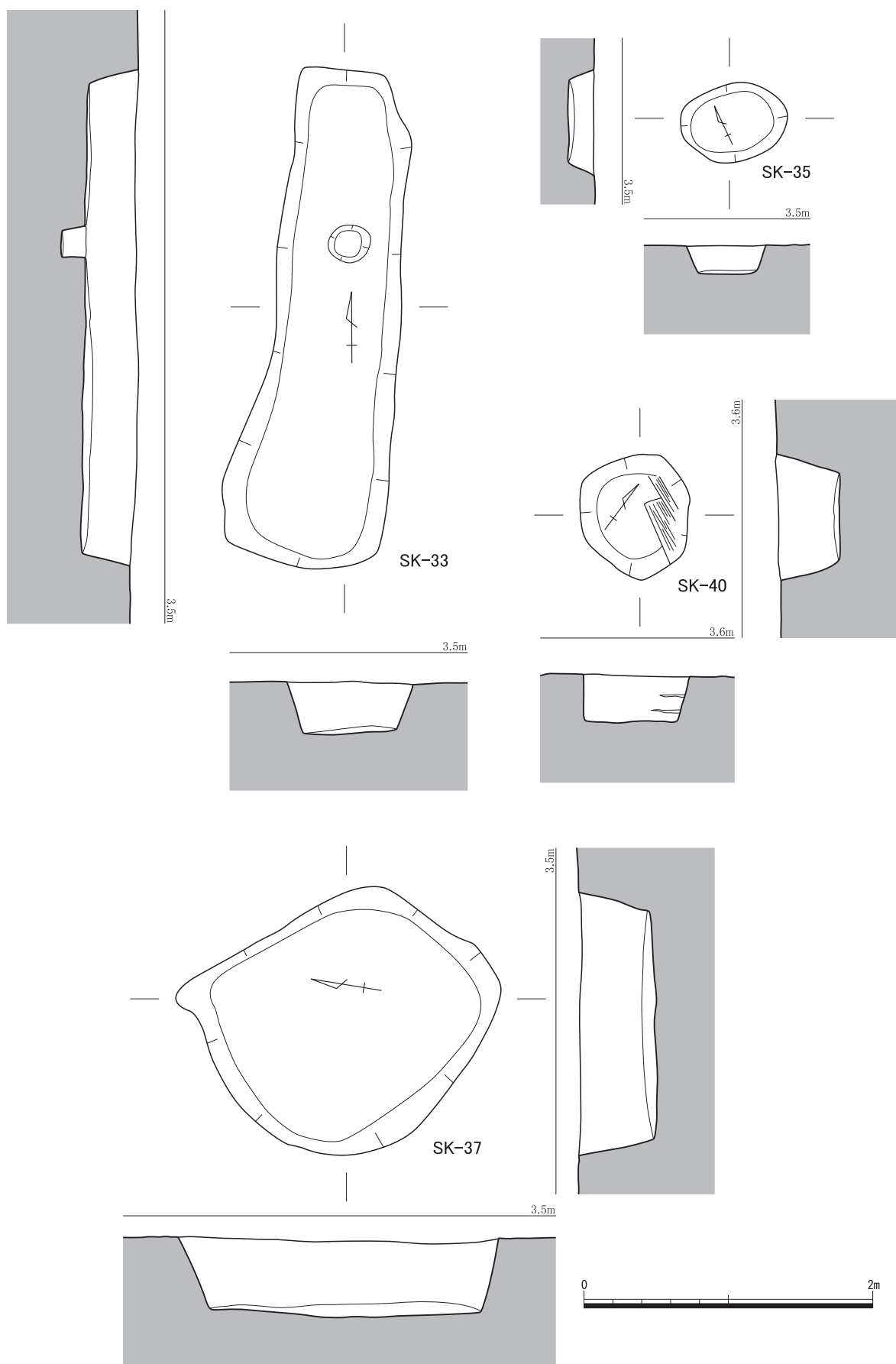
SK-30



SK-32



第11図 SK-19・20・27・28・30・32 出土遺物実測図 (1/3)



第 12 図 SK - 33・35・37・40 実測図 (1/40)

SK-32 (第10図)

調査区の南西、SK-19の東に位置する隅丸方形の土坑で、長軸0.9m・短軸0.8m、深さは最深部で0.1mを測る。底面は平坦で、壁の立ち上がりは急な傾斜。

出土遺物 (第11図)

31は陶器の碗で、胎土は灰褐色を呈す。全体に釉が施され、畳付は露胎。口径不明、器高3.5cm以上、高台径4.6cm。

SK-33 (第12図)

調査区の西、SK-2の西に位置する隅丸長方形の土坑で、北側にピット状に深くなった小穴を伴う。長軸3.5m・短軸0.9m、深さは最深部で0.4mを測り、小穴の深さは0.5m。底面は平坦で、壁の立ち上がりは緩やかな傾斜。

出土遺物 (図版8、第13図)

32は陶器の碗で、胎土は淡黄色を呈す。全体に釉が施され、畳付は露胎。見込みに、鉄釉により絵が描かれる。口径(9.6cm)、器高4.3cm、高台径3.3cm。33は染付の碗で、胎土は黄褐色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。外面に草花文、高台内に文字が描かれる。口径(10.8cm)、器高6.0cm、高台径(4.4cm)。34は陶器の碗で、胎土は淡黄色を呈す。全体に釉が施され、畳付は露胎。見込みに、蛇ノ目釉剥ぎが残る。口径11.2cm、器高4.1cm、高台径4.1cm。35は陶器の火入れで、胎土は灰白色を呈す。外面の上部から高台上部かけて釉が施され、高台は露胎。内面は、部分的に釉が施される。口径(11.4cm)、器高5.5cm、低径(5.3cm)。36は陶器の碗で、胎土は灰黄色を呈す。全体に釉が施され、畳付は露胎。口径(9.5cm)、器高4.9cm、高台径(3.8cm)。37・38は染付の碗で、37の胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。外面に、家紋が描かれる。口径9.9cm、器高4.5cm、高台径5.0cm。38の胎土は灰白色を呈し、全体に釉が施され、畳付及び口縁部釉剥ぎが施される。外面に、扇、花、高台に2条の界線が描かれる。口径(9.6cm)、器高5.6cm、高台径(5.5cm)。39は染付の小杯で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は砂目が残る。外面口縁部に雨降文、高台に2条の界線が描かれる。口径7.9cm、器高4.0cm、高台径3.5cm。40は陶器の灯明皿で、胎土は褐色を呈す。全体に釉が施され、底部は糸切り痕が残る。口径8.4cm、器高1.9cm、低径3.6cm。

SK-35 (第12図)

調査区の西、SK-33の東に位置する楕円形の土坑で、長軸0.7m・短軸0.6m、深さは最深部で0.2mを測る。底面は平坦で、壁の立ち上がりはやや急な傾斜。

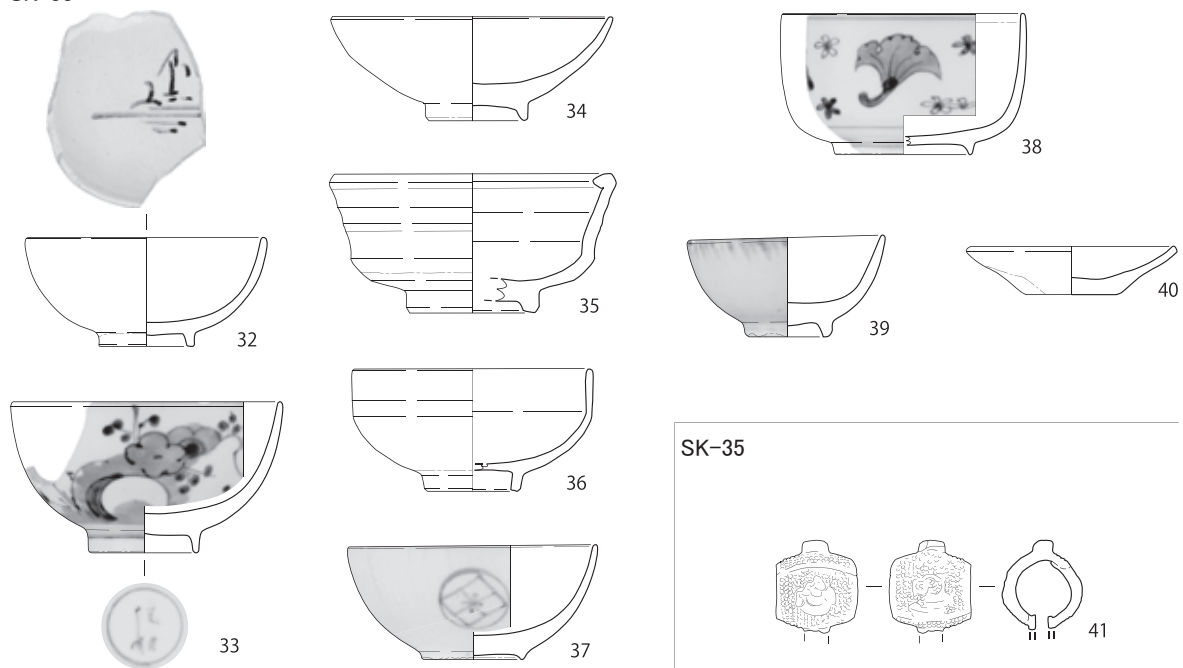
出土遺物 (第13図)

41は土師の土製品で、胎土は暗黄色を呈す。

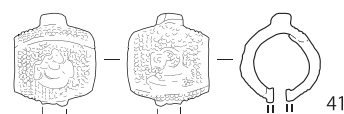
SK-37 (図版4、第12図)

調査区の西、SK-2の東に位置する不定形の土坑で、長軸2.2m・短軸1.8m、深さは最深部で0.5mを測る。底面は平坦で、壁の立ち上がりは急な傾斜。

SK-33



SK-35



SK-37



第13図 SK-33・35・37 出土遺物実測図(1/3)

出土遺物 (図版 8、第 13・14 図)

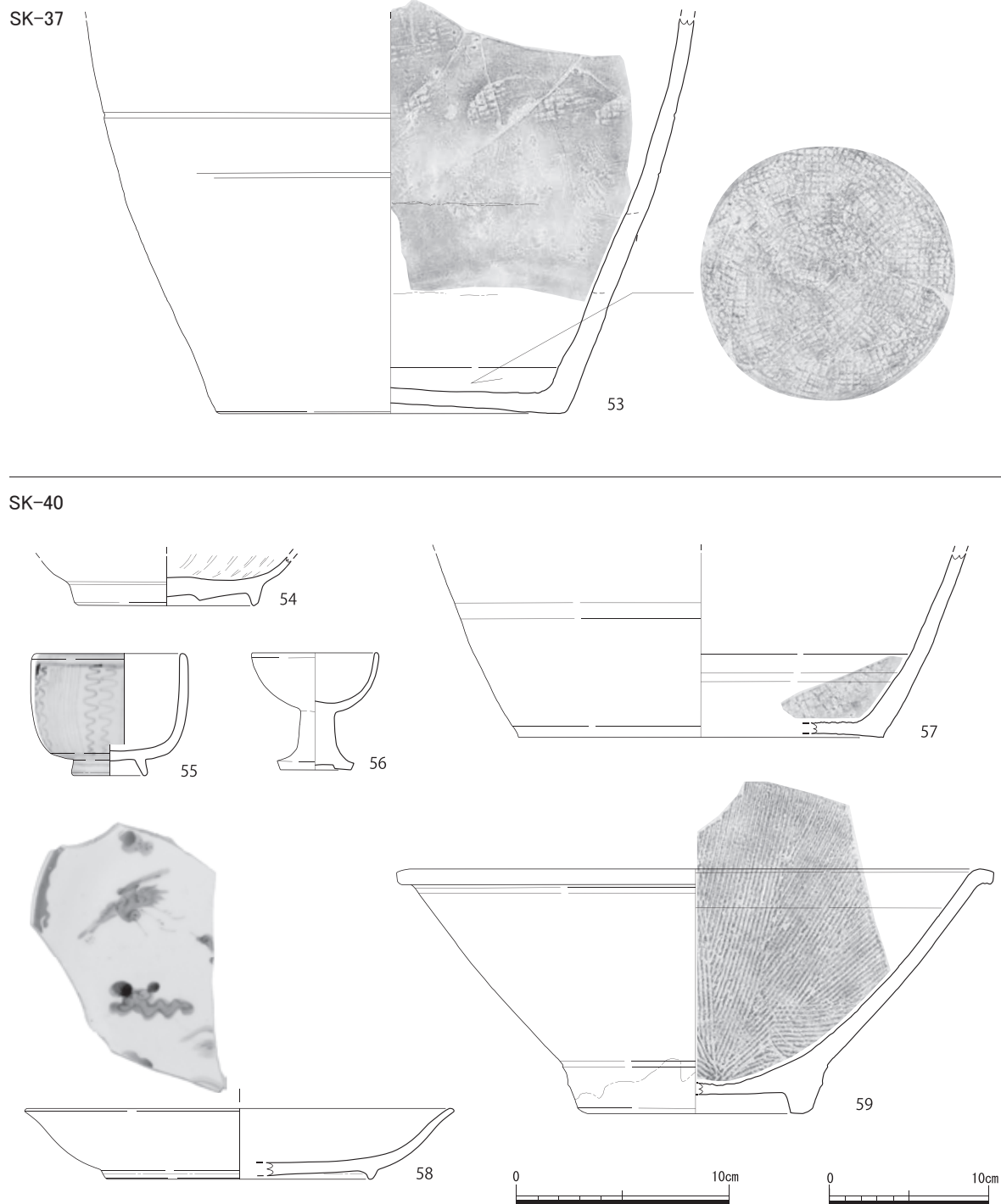
42・43 は染付で、42 は小坏、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。外面口縁部付近に、界線が描かれる。口径 (6.4cm)、器高 3.6cm、高台径 (2.8cm)。43 は小碗で、胎土は暗黄色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。外面に、草文が描かれる。口径 8.2cm、器高 4.5cm、高台径 3.4cm。44 は陶器の碗で、胎土は暗黄色を呈す。全体に釉が施され、畳付は切り出し高台の露胎。口径 (10.0cm)、器高 5.4cm、高台径 3.9cm。45 は染付の碗で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。外面に、山水文が描かれる。見込みに、ハマの痕跡が残る。口径 (11.2cm)、器高 6.0cm、高台径 (4.8cm)。46 は磁器の皿で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 13.3cm、器高 4.0cm、高台径 8.2cm。口縁は輪花口縁。47 は磁器の水注で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、高台は露胎。口径 6.6cm、器高 4.6cm、高台径 4.2cm。48 は陶器の仏飯器で、胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、高台は露胎。口径 (8.0cm)、器高 4.6cm、高台径 4.1cm。49 は白磁の紅皿で、胎土は灰白色を呈す。内面は釉が施され、外面は露胎。口径 4.5cm、器高 1.4cm、高台径 1.4cm。50 は陶器の土瓶で、胎土は明褐色を呈し、外面に櫛描文が描かれる。口径 (10.2cm)、器高 8.2cm 以上。51 は陶器の土鍋で、胎土は灰黄色を呈す。内面及び外面胴部にかけて釉が施され、胴部下縁は無釉。口径 (8.5cm)、器高 6.4cm 以上。52 は土師質の土製品で、胎土は暗褐色を呈す。53 は陶器の鉢で、胎土は灰色。内面及び底部にタタキの痕跡が残る。

SK-40 (第 12 図)

調査区の北、SK-37 の北に位置する不定形の土坑で、長軸 0.9 m・短軸 0.8 m、深さは最深部で 0.3 m を測る。土坑の壁から板材を出土し、土坑底面は平坦で、西側の立ち上がりはほぼ垂直な傾斜。

出土遺物 (第 14 図)

54 は磁器の皿で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、高台は露胎。口径不明、器高 2.3cm 以上、高台径 (8.6cm)。55 は染付の碗で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。外面胴部に、雨降文が描かれる。口径 (7.3cm)、器高 5.2cm、高台径 (3.6cm)。56 は磁器の仏飯器で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、高台は露胎。口径 (6.0cm)、器高 5.5cm、高台径 3.6cm。57 は陶器の甕で、胎土は褐灰色を呈す。全体に釉が施され、内面及び外面底部は砂目跡が残る。内面底部は、タタキの痕跡が残る。口径不明、器高 11.5cm 以上、底径 (22.8cm)。58 は染付の皿で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。見込みに、鳥文が描かれる。口径 (20.2cm)、器高 3.3cm、高台径 (12.6cm)。59 は陶器の播鉢で、胎土は暗赤褐色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施され、高台に砂目跡が残る。内面は、櫛描文が描かれる。口径 (37.2cm)、器高 15.3cm、高台径 (14.2cm)。60・61 は下駄で、60 は長軸 22.5cm、幅 8.8cm、厚さ 3.0cm。61 は、長軸 22.5cm、幅 9.5cm、厚さ 3.3cm。



第14図 SK - 37・40 出土遺物実測図 (53・57・59は1/4、他は1/3)

SK-41 (第16図)

調査区の北、SK-40の南に位置するほぼ円形の土坑で、長軸0.7m・短軸0.7m、深さは最深部で0.5mを測る。底面は平坦で、壁の立ち上がりは急な傾斜。

出土遺物 (第15図)

62は陶器の埴で、胎土は灰色を呈す。全体に釉が施され、胴部下部から高台は露胎。口径(7.4cm)、器高5.1cm、高台径(3.8cm)。63は染付の皿で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。内面に、楼閣文。口径(6.1cm)、器高1.4cm、高台径(2.6cm)。64は磁器の戸車で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施される。長径5.2cm、幅2.0cm、厚1.1cm。65は磁器の人形で、胎土は白色を呈す。全体に釉が施される。背面に2ヶ所穿孔を施す。長径6.1cm、幅3.0cm。

SK-42 (第16図)

調査区の北、SK-40の東に位置する楕円形の土坑で、長軸1.0m・短軸0.6m、深さは最深部で0.3mを測る。底面は平坦で、壁の立ち上がりは急な傾斜。

出土遺物 (第15図)

66は染付の花瓶で、胎土は灰色を呈し、全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径不明、器高5.9cm以上、4.0cm。67は染付の碗で、胎土は灰色を呈し、全体に釉が施される。外面口縁部及び胴部下位に雷文、胴部に草花文が描かれる。口径(7.2cm)、器高4.6cm以上、高台径不明。68は染付の皿で、胎土は灰色を呈し、全体に釉が施される。高台は、蛇ノ目釉剥ぎ。内面に雷文が描かれる。口径(14.2cm)、器高3.5cm、高台径(8.6cm)。

SK-43 (図版4、第16図)

調査区の南、SK-37の東に位置するほぼ円形の土坑で、長軸0.7m・短軸0.7m、深さは最深部で0.5mを測る。底面は平坦で、壁の立ち上がりはほぼ垂直。

出土遺物 (第15図)

69・70は染付の碗で、69の胎土は灰色を呈し、全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。外面に笹竹、見込みコンニャク印判が描かれる。口径(8.3cm)、器高6.2cm、高台径4.5cm。70の胎土は灰色を呈し、全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。外面に竹垣が描かれ、見込みに寿の崩し字が描かれる。口径(8.0cm)、器高4.8cm、高台径3.2cm。71は土師器の皿で、胎土は淡黄色を呈す。内面及び外面は、回転などによる調整が施される。底部は、糸切り。口径(10.4cm)、器高2.2cm、高台径6.0cm。

72は漆器の蓋で、外面に赤漆で鳥と草木文が描かれる。器高2.3cm以上。

SK-44 (第16図)

調査区の中央、SK-37の東に位置する楕円形の土坑で、長軸1.5m・短軸0.8m、深さは最深部で0.2mを測る。底面は平坦で、壁の立ち上がりは急な傾斜。

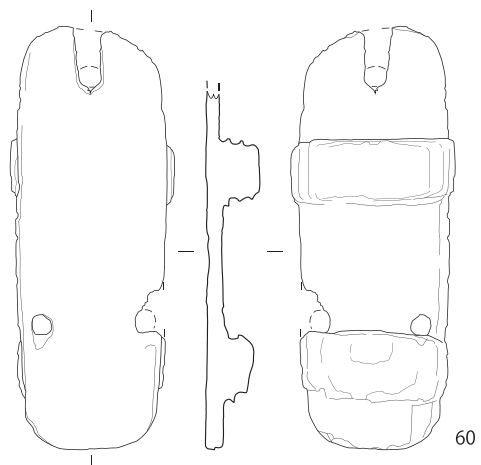
出土遺物 (第18図)

73は染付の碗で、胎土は灰色を呈し、全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径(12.4cm)、器高6.4cm、高台径(6.6cm)。

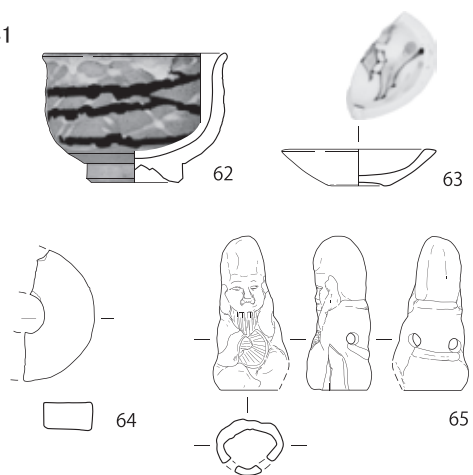
SK-47 (第16図)

調査区の中央、SK-44の東に位置する楕円形の土坑で、長軸1.2m・短軸0.7m、深さは

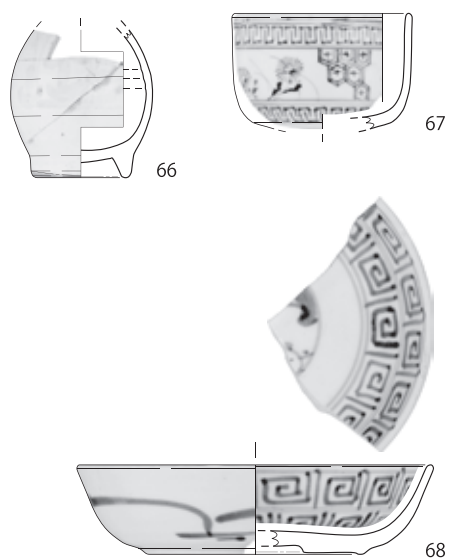
SK-40



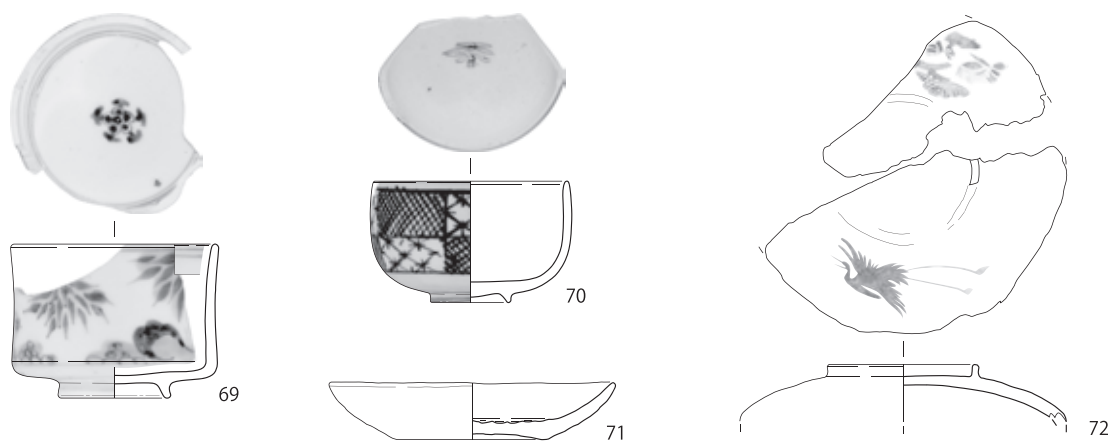
SK-41



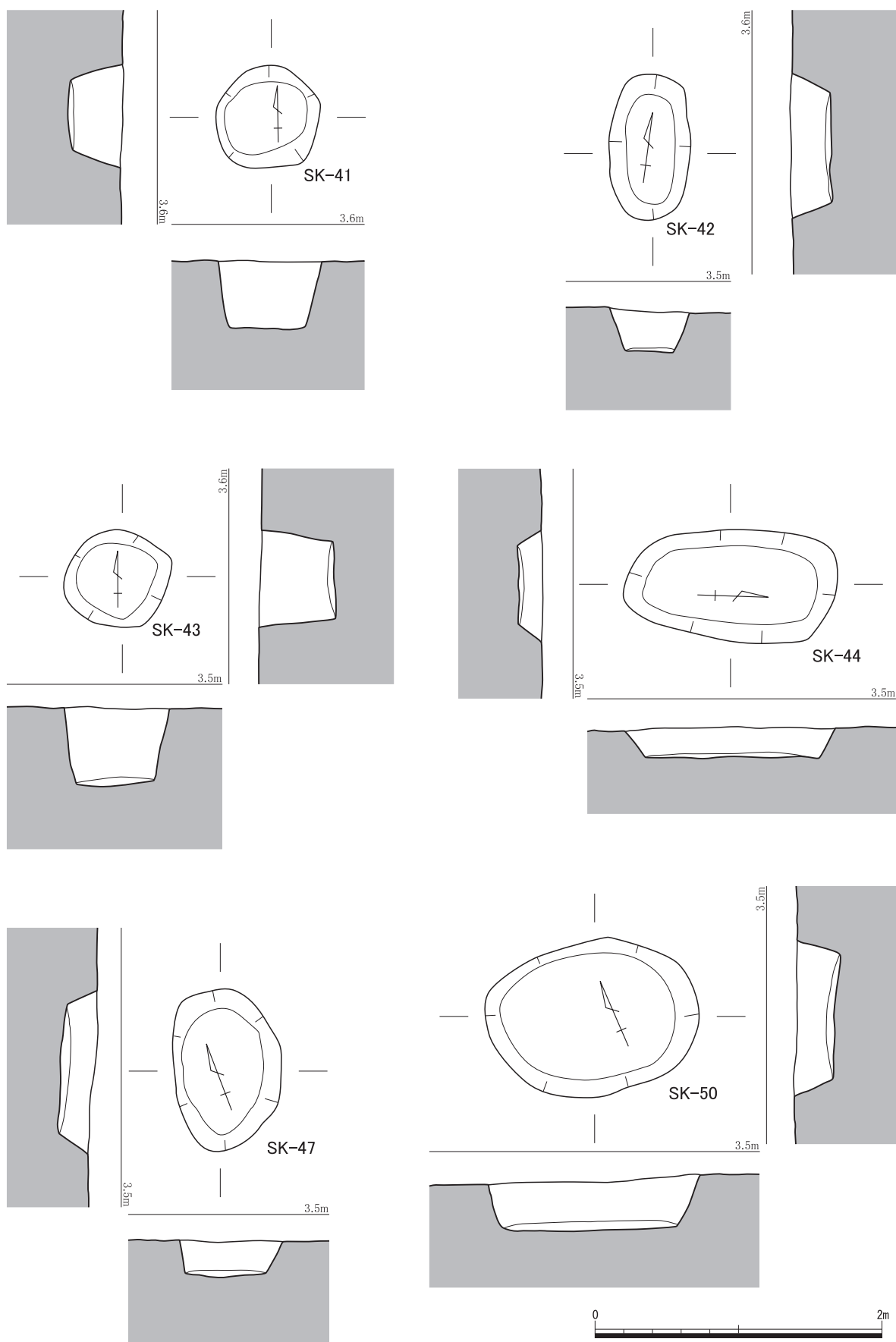
SK-42



SK-43



第 15 図 SK - 40～43 出土遺物実測図 (60・61 は 1/4、他は 1/3)



第16図 SK - 41～44・47・50 実測図 (1/40)

最深部で 0.2m を測る。底面は中央に向かってやや落ち込み、壁の立ち上がりは急な傾斜。

出土遺物 (第 18 図)

74 は磁器の皿で、胎土は灰色を呈し、全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。内面は緑色で、花文が描かれる。口径 (11.2cm)、器高 2.4cm、高台径 (6.1cm)。

SK-49 (第 5 図)

出土遺物 (第 18 図)

75 は陶器の埴で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は露胎。口 8.9cm、器高 4.7cm、高台径 3.2cm。76 は染付の碗で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。見込みに、ハマの痕跡が 3ヶ所残る。口径 10.8cm、器高 5.9cm、高台径 4.5cm。

SK-50 (図版 4、第 15 図)

調査区の中央、SK-47 の北に位置する楕円形の土坑で、長軸 1.5m・短軸 1.1m、深さは最深部で 0.3m を測る。底面は平坦で、壁の立ち上がりは急な傾斜。

実測に耐えられる遺物は出土しなかった。

SK-52 (第 17 図)

調査区の中央、SK-47 の東に位置する隅丸長方形の土坑で、長軸 0.8m・短軸 0.6m、深さは最深部で 0.2m を測る。底面は平坦で、壁の立ち上がりは急な傾斜。

出土遺物 (第 18 図)

77 は染付の碗で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。外面に、笹、高台内面に渦福。口径 9.7cm、器高 5.1cm、高台径 4.8cm。

SK-53 (第 17 図)

調査区の中央、SK-50 の東に位置する円形の土坑で、長軸 0.5m・短軸 0.4m、深さは最深部で 0.2m を測る。底面は平坦で、中央部から柱が出土、壁の立ち上がりは急な傾斜。

出土遺物 (第 18 図)

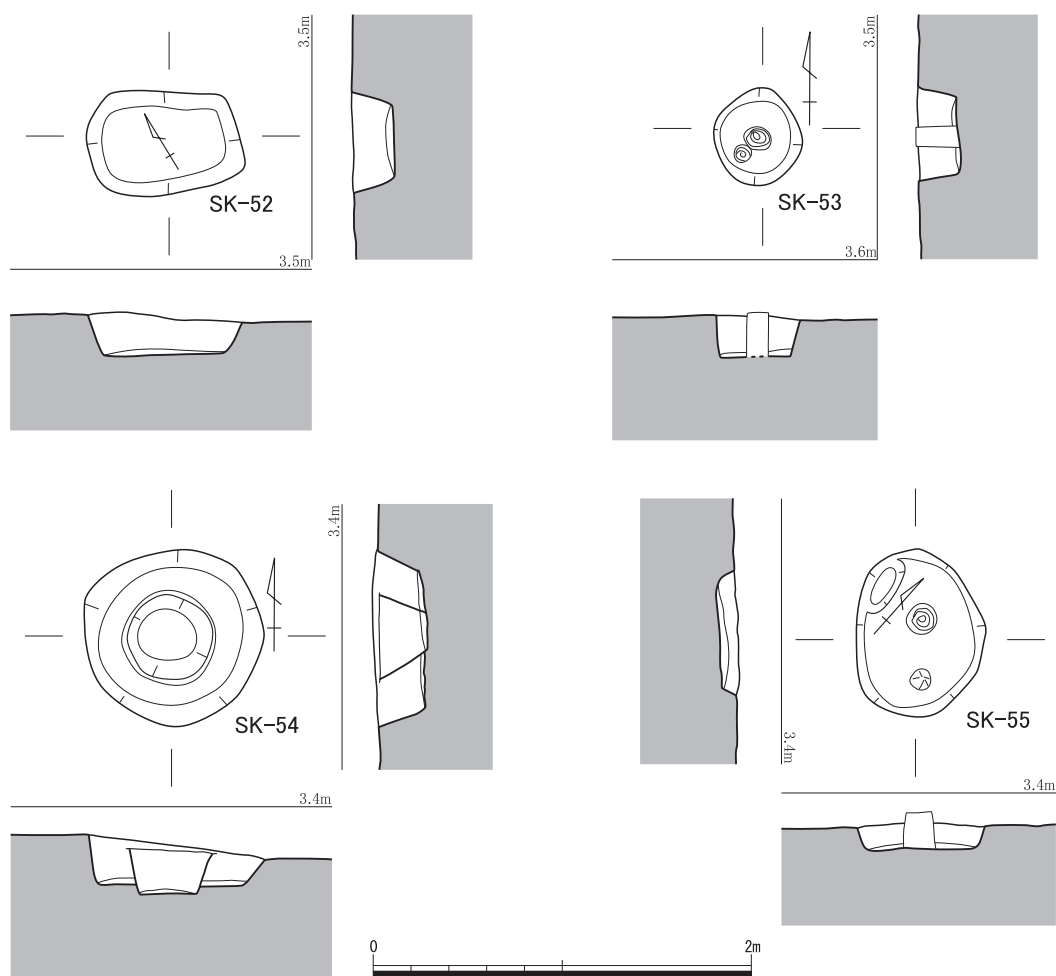
79 は銅製のおろし金で、長軸 20.8cm、幅 9.9cm、厚さ 0.2cm。78 は銅銭、劣化が激しく詳細は不明。

SK-54 (図版 5、第 17 図)

調査区の中央、SK-52 の北に位置する円形の土坑で、長軸 0.9m・短軸 0.9m、深さは最深部で 0.7m を測る。底面は平坦で、土坑中央から甕が出土、壁の立ち上がりは急な傾斜。

出土遺物 (第 18 図)

80 は土師質の小皿で、胎土は橙色を呈す。全体にヨコナデにより調整が施され、底部は糸切り痕が残る。口径 6.0cm、器高 1.9cm、高台径 4.3cm。



第 17 図 SK - 52～55 実測図 (1/40)

SK-55 (第 17 図)

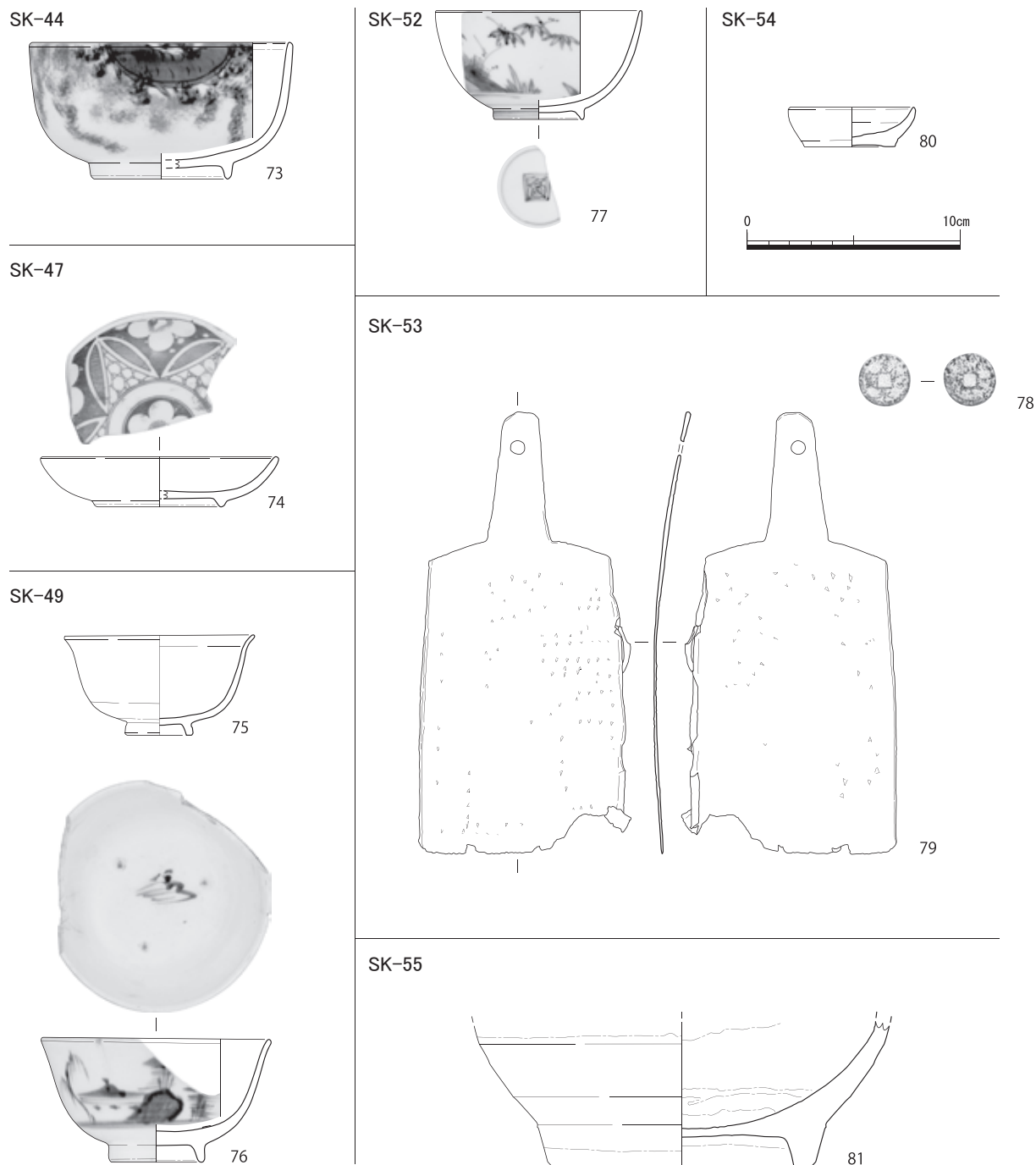
調査区の東、SK - 54 の南に位置する不定形楕円の土坑で、長軸 0.9m・短軸 0.7m、深さは最深部で 0.1m を測る。底面は平坦で、中央部から柱が出土、壁の立ち上がりは急な傾斜。

出土遺物 (第 18 図)

81 は陶器の鉢で、胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、高台は無釉。見込みに、砂目の痕跡が残る。口径不明、器高 6.8cm 以上、底径 (12.6cm)。

2 第 1 区第 1 遺構面その他の出土遺物 (第 19・20 図)

82 は染付の小坏で、82 の胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。外面に、鶴が描かれる。口径 (6.4cm)、器高 4.4cm、高台径 (3.6cm)。83～86 は外面に雨降文が描かれる。83 の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 (7.8cm)、器高 4.2cm、高台径 2.9cm。84 は陶器の小坏で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 8.0cm、器高 4.1cm、高台径 3.2cm。85～



第 18 図 SK - 44・47・49・52～55 出土遺物実測図 (1/3)

86 は染付の碗で、85 の胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施され、砂が付着する。口径 8.7cm、器高 4.6cm、高台径 3.3cm。86 の胎土は灰白色を呈し、全体に釉が施され、高台は露胎。口径 (9.4cm)、器高 5.1cm、高台径 3.1cm。87・88 は染付の碗で、87 の胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎ。見込みに、コンニャク印判の桐文が描かれ、高台内に「大明年製」の文字が描かれる。口径 (10.4cm)、器高 5.4cm、高台径

4.4cm。88の胎土は灰白色を呈し、全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径10.4cm、器高4.8cm、高台径4.4cm。89～96は染付の皿で、89の胎土は、灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎ。見込みに、五弁の花が描かれる。口径(12.8cm)、器高3.5cm、高台径(7.6cm)。90の胎土は灰白色を呈し、全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。外面は唐草文、内面に草花文が描かれる。口径(14.0cm)、器高2.9cm、高台径(8.4cm)。91の胎土は灰白色を呈し、全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎ。見込みは、一部釉剥ぎが施される。口径(12.4cm)、器高3.5cm、高台径(4.4cm)。92の胎土は白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。内面に唐草文、コンニャク印判、外面に唐草文が描かれる。高台内面に、渦福が描かれる。口径(13.3cm)、器高3.2cm、高台径(7.7cm)。口縁は輪花。93の胎土は灰白色を呈し、全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施され、砂目跡が残る。外面は、唐草文が描かれる。口径(13.2cm)、器高3.6cm、高台径(8.0cm)。94は小皿で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。高台内面に、砂が付着する。内面に網目文が描かれる。口径(14cm)、器高2.6cm、高台径(7.7cm)。95の胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径(14.0cm)、器高3.3cm、高台径7.7cm。96の胎土は白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径(19cm)、器高3cm、高台径(9.8cm)。97は色絵の皿で、胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎ。口径(21.0cm)、器高3.0cm、高台径(12.6cm)。口縁は、輪花口縁。98は陶器の蓋で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、穿孔が施される。内面は露胎。口径6.0cm、器高2.3cm。99は陶器の蓋で、胎土は灰白色を呈す。外面上部は釉が施され、内面及び外面中部は露胎。口径8.1cm、器高3.9cm、受部径5.8cm。100は染付の蓋で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径9.5cm、器高2.2cm以上。101は色絵の瓶で、胎土は灰白色を呈す。外面は釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。内面は、ヨコナデによる調整が施される。口径不明、器高13.1cm以上、底径(7.2cm)。102は連菌下駄で、長軸23.2cm、幅8.8cm、厚さ3.0cm。

3 第2調査区第1遺構面土坑

SK-69 (第21図)

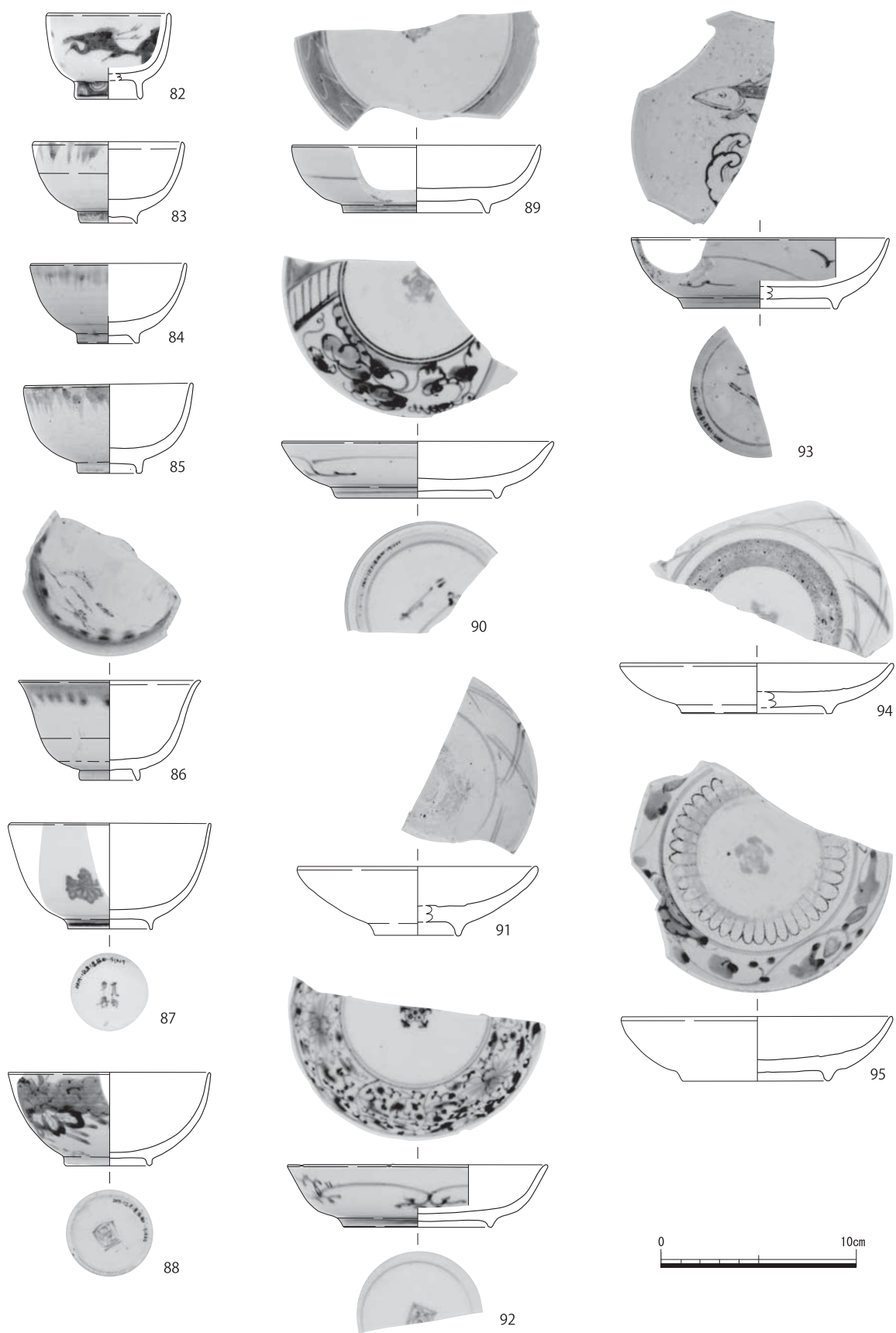
調査区の東南、SK-80の東に位置する不定形の土坑で、長軸2.2m・短軸0.5m、深さは最深部で0.1mを測る。底面は平坦で、中央部でピット状に深くなっており、壁の立ち上がりは急な傾斜。

出土遺物 (第22図)

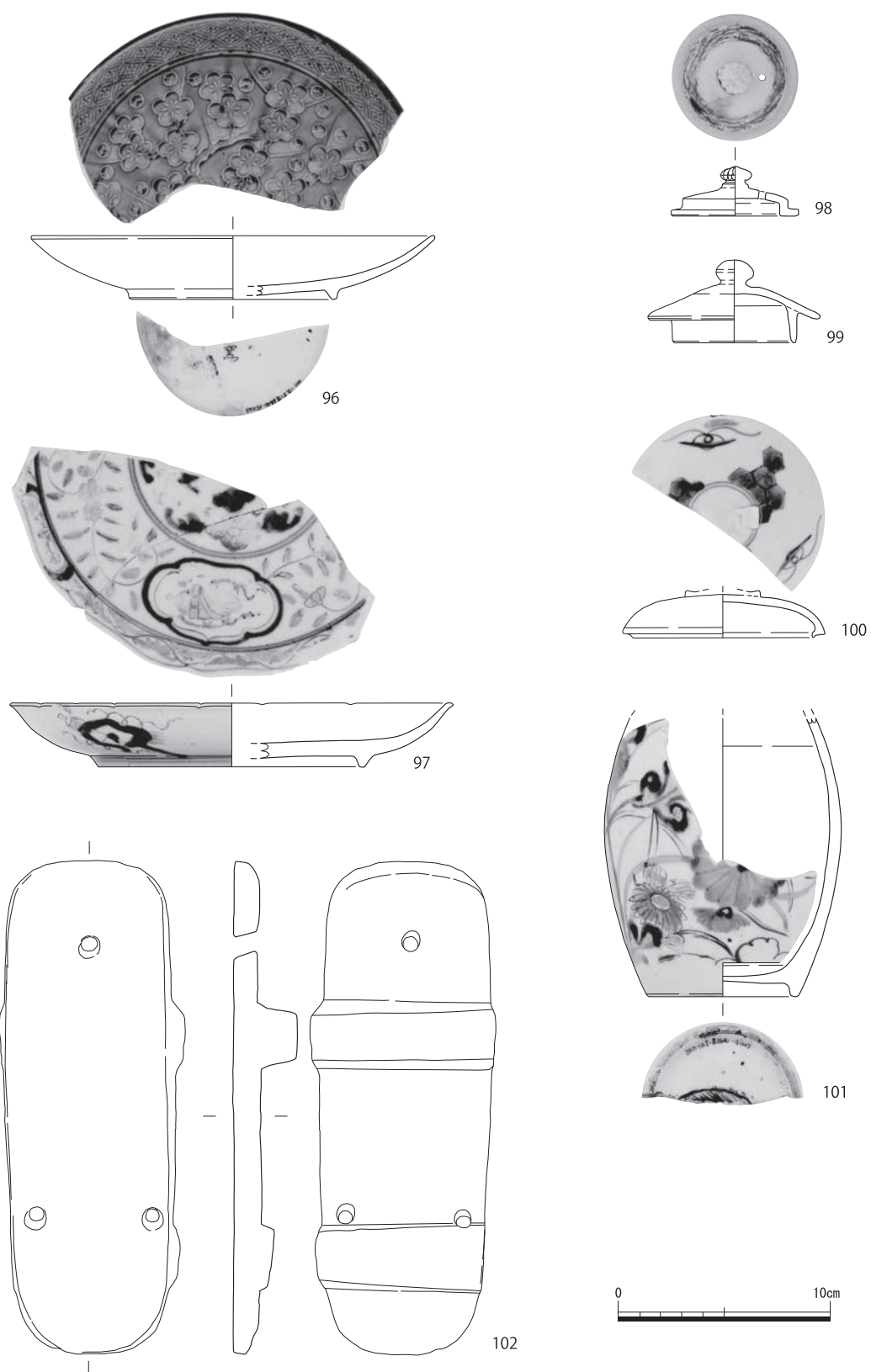
103は磁器の蓋で色絵、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径(5.5cm)、器高1.2cm以上。

SK-80 (第21図)

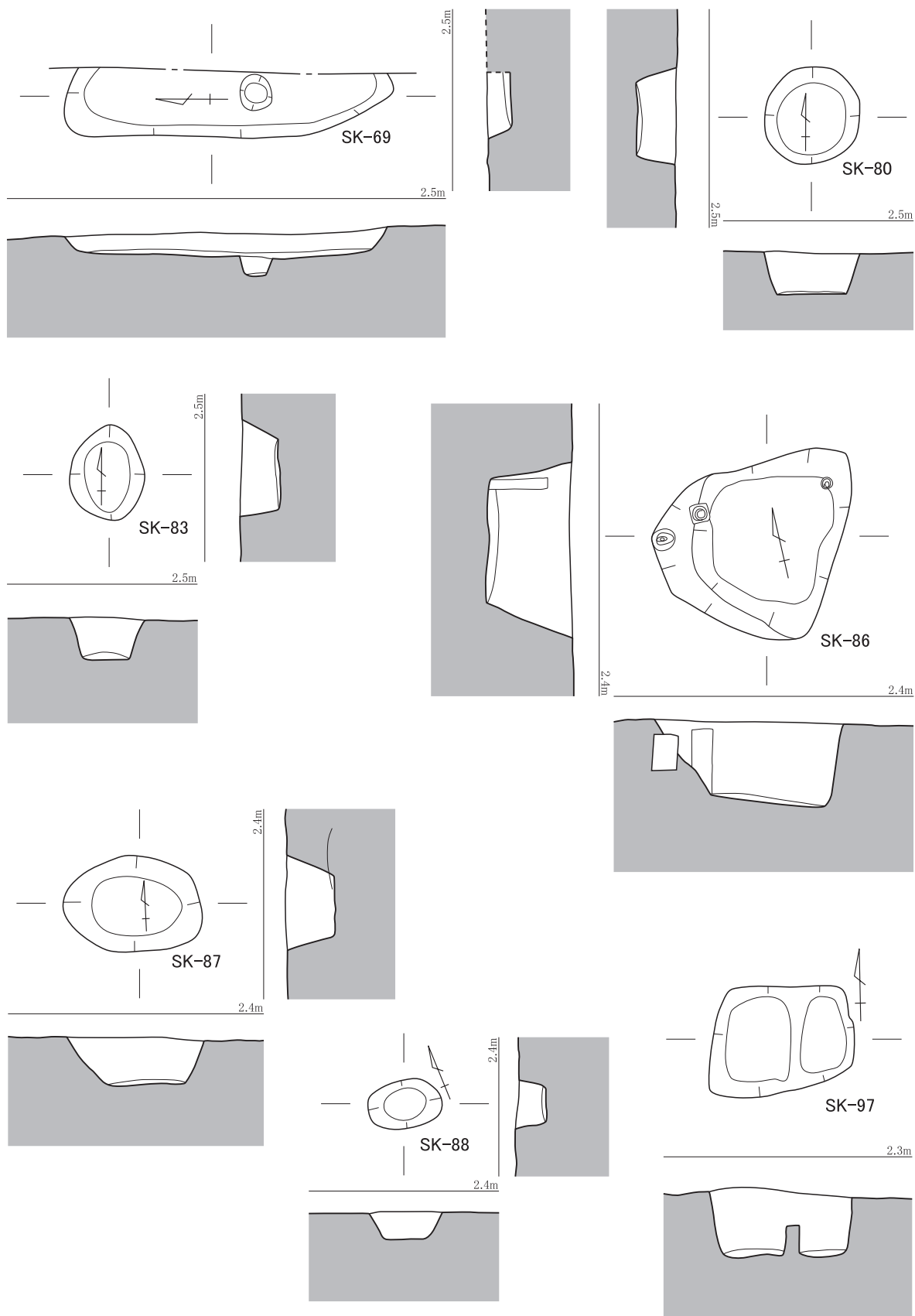
調査区の東南、SK-69の西に位置する円形の土坑で、長軸0.6m・短軸0.6m、深さは最深部で0.1mを測る。底面は平坦で、壁の立ち上がりは急な傾斜。



第 19 図 第 1 区第 1 遺構面出土遺物実測図① (1/3)



第 20 図 第 1 区第 1 遺構面出土遺物実測図② (1/3)



第 21 図 SK - 69・80・83・86～88・97 実測図 (1/40)

実測に耐えられる遺物は出土しなかった。

SK-83 (第21図)

調査区の東南、SK-80の北に位置する楕円形の土坑で、長軸0.7m・短軸0.5m、深さは最深部で0.3mを測る。底面は平坦で、壁の立ち上がりは急な傾斜。

実測に耐えられる遺物は出土しなかった。

SK-86 (図版5、第21図)

調査区の西、SK-87の西に位置する不定形の土坑で、長軸1.3m・短軸1.2m、深さは最深部で0.6mを測る。底面は平坦で、壁の立ち上がりは急な傾斜。西壁面から、杭が出土。

出土遺物 (第22図)

104は染付の皿で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。見込み及び高台内に、ハマの痕跡が残る。口縁部は輪花口縁を呈す。口径(14.7cm)、器高4.3cm、高台径(8.6cm)。105は陶器の高台部分で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径不明、器高4.3cm以上、高台径8.4cm。

SK-87 (第21図)

調査区の南、SK-86の南に位置する楕円形の土坑で、長軸0.9m・短軸0.6m、深さは最深部で0.3mを測る。底面は平坦で、壁の立ち上がりは急な傾斜。

出土遺物 (第22図)

106は染付の碗で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。外面に山水文が描かれ、内面に襷文が描かれる。口径(9.2cm)、器高3.0cm。107は陶器の灯明皿で、胎土は灰白色を呈す。内面は釉が施され、外面は露胎。口径(10.2cm)、器高1.9cm、底径3.9cm。

SK-88 (第21図)

調査区の南、SK-87の西に位置する楕円形の土坑で、長軸0.5m・短軸0.3m、深さは最深部で0.2mを測る。底面は平坦で、壁の立ち上がりは急な傾斜。

実測に耐えられる遺物は出土しなかった。

SK-93 (第5図)

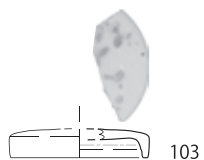
出土遺物 (図版8、第22図)

108は土師質の土製品で、胎土は暗黄色を呈す。全体的にナデによる調整が施される。口径3.0cm、器高2.3cm、底径4.1cm。

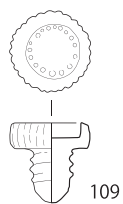
SK-97 (第21図)

調査区の東、SK-86の北に位置する隅丸長方形の土坑で、長軸1.0m・短軸0.7m、深さは最深部で0.5mを測る。底面は平坦で、壁の立ち上がりは急な傾斜。

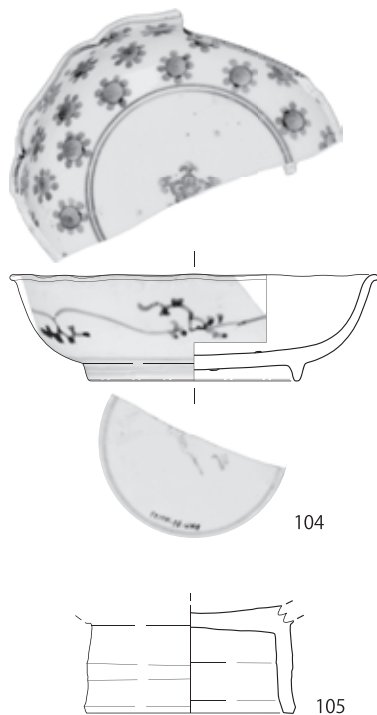
SK-69



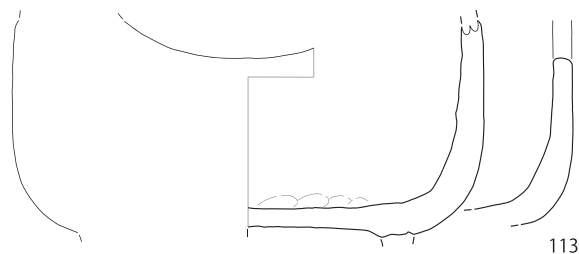
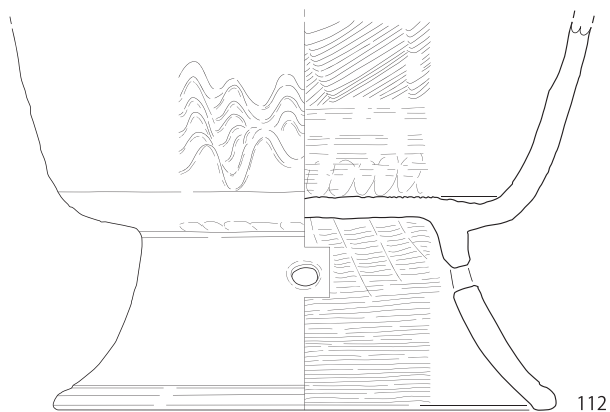
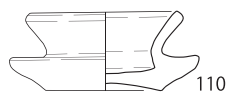
SK-97



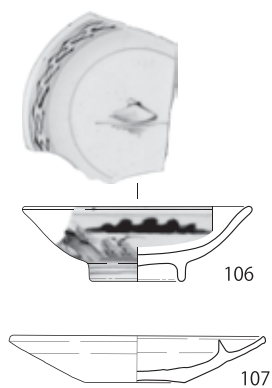
SK-86



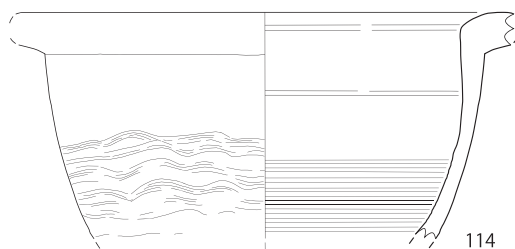
SK-98



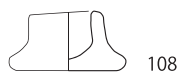
SK-87



SK-99



SK-93



第 22 図 SK - 69・86・87・93・97～99 出土遺物実測図 (112・113 は 1/4、他は 1/3)

出土遺物（第 22 図）

109 はガラスの栓で、胎土はガラス質。長径 3.2cm、幅 3.2cm、厚 3.3cm。

SK-98（第 23 図）

調査区の東、SK-86 の北に位置する不整形な長方形の土坑で、長軸 1.8m・短軸 0.8m、深さは最深部で 0.5m を測る。底面は南東に向かって傾斜し、壁の立ち上がりは垂直に近い傾斜。

出土遺物（図版 8、第 22 図）

110 は陶器の灯明皿で、胎土は赤褐色を呈す。内面から外面中部にかけて釉が施され、高台は露胎。口径 6.2cm、器高 3.1cm、高台径 4.6cm。111 は染付の碗で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。内面口縁部に襷文が描かれ、外面に草花文が描かれる。口径（11.2cm）、器高 3.0cm、高台径（3.8cm）。112 は土師の火鉢で、胎土は灰白色を呈す。内面底部はハケ目、壁面下部は指頭圧痕、壁面中部はハケ目調整後ナデによる調整が施される。外面は、ヨコナデによる調整が施される。脚部に、穿孔が施される。口径 23.0cm 以上、器高 15.0cm 以上、底径（20.0cm）。113 は土師質の鉢で、胎土は淡黄色を呈す。内面及び外面はナデによる調整が施され、底部は部分的に赤彩が残り、内面底部は指頭圧痕が残る。外面底部は、糸切り痕跡が残る。高台は破損部分から、貼付高台であったと考える。口径不明、器高 11.5cm 以上、高台径不明。

SK-99（第 23 図）

調査区の西、SK-108 の西に位置する方形の土坑で、長軸 0.9m・短軸 0.7m、深さは最深部で 0.3m を測る。底面は平坦で、壁の立ち上がりは急な傾斜。

出土遺物（第 22 図）

114 は土師質の甕で、胎土は黒褐色を呈す。内面及び外面上部はヨコナデによる調整、内面中部はカキメによる調整、外面中部は工具によるナデが施される。全体的に釉が施され、口径（20.0cm 以上）、器高 10.0cm 以上。

SK-100（第 23 図）

調査区の西、SK-98 の西に位置する楕円形の土坑で、長軸 0.9m・短軸 0.7m、深さは最深部で 0.3m を測る。底面は平坦で、壁の立ち上がりは急な傾斜。

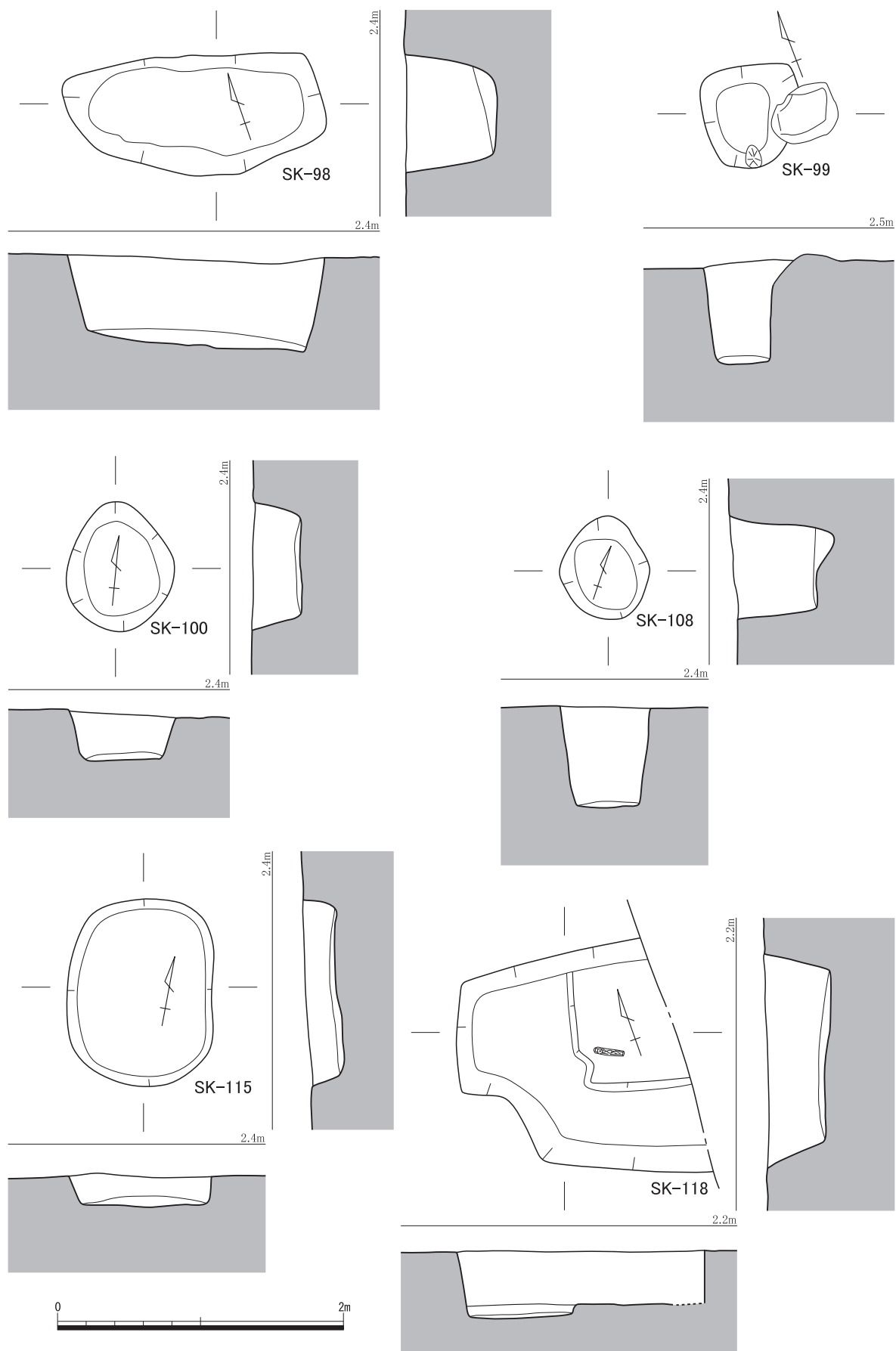
実測に耐えられる遺物は出土しなかった。

SK-108（第 23 図）

調査区の東、SK-98 の東に位置する楕円形の土坑で、長軸 0.9m・短軸 0.7m、深さは最深部で 0.3m を測る。底面は平坦で、壁の立ち上がりは急な傾斜。

SK-115（図版 5、第 23 図）

調査区の中央、SK-98 の北に位置する楕円形の土坑で、長軸 1.4m・短軸 1.7m、深さは



第 23 図 SK - 98~100・108・115・118 実測図 (1/40)

最深部で 0.2m を測る。底面は平坦で、壁の立ち上がりはほぼ垂直な傾斜。

出土遺物 (第 24 図)

115 は陶器の甕で、胎土は明赤褐色を呈す。内面はヨコナデによる調整が施され、外面は釉が施され、畳付は露胎となる。口径不明、器高 10.2cm 以上、底径 (8.0cm)。

SK-117 (第 25 図)

調査区の中央、SK-118 の西に位置する不定形の土坑で、長軸 0.6m・短軸 0.5m、深さは最深部で 0.3m を測る。底面は平坦で、壁の立ち上がりはほぼ垂直な傾斜。

実測に耐えられる遺物は出土しなかった。

SK-118 (図版 6、第 23 図)

調査区の中央、SK-115 の東に位置する不定形の土坑で、長軸 1.5m 以上・短軸 1.5m、深さは最深部で 0.4m を測る。底面に向かって、一段テラス状になり底面は平坦で、壁の立ち上がりはほぼ垂直な傾斜。

出土遺物 (第 24 図)

116 は陶器の播鉢で、胎土は橙色を呈す。内面は底部がナデ、胴部は櫛描文が施される。外面上部はヨコナデ、胴部下部はヘラケズリ、底部はナデによる調整が施される。口径 (29.2 cm)、器高 11.8cm、高台径 (11.9cm)。

SK-120 (第 25 図)

調査区の西、SK-118 の北西に位置する円形の土坑で、長軸 0.8m・短軸 0.8m、深さは最深部で 0.3m を測る。底面は平坦で、壁の立ち上がりはほぼ垂直な傾斜。

出土遺物 (第 24 図)

117 は染付の蓋で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。118 は染付の碗で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。外面に、山水文が描かれる。口径 (10.6cm)、器高 5.5cm、高台径 (4.4cm)。119 は軒丸瓦で、胎土は灰色を呈す、瓦当の文様は右巻の三巴文。長 2.5cm 以上、径 15.1cm、厚さ 2.1cm。

SK-121 (第 25 図)

調査区の西、SK-120 の北に位置する円形の土坑で、長軸 0.4m・短軸 0.3m、深さは最深部で 0.3m を測る。底面は平坦で、壁の立ち上がりはほぼ垂直な傾斜。

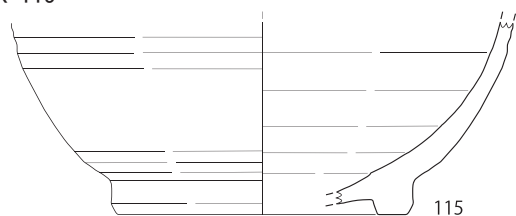
出土遺物 (第 24 図)

120 は陶器の播鉢で、胎土は橙色を呈す。内面は底部がナデ、胴部は櫛描文が施される。外面上部はヨコナデ、胴部下部はヘラケズリ、底部はナデによる調整が施される。口径 (29.2 cm)、器高 11.8cm、高台径 (11.9cm)。

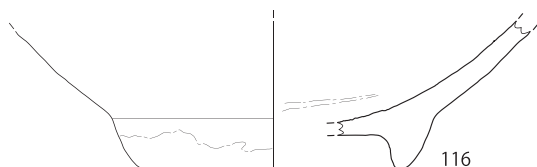
SK-125 (第 25 図)

調査区の東、SK-118 の北に位置する不整形の土坑で、長軸 1.5m・短軸 1.0m、深さは

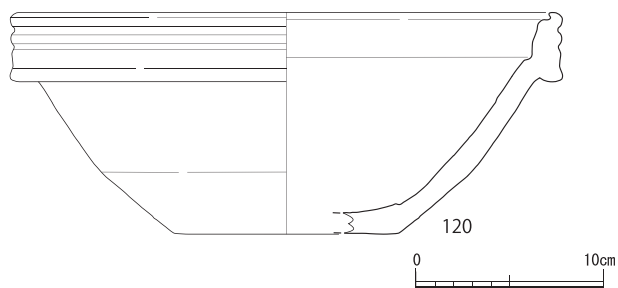
SK-115



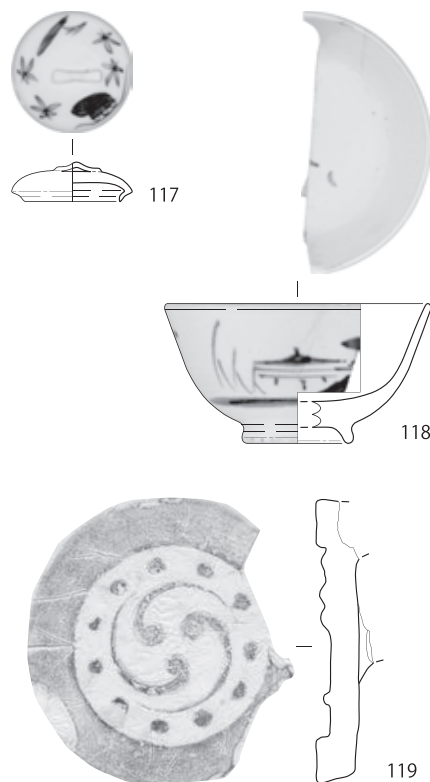
SK-118



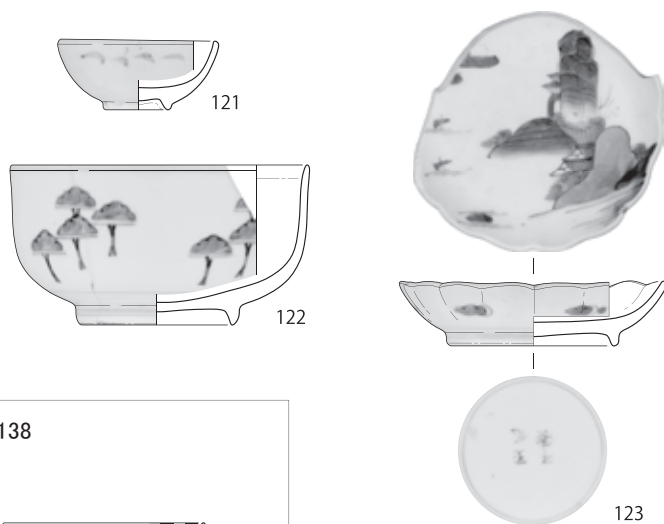
SK-121



SK-120



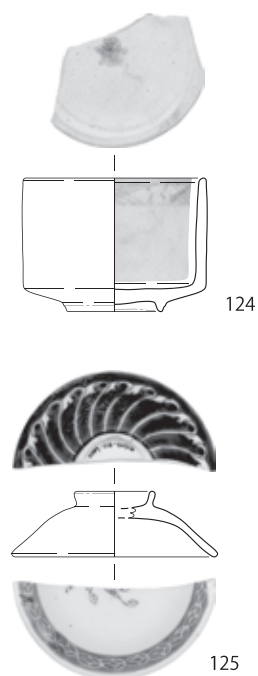
SK-125



SK-138



SK-126



第 24 図 SK - 115・118・120・121・125・126・138 出土遺物実測図
(115・112・119・120 は 1/4、他は 1/3)

最深部で0.5mを測る。壁面はテラス状になっており底面は平坦で、壁の立ち上がりは急な傾斜。

出土遺物（第24図）

121は磁器の小坏で、胎土は黄灰色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉削ぎが施される。口径6.4cm、器高2.8cm、高台径2.2cm。122は染付の鉢で、胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉削ぎが施される。外面に、松が描かれる。口径11.4cm、器高6.4cm、高台径6.4cm。123は染付の皿で、胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉削ぎが施される。外面底部に「或化年製」の文字、見込みに山水文が描かれる。口径10.7cm、器高2.6cm、高台径6.8cm。口縁部は、輪花口縁。

SK-126（第5図）

出土遺物（第24図）

124は磁器の碗で、胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は露胎。口径7.1cm、器高5.3cm、高台径4.0cm。125は染付の蓋で、胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径（8.2cm）、器高2.6cm、つまみ径（3.2cm）。

SK-128（第5図）

調査区の西、SK-120の南に位置する不整形の土坑で、長軸0.6m・短軸0.5m、深さは最深部で0.1mを測る。底面は平坦で、壁の立ち上がりは急な傾斜。

実測に耐えられる遺物は出土しなかった。

SK-138（第25図）

調査区の北西、SD-85の北西に位置する不整形の土坑で、調査区外へ延びる。長軸1.6m・短軸1.1m以上、深さは最深部で0.2mを測る。底面は平坦で、壁の立ち上がりは急な傾斜。底面の南側には、小穴を伴う。

出土遺物（第24図）

126は染付の碗で、胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉削ぎが施される。口径（8.1cm）、器高4.3cm、高台径3.2cm。

SK-140（第5図）

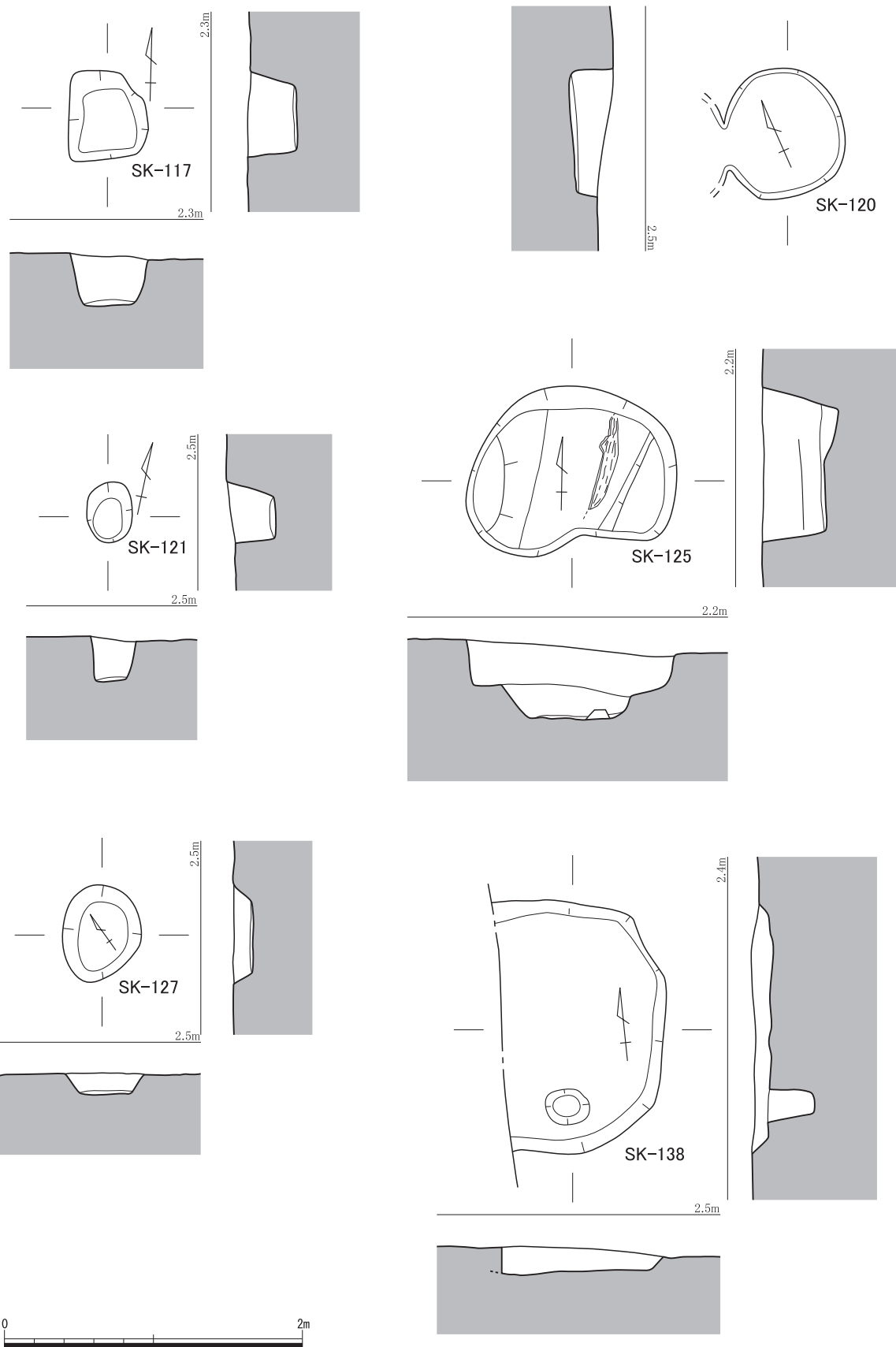
出土遺物（第28図）

127は陶器の人形で、胎土は白色を呈す。長径4.3cm、幅5.8cm、厚2.0cm。

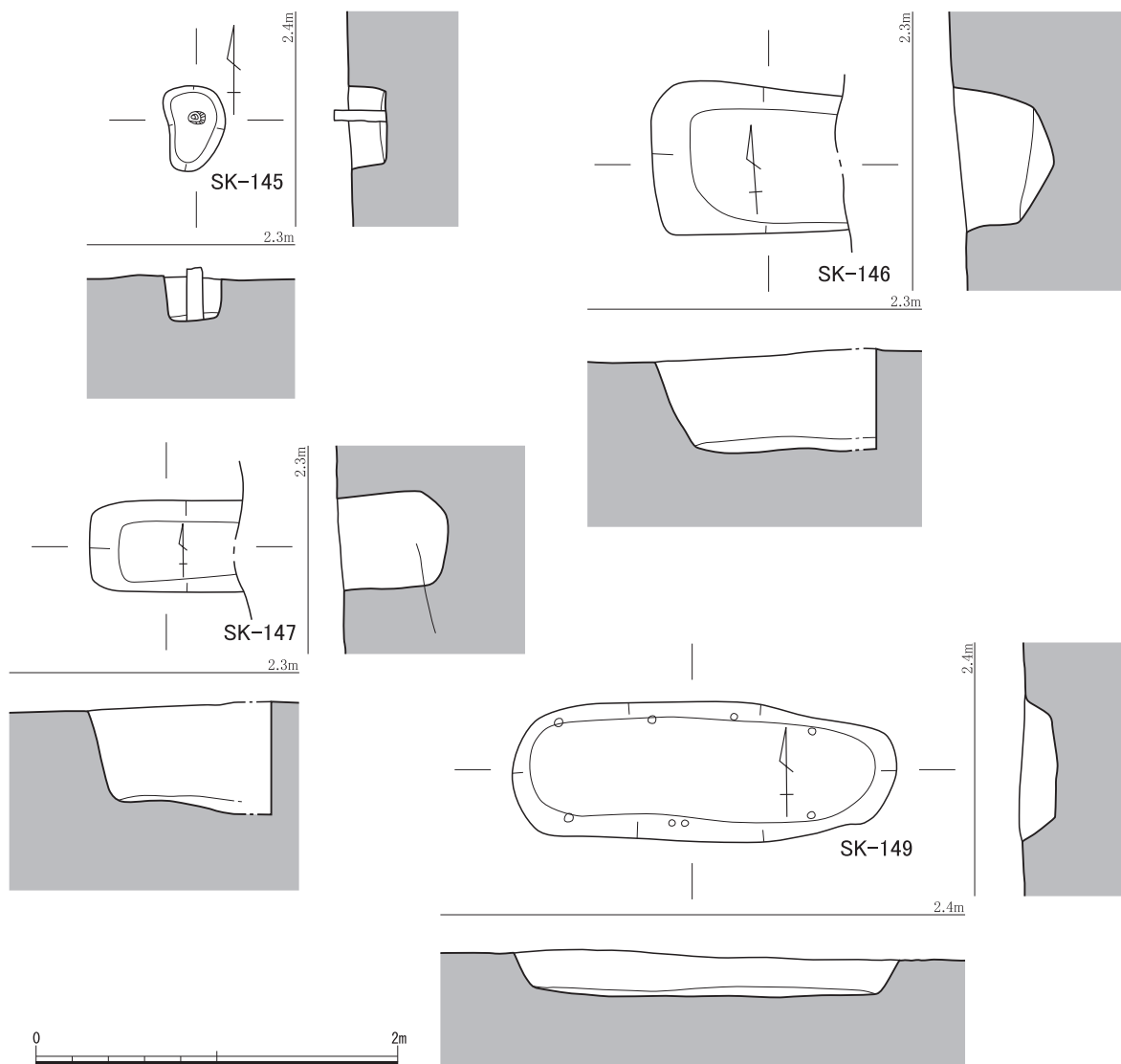
SK-143（第5図）

出土遺物（第28図）

128は染付の碗で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。内面底部に、ハマの痕跡が残る。口径10.6cm、器高5.7cm、高台径4.8cm。



第 25 図 SK - 117・120・121・125・127・138 実測図 (1/40)



第 26 図 SK - 145～147・149 実測図 (1/40)

SK-145 (第 26 図)

調査区の北、SK - 138 の北に位置する不正形の土坑。長軸 0.5m・短軸 0.3m、深さは最深部で 0.2m を測る。底面は平坦で、底面の北側から杭を検出。壁の立ち上がりはほぼ垂直な傾斜。

出土遺物 (第 28 図)

129 は陶器の蓋で、胎土は淡黄色を呈す。全体的に釉が施され、高台部分は釉削ぎが施される。内面の中程に沈線が施され、上部には煤が付着する。口径 16.2cm、器高 6.5cm。

SK-146 (第 26 図)

調査区の東、SK - 145 の東に位置する長正形の土坑で調査区外へ延びる。長軸 1.0m 以

上・短軸 0.8m、深さは最深部で 0.5m を測る。底面は平坦で、壁の立ち上がりは急な傾斜。

出土遺物 (第 28 図)

130 は染付の碗で、胎土は白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。見込み及び外面に福の字が描かれ、外面は青海波文が描かれる。口径 (10.7cm)、器高 6.7cm、高台径 4.7cm。

SK-147 (第 26 図)

調査区の北、SK-146 の北に位置する長正形の土坑で調査区外へ延びる。長軸 0.8m 以上・短軸 0.5m、深さは最深部で 0.6m を測る。底面は平坦であるが、東側に落ち込み、壁の立ち上がりは急な傾斜。

出土遺物 (第 28 図)

131 は陶器の水差しで、胎土は黒褐色を呈す。全体的に釉が施され、口唇部及び高台は露胎。口径 4.7cm、器高 4.2cm、底径 5.1cm。132 は磁器の戸車で、胎土は灰白色を呈す。外面及び内面に釉が施され、表と裏の面には砂が付着する。長径 5.0cm、幅 5.0cm、厚 1.0cm。

SK-149 (第 26 図)

調査区の西、SK-146 の西に位置する長楕円形の土坑。長軸 3.0m・短軸 0.8m、深さは最深部で 0.2m を測る。底面は平坦で、壁の立ち上がりは急な傾斜。壁面に竹が、底面を囲う様に配置されている。

出土遺物 (第 28 図)

133 は染付の碗で、胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉削ぎが施される。口径不明、器高 2.9cm 以上、高台径 (4.2cm)。

SK-150 (第 27 図)

調査区の北、SK-149 の北に位置する不整形の土坑。長軸 3.3m・短軸 2.4m、深さは最深部で 0.7m を測る。底面は東側と西側が若干窪み、壁の立ち上がりは急な傾斜。

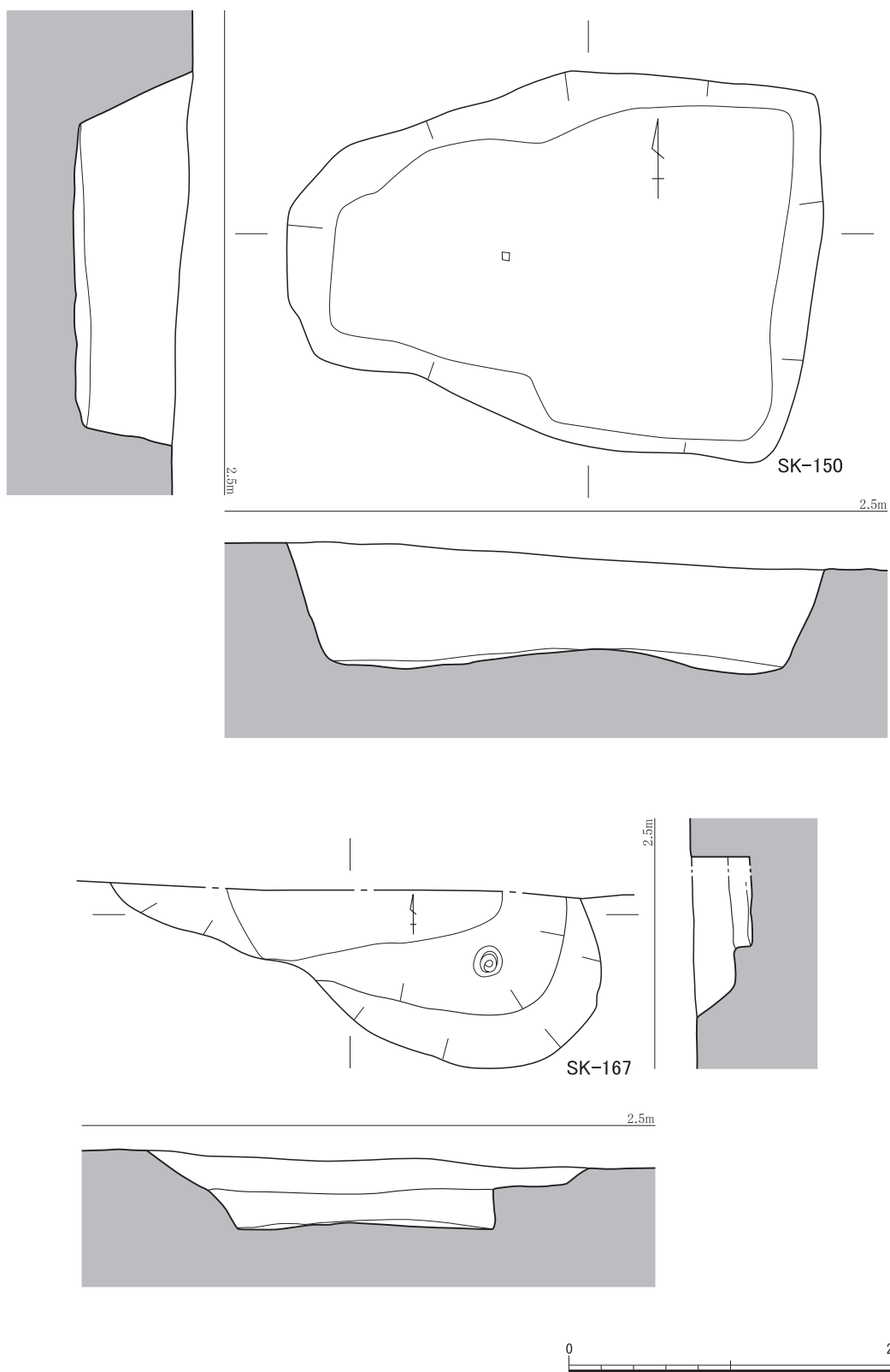
出土遺物 (第 28 図)

134 は陶器の甕で、胎土は赤褐色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 (27.8cm)、器高 16.0cm、底径 (14.0cm)。135 は陶器の甕で、胎土は褐色を呈す。全体的に釉が施され、底部は露胎。口径 (16.2cm)、器高 19.7cm、底径 11.6cm。

SK-165 (第 5 図)

出土遺物 (第 28 図)

136 は染付の小坏で、胎土は白色を呈し、全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径不明、器高 2.2cm 以上、高台径 3.0cm。137 は陶器の鉢で、胎土は暗褐色を呈し、全体的に釉が施され、底部は露胎。口径 (32.8cm)、器高 10.9cm、高台径 18.4cm。

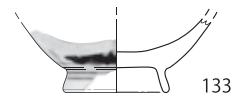


第 27 図 SK - 150・167 実測図 (1/40)

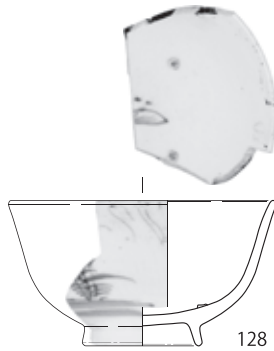
SK-140



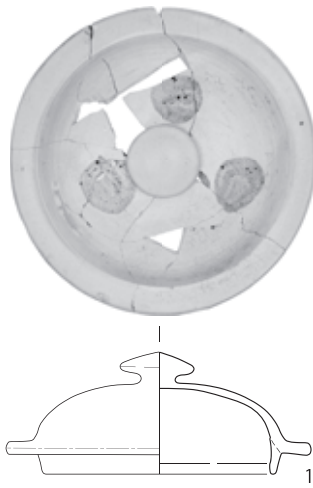
SK-149



SK-143



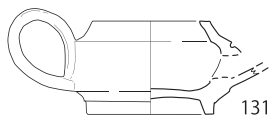
SK-145



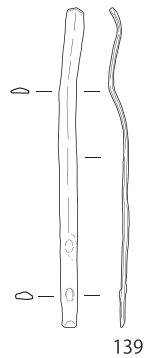
SK-146



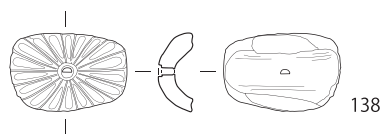
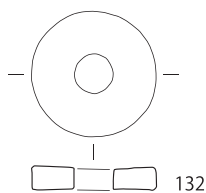
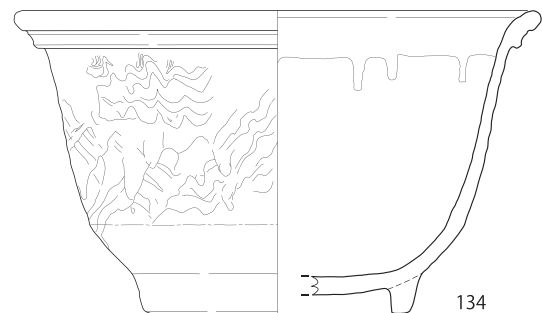
SK-147



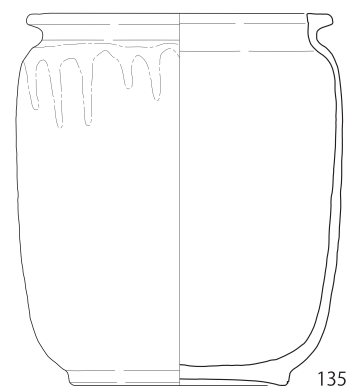
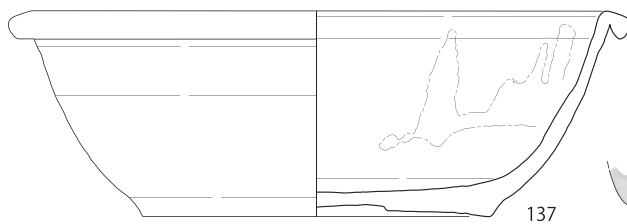
SK-167



SK-150



SK-165



第 28 図 SK - 140・143・145～147・149・150・165・167 出土遺物実測図
(129・134・135・139 は 1/4、他は 1/3)

SK-167 (第27図)

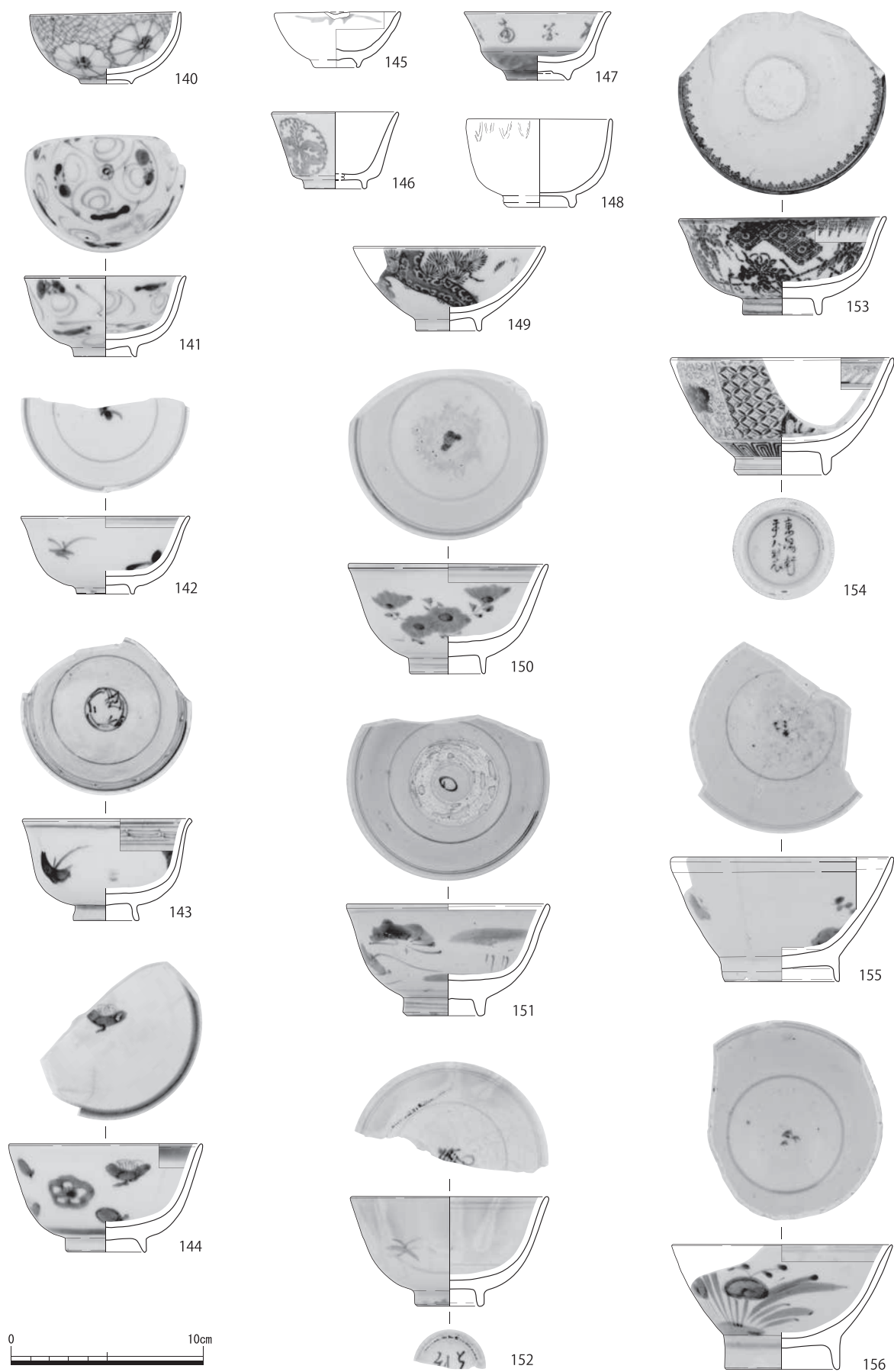
調査区の北、SK-150の北に位置し調査区外延びる不定形の土坑。長軸3.0m・短軸0.8m以上、深さは最深部で0.4mを測る。底面は平坦面で、壁の立ち上がりはテラス状。

出土遺物 (図版8、第28図)

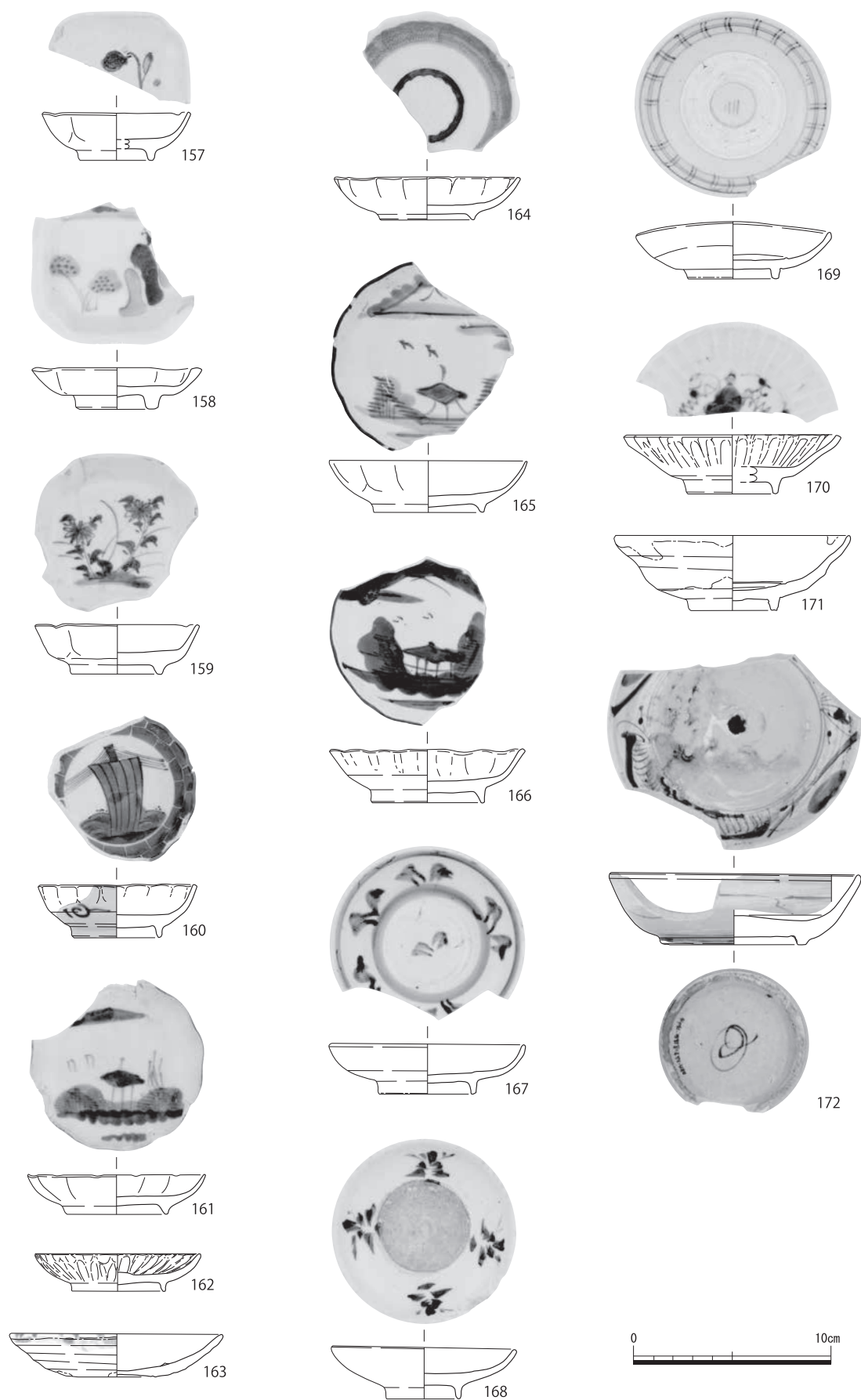
138は骨製の帯留めで、長軸3.1cm、幅4.7cm、厚さ0.7cm。139は金属製の匙で、長軸16.9cm、幅1.0cm、厚さ0.3cm。

4 第2調査区第1遺構面その他の出土遺物 (図版8、第29・30・31・32・33図)

140～144は染付の小碗で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径7.9cm、器高3.7cm、高台2.6cm。141の胎土は灰白色を呈し、全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径8.4cm、器高4.2cm、高台径3.3cm。142の胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径(8.8cm)、器高5.05cm、高台径(3.0cm)。143の胎土は白色を呈し、全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径8.8cm、器高5.3cm、高台径3.4cm。144の胎土は灰白色を呈し、全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径(10.1cm)、5.6cm、4.2cm。145～147は染付の坏で、145の胎土は白色を呈し、全体に釉が施される。口径6.5cm、器高2.9cm、高台径2.2cm。146の胎土は白色を呈し、全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施され、高台に砂が付着。口径(6.6cm)、器高4.0cm、高台(3.3cm)。147の胎土は白色を呈し、全体に釉が施され、高台は露胎。口径7.6cm、器高3.55cm、高台3.3cm。148は陶器の碗で、胎土は白色を呈す。全体に釉が施され、外面口縁部は連弁の金彩が施される。口径(7.6cm)、器高4.6cm、高台3.8cm。149～156は染付の碗で、149の胎土は灰白色を呈し、全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径10.0cm、器高4.4cm、高台径3.4cm。150の胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。肥前系端反碗。口径10.4cm、器高5.7cm、高台径4.0cm。151の胎土は灰白色を呈し、全体に釉が施され、畳付及び見込みに目跡が残る。口径10.6cm、5.8cm、4.2cm。152の胎土は灰白色を呈し、全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径(10.4cm)、器高5.7cm、高台(3.6cm)。153の胎土は灰白色を呈し、全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。見込みは、蛇ノ目釉剥ぎの痕が残る。口径10.8cm、器高5.1cm、高台4.2cm。154の胎土は灰白色を呈し、全体に釉が施され、畳付は露釉。外面は山水図のように印判による赤絵、高台に文字が描かれる。口径(11.6cm)、器高5.1cm、高台径4.6cm。155の胎土は灰白色を呈し、全体に釉が施される。口径(11.6cm)、器高6.5cm、高台径5.4cm。156の胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径(11.5cm)、器高6.5cm、高台径6.0cm。157～161は染付の皿で、157の胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。見込みに、目跡が2ヶ所残る。手塩皿。一辺(7.6cm)、器高2.4cm、高台(3.6cm)。158の胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。手塩皿。一辺(8.6cm)、器高2.1cm、高台径4.2cm。159の胎土は灰白色を呈し、全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。手塩皿。一辺(8.3cm)、器高2.5cm、高台径4.6cm。160～162・164～166、170は口縁部、輪花口縁。160の胎土は白色を呈し、全体に釉が施さ

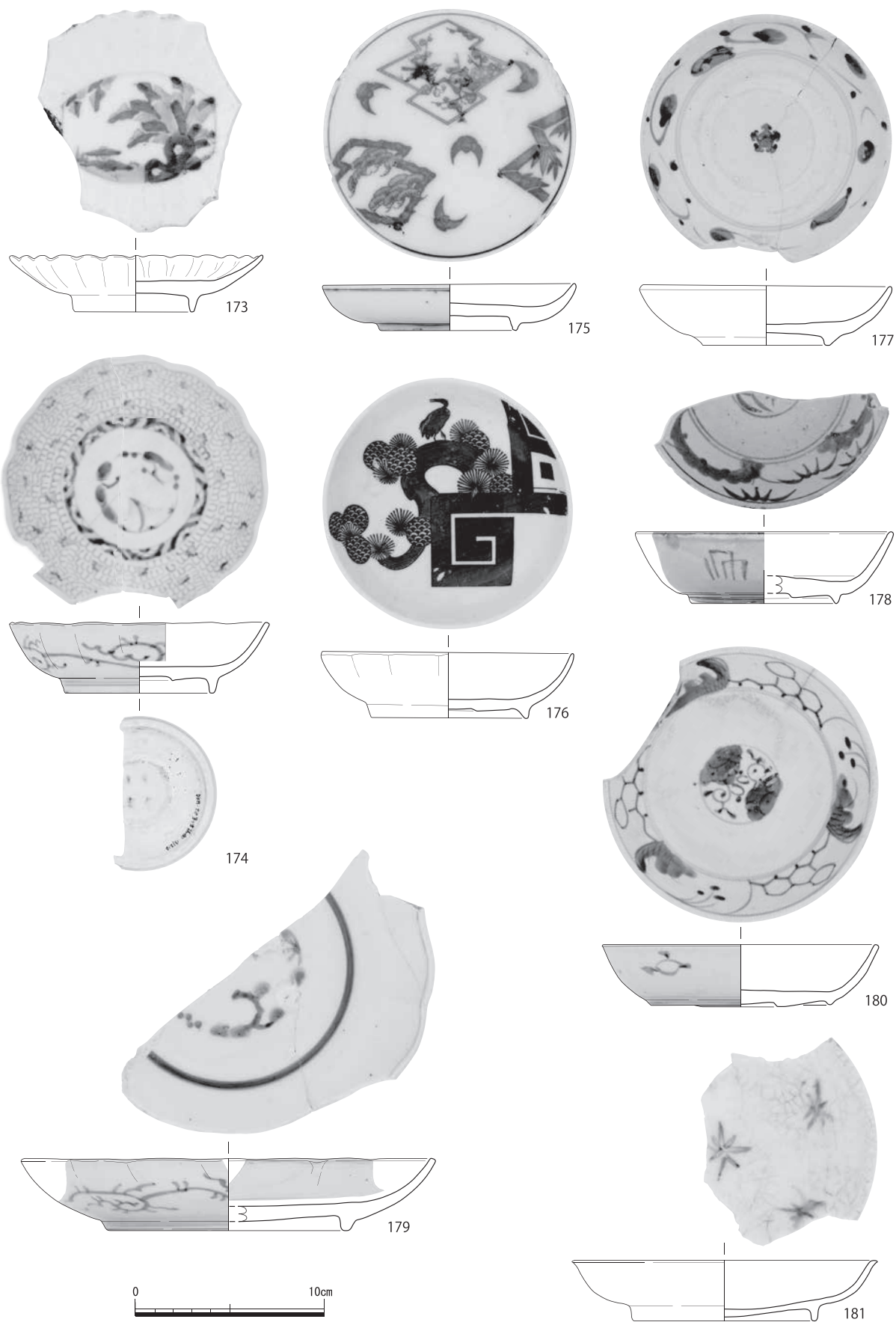


第 29 図 第 2 区第 1 遺構面出土遺物実測図① (1/3)



第 30 図 第 2 区第 1 遺構面出土遺物実測図② (1/3)

れる。口径(8.0cm)、器高2.7cm、高台径4.6cm。161の胎土は灰白色を呈し、全体に釉が施され、暈付は釉剥ぎが施される。口径9.0cm、器高2.0cm、高台5.2cm。162は白磁の皿で、胎土は灰白色を呈し、全体に白磁釉が施される。口径8.4cm、器高1.9cm、高台径4.7cm。163は陶器の皿で、胎土は明黄褐色を呈す。全体に釉が施され、内面は目跡が4ヶ所残る。外面胴部は回転ヨコナデ、下部から底部にかけては回転ヘラ削りによる調整が施される。口径10.8cm、器高2.2cm、底径3.9cm。164は染付の皿で、胎土は灰白色を呈し、全体に釉が施される。口径(9.4cm)、器高2.2cm、高台径(4.8cm)。165は染付の皿で、胎土は灰白色を呈し、全体に釉が施される。暈付は釉剥ぎが施され、見込みに山水文が描かれる。口径(10cm)、器高2.6cm、高台径5.6cm。166は染付、胎土は灰白色を呈し、内面に山水文が描かれる。全体的に釉が施されるが、暈付は露胎。口径(10.m)、器高3.7cm、高台径5.7cm。167は磁器の皿で、胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、暈付は釉剥ぎが施され、見込みは露胎。口径10cm、器高2.6cm、高台径4.9cm。168～170は染付の皿で、168の胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、暈付は釉剥ぎが施される。口径9.4cm、器高2.7cm、高台径3.3cm。169の胎土は灰白色を呈し、器形はやや歪み、全体的に釉が施され、高台は露胎。口径9.9cm、器高2.9cm、高台径4.6cm。170の胎土は灰白色を呈し、全体に釉が施され、暈付は釉剥ぎが施される。見込みに、目跡が残る。口径(11.0cm)、器高3.0cm、高台(4.7cm)。171は陶器の皿で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、外面下部は回転ヘラ削り、外面上部から内面はヨコナデによる調整が施される。口径12.0cm、器高3.8cm、口径4.4cm。172～182は染付の皿で、172の胎土は灰白色を呈し、全体に釉が施され、暈付は釉剥ぎが施される。内面に山水文、高台にくずした渦福が描かれる。口径12.7cm、器高5.6cm、高台径7.3cm。173の胎土は灰白色を呈し、全体に釉が施され、暈付は釉剥ぎが施され、口縁部が輪花となり、型打ち整形されている。口径(13.4cm)、器高4.0cm、高台径6.4cm。174の胎土は灰白色を呈し、全体に釉が施され、高台は蛇ノ目釉剥ぎ。外面にたこ唐草、高台内に「成化年製」が描かれる。口径(13.8cm)、器高3.7cm、高台径8cm。175の胎土は白色を呈し、全体に釉が施され、暈付は釉剥ぎが施される。口径13.4cm、器高2.5cm、高台径7.3cm。176の胎土は灰白色を呈し、全体に釉が施される。暈付は釉剥ぎが施される。口縁部は輪花。口径13.4cm、器高3.5cm、高台径8.3cm。177の胎土は灰白色を呈し、全体に釉が施され、暈付は釉剥ぎが施される。見込みに、五弁花のコンニャク印判を施す。口径13.4cm、器高3.2cm、高台径6.8cm。178の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、高台は蛇ノ目釉剥ぎ。口径(13.6cm)、器高3.8cm、高台径(7.8cm)。179の胎土は、白色を呈す。全体に釉が施され、暈付は釉剥ぎが施される。口縁部は、輪花口縁。口径(22.0cm)、器高3.85cm、高台径(13.0cm)。180の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、高台は蛇ノ目釉剥ぎ。口径14.6cm、器高3.3cm、高台径9.5cm。181の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、暈付は釉剥ぎが施される。口径(16.2cm)、器高3.2cm、高台径(9.8cm)。182の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、暈付は釉剥ぎが施される。高台に、2ヶ所目跡が残る。口径(23.6cm)、器高3.2cm、高台径(16.2cm)。口縁部は、輪花口縁。183～184は染付の蓋で、183の胎土は、白色を呈す。全体に釉が施され、暈付は釉剥ぎが施される。口径10.3cm、器高2.7cm。184の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、暈付は釉剥ぎが施される。口径10.0cm、器高3.3cm、高台



第 31 图 第 2 区第 1 遺構面出土遺物実測図③ (1/3)

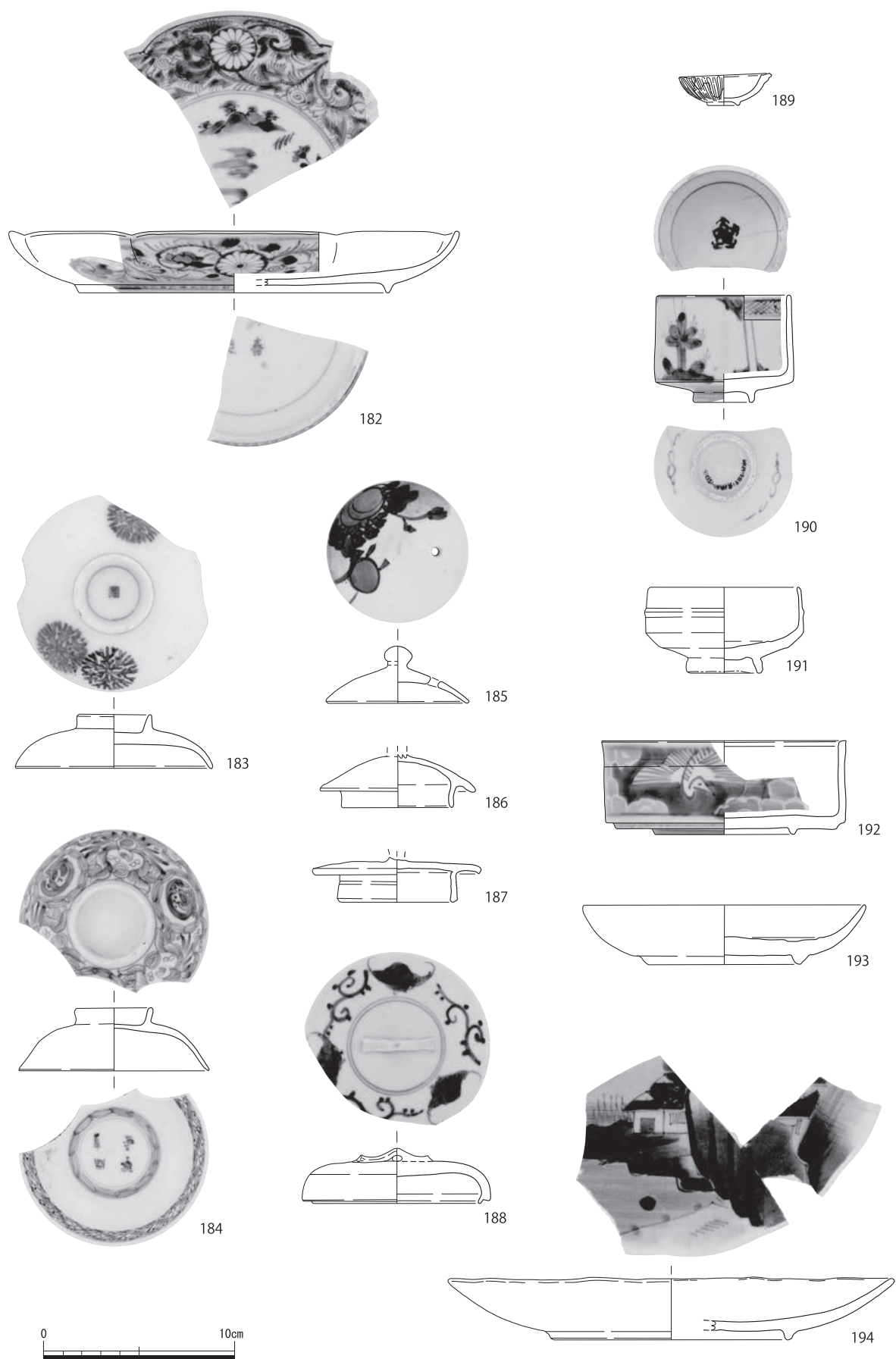
径4.2cm。185は染付の蓋で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、穿孔が施される。口径7.5cm、器高3.0cm。186と187は陶器の蓋で、186の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、高台は露胎。口径8.2cm、器高2.8cm以上、内径5.8cm。187の胎土は、茶褐色を呈す。外面は全体に釉が施され、高台は露胎。口径(8.8cm)、器高(2.3cm)。188は染付の蓋で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は露胎。口径(9.9cm)、器高2.9cm、高台径(8.8cm)。189は白磁の紅皿で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は露胎。外型抜き整形で外面に菊花文が施される。口径4.9cm、器高1.7cm、底径3.6cm。190は染付の碗で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。見込みに五弁花のコンニャク印判が描かれ、外面は松文が描かれる。口径(7.0cm)、器高5.6cm、高台径3.2cm。191は白磁の湯呑みで、胎土は白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は露胎。口径(7.8cm)、器高(8.3cm)、高台径4.0cm。192は染付の鉢で、胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、口縁部及び高台脇は露胎。口径(42.8cm)、器高4.9cm、高台径7.3cm。193は白磁の皿で、胎土は白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は露胎、見込みに蛇ノ目釉剥ぎが残る。口径(14.8cm)、器高3.1cm、高台径(8.0cm)。194は染付の皿で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径(31.2cm)、器高4.3cm、高台径(16.8cm)。口縁部は、輪花口縁。195は磁器の蓋で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、外面は青磁釉が施される。口縁部は、露胎。口径(15.6cm)。196は染付の皿で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は砂目跡が残る。長径5.3cm、幅8.0cm以上。197は染付の土瓶で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、外面に山水文が描かれる。底部は露胎。口径8.4cm、器高7.1cm、底径9.0cm。198は陶器の水注で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は露胎。口径6.4cm、器高4.4cm、高台径5.0cm。199は陶器の播鉢で、胎土は赤茶褐色を呈す。全体に釉が施され、内面はスリ目が施される。底径12.8cm。200は陶器の甕で、胎土は褐灰色を呈し、全体的に釉が施される。胴部下部は欠損のため不明。口径(26.2cm)、器高10.7cm以上。201は染付の水注しで、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、底部は露胎。口径(2.0cm)、器高8.8cm、口径3.6cm。202は陶器の瓶で、胎土は暗赤色を呈す。全体に回転ナデによる調整が施され、外面上部はケズリ、下部は自然釉が施される。口径6.3cm、器高17.2cm、底径9.2cm。203は陶器の人形で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、底面は露胎。長径4.5cm、厚さ3.0cm、幅3.7cm。204はガラスの瓶。口径1.9cm、器高9.0cm、底径3.2cm。205は白磁の瓶。外底面に、メヌマボマードの文字が描かれる。口径4.7cm、器高5.1cm、底径5.2cm。

5 第1調査区第2遺構面土坑

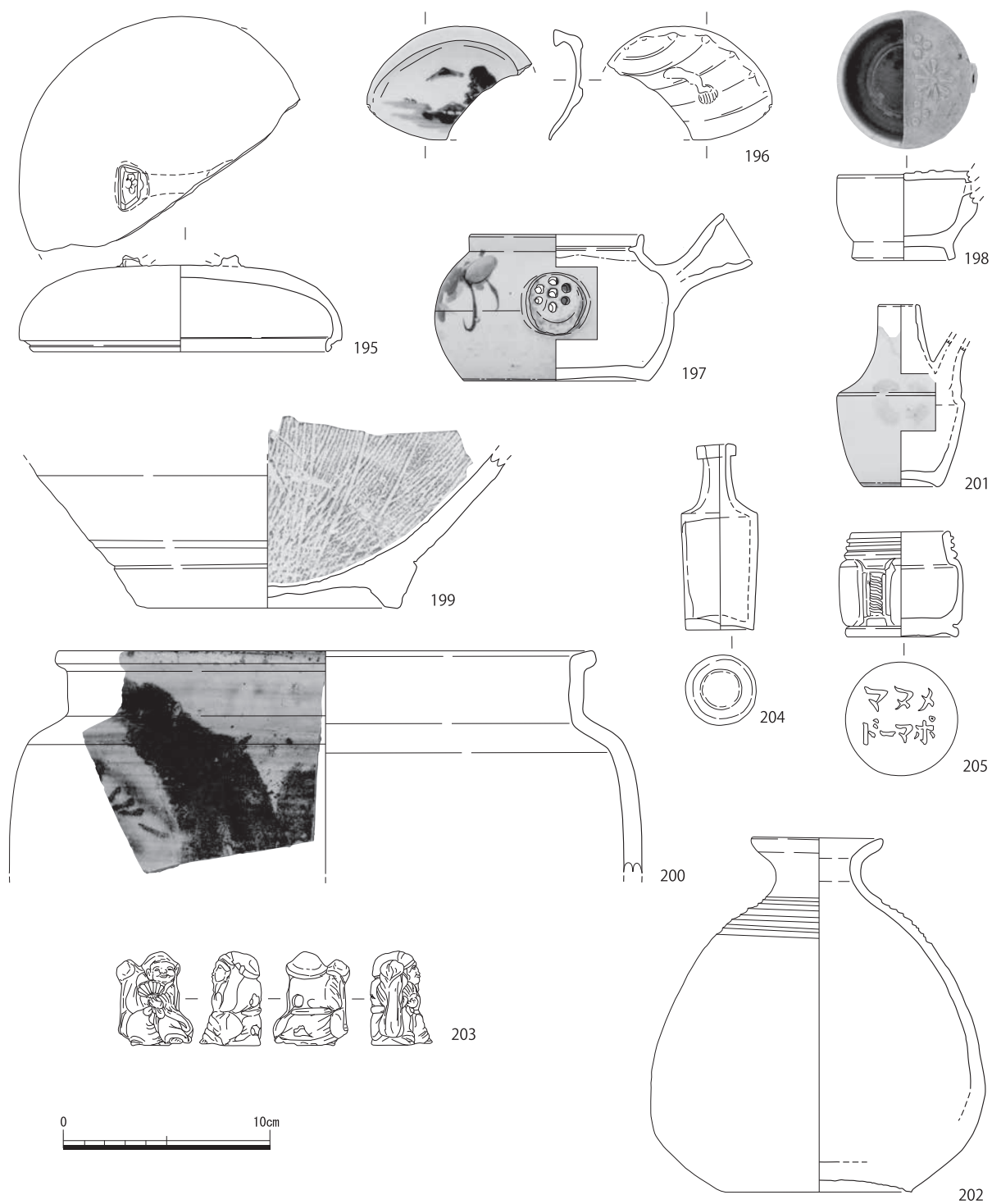
SK-171 (第34図)

出土遺物 (第36図)

206は染付の碗で、胎土は白色を呈し、全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径(11.2cm)、器高6.9cm、高台径(6.1cm)。



第 32 図 第 2 区第 1 遺構面出土遺物実測図④ (1/3)



第33図 第2区第1遺構面出土遺物実測図⑤(1/3)

SK-174 (第35図)

調査区の北西、SK-179の西に位置する不整形の土坑。長軸1.1m・短軸0.9m、深さは最深部で0.5mを測る。底は全体的に平坦で、壁の立ち上がりは急な傾斜。

出土遺物（第 36 図）

207 は露卯下駄で、長軸 23.6cm、幅 8.0cm、厚さ 2.5cm。

SK-175（第 36 図）

調査区の北西、SK-174 の西に位置する円形の土坑。長軸 0.4m・短軸 0.4m、深さは最深部で 0.3m を測る。底は全体的に平坦で、壁の立ち上がりは急な傾斜。

出土遺物（第 36 図）

208 は陶器の皿で、胎土はにぶい灰白色を呈す。全体的に釉が施され、見込みの口縁部は輪花口縁が一部釉剥ぎされ高台は露胎。口径（17.8cm）、器高 5.5cm、高台径 9.2cm。

SK-176（第 34 図）

出土遺物（第 35 図）

209 は染付の碗で、胎土は白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は露胎。口径不明、器高 3.9cm 以上、高台径 4.4cm。

SK-177（図版 7、第 35 図）

調査区の北西、SK-174 の南に位置する不整形の土坑。長軸 1.9m・短軸 0.7m、深さは最深部で 0.8m を測る。底面は平坦面で、壁の立ち上がりはテラス状。

出土遺物（図版 9、第 36 図）

210 は陶器の碗で、胎土はにぶい黄橙色を呈す。全体的に入貫釉が施され、畳付は切り出し高台の露胎。口径（9.6cm）、器高 4.3cm、高台径 4.0cm。211 は漆器の碗で、内面は赤漆、外面は黒漆が塗られる。外面に金彩で施文される。器高 2.9cm 以上。212 は木製のわっぱで、側面に釘穴 4ヶ所、底板に木釘 1つあり、1枚の板を曲げて樹皮で綴じる。器高 4.4cm 以上、底径 12.4cm。

SK-179（図版 7、第 35 図）

調査区の北、SK-174 の東に位置する不整形の土坑。長軸 1.8m・短軸 1.5m、深さは最深部で 0.8m を測る。底は全体的に平坦で、壁の立ち上がりは急な傾斜。

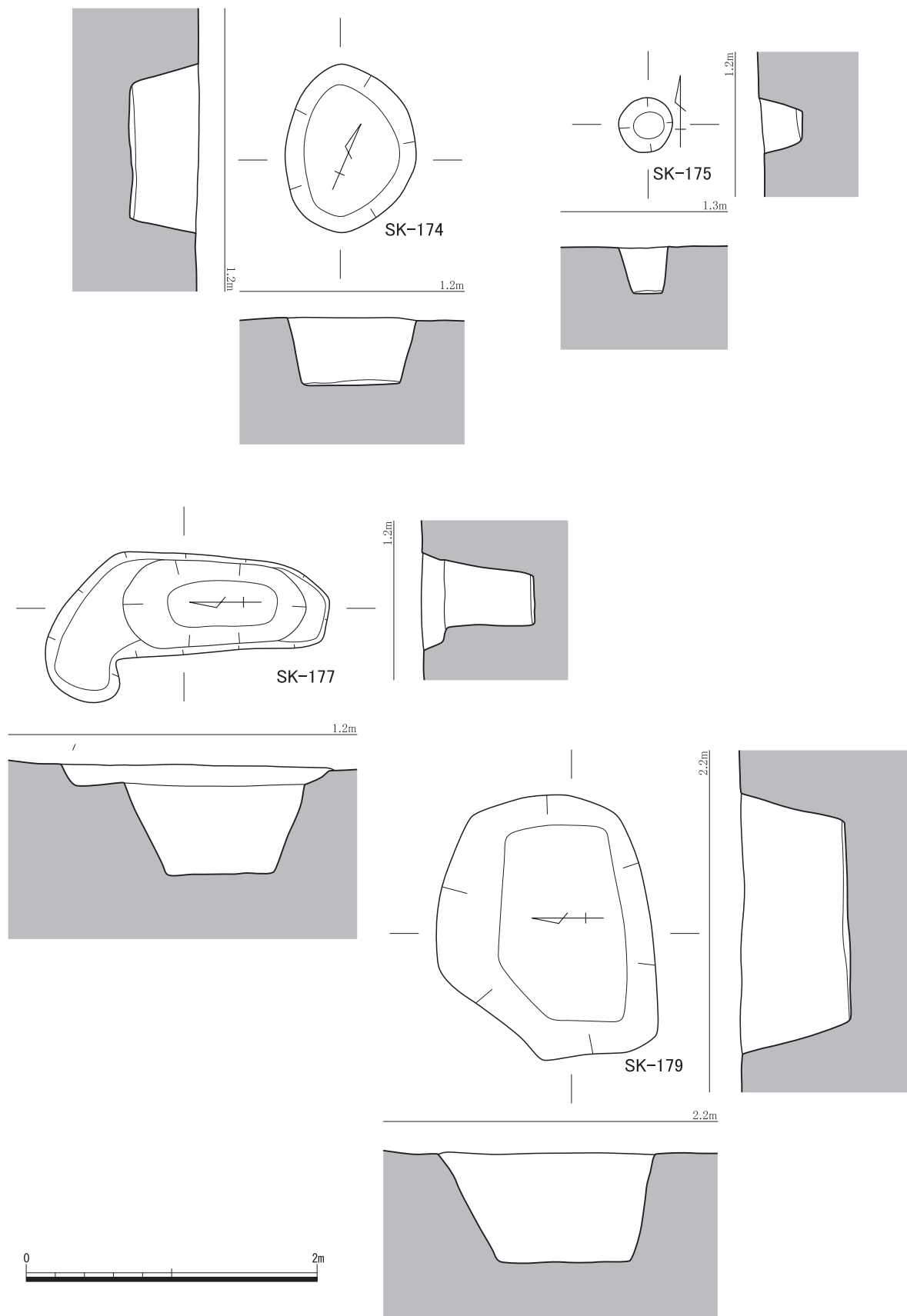
出土遺物（第 36 図）

213 は染付の碗で、胎土は白色を呈す。全体的に貫入が施され、畳付は露胎。口径（7.8cm）、器高 5.1cm、高台径 3.3cm。214 は陶器の碗で、胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は削り出し高台の露胎。京焼風。口径（9.7cm）、器高 4.5cm、高台径 3.8cm。

SK-197（第 37 図）

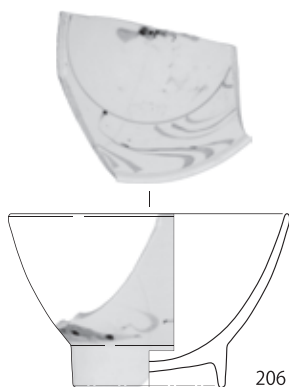
調査区の北、SK-179 の東に位置する不整楕円形の土坑。長軸 2.0m・短軸 0.9m、深さは最深部で 0.2m を測る。底は全体的に平坦、壁の立ち上がりは急な傾斜で、東側はテラス状を呈す。

出土遺物（第 36 図）

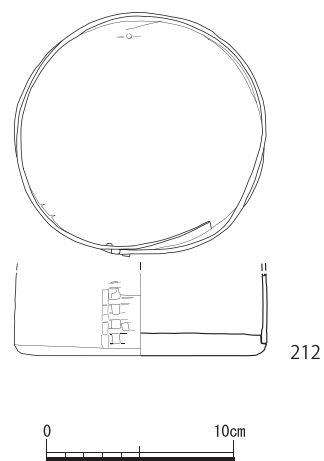
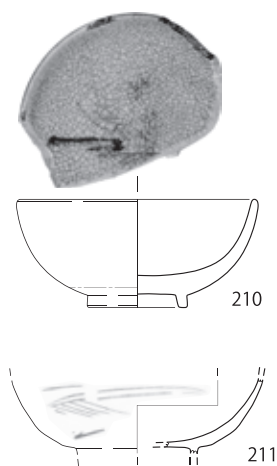


第 35 図 SK - 174・175・177・179 実測図 (1/40)

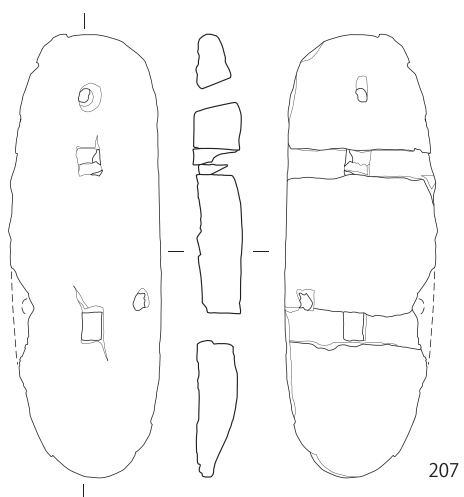
SK-171



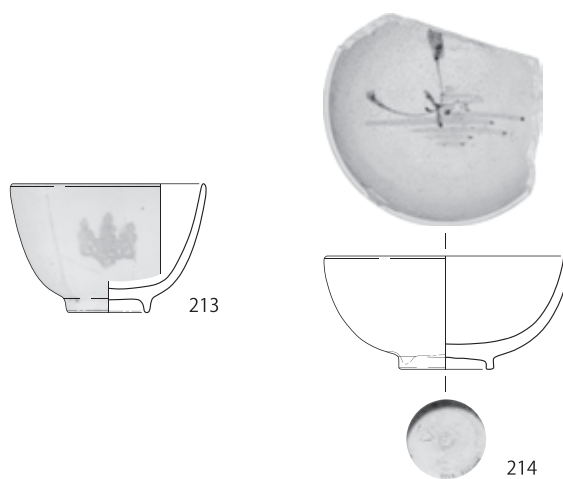
SK-177



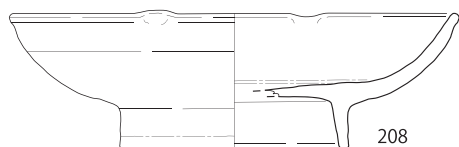
SK-174



SK-179



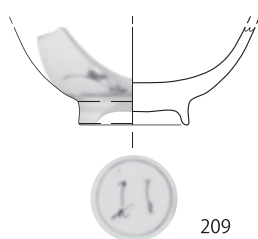
SK-175



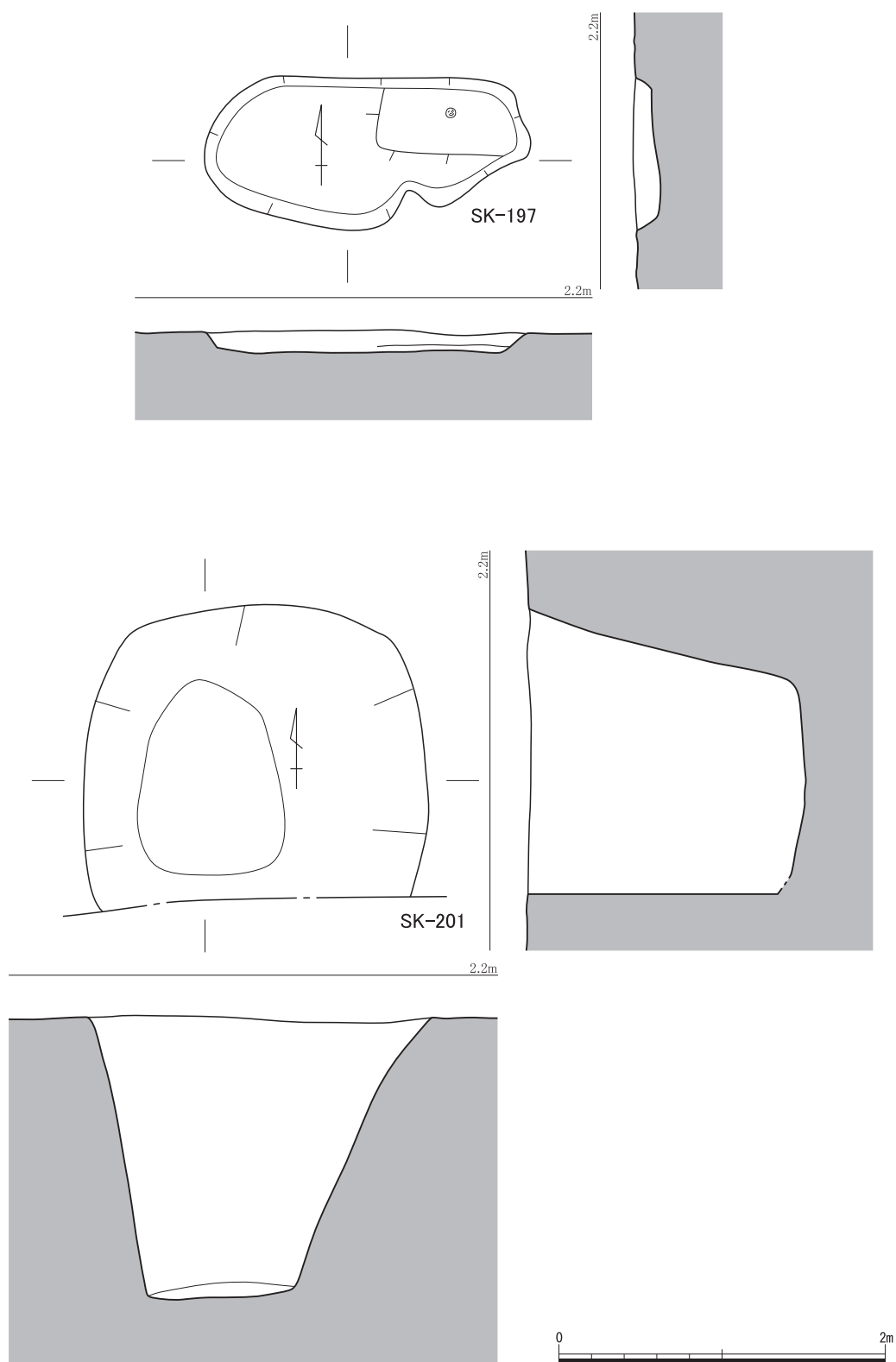
SK-197



SK-176



第 36 図 SK - 171・174～177・179・197 出土遺物実測図 (207・212 は 1/4、他は 1/3)



第 37 図 SK - 197・201 実測図 (1/40)

215 は染付の小碗で、胎土は白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は露胎。口縁外面に雨降文が描かれる。口径(8.0cm)、器高 4.6cm、高台径 3.1cm。216 は陶器の碗で、胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は露胎。外面に、草花文が描かれる。口径 9.4cm、器高 5.6cm、高台径 3.1cm。

SK-201 (第 37 図)

調査区の南、SK-197 の南に位置する楕円形の土坑で調査区外へ延びる。長軸 2.1m・短軸 1.8m 以上、深さは最深部で 1.7m を測る。底は中央に向かって緩やかに窪み、壁の立ち上がりは急な傾斜。

出土遺物 (図版 9、第 39 図)

217 は染付の鉢で、胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 15.0cm、器高 7.5cm、高台径 8.7cm。218 は染付の皿で、胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 22.2cm、器高 3.1cm、高台径 15.3cm。口縁部は輪花口縁。

219 は陶器の土瓶で、胎土は橙色を呈す。外面は全体的に釉が施され、胴部下部は煤が付着する。内面は回転ナデによる調整が施され、露胎。外面底部に、五徳痕と考えられる痕跡が 3ヶ所残る。口径 10.7cm、器高 11.6cm、底径 6.7cm。

SK-202 (第 34 図)

出土遺物 (第 39 図)

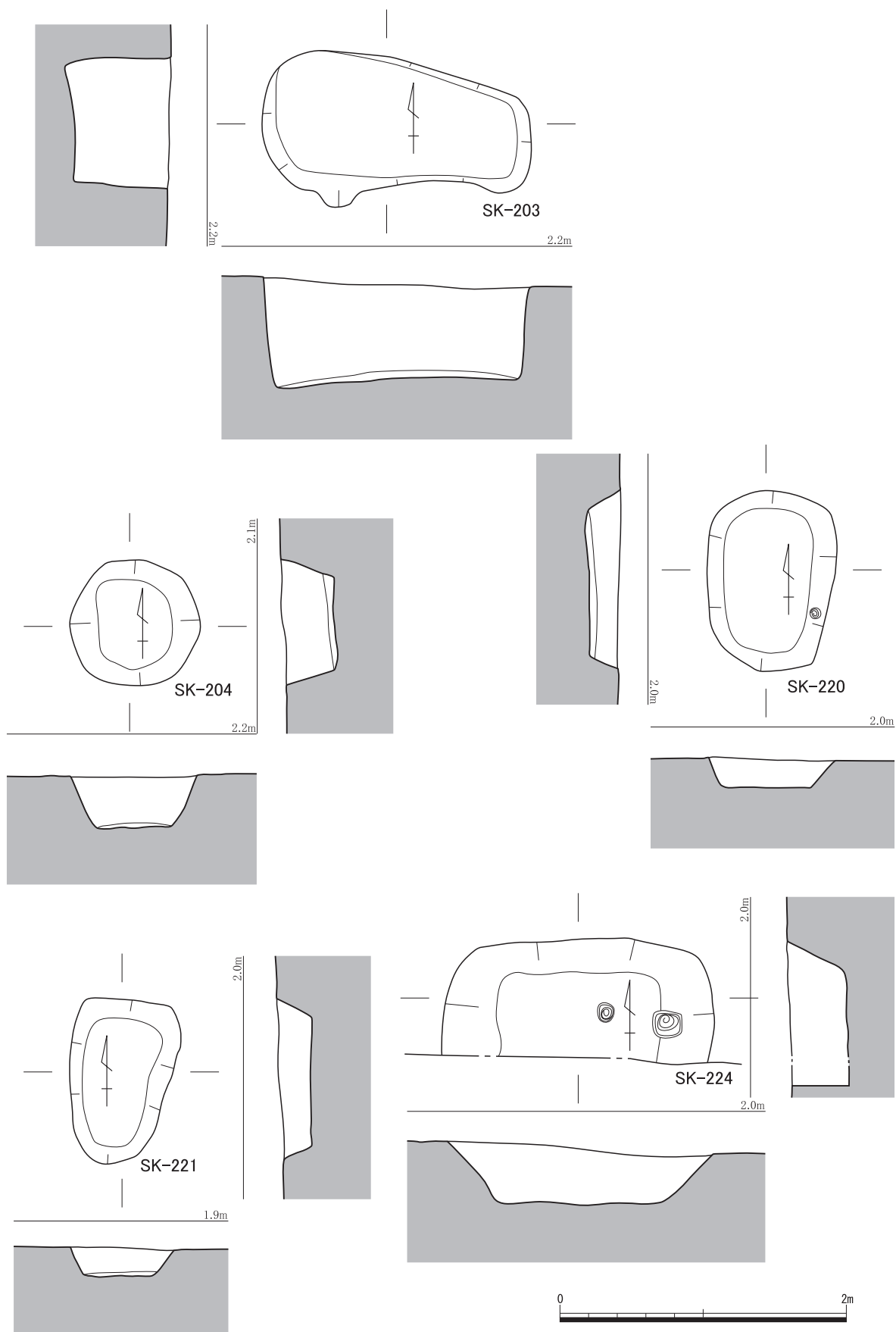
220 と 221 は陶器の土瓶で、220 の胎土は灰褐色を呈す。内面及び外面胴部にかけて釉が施され、口縁部は釉剥ぎが施され、外面下部は露胎。口径(9.2cm)、器高 10.4cm、底径不明。221 の胎土は、灰黄褐色を呈す。内面及び外面胴部にかけて釉が施され、外面下部は露胎。内面から外面胴部にかけてヨコナデ、外面胴部下部は回転ヘラケズリによる調整が施される。口径(11.3cm)、器高 11.2cm、底径(7.2cm)。222 は陶器の蓋で、胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 8.6cm、器高 2.9cm 以上。223 の蓋と考えられる。223 は陶器の壺で、胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。外面底部に煤が付着。口径 10.2cm、器高 10.7cm、高台径 7.8cm。222 の蓋と対と考えられる。224 は漆器の碗で、内面は赤漆、外面は黒漆が塗られる。器高 3.7cm 以上。

SK-203 (第 38 図)

調査区の北、SK-197 の東に位置する不整長方形の土坑。長軸 1.9m・短軸 0.9m、深さは最深部で 0.8m を測る。底は全体的に平坦で、壁の立ち上がりは急な傾斜。

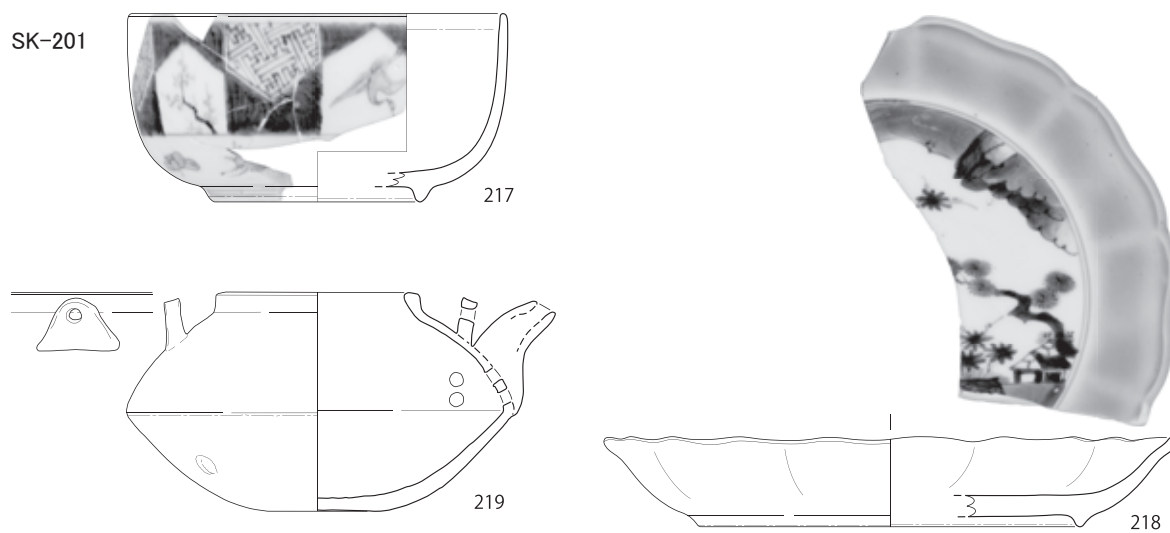
出土遺物 (図版 9、第 40 図)

225 は陶器の碗で、胎土は灰黄色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。内面に、山水文が描かれる。京風焼。口径 9.5cm、器高 4.3cm、高台径 3.9cm。226 は染付の皿で、胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。内面底部に、ハマの痕跡が 3ヶ所残る。見込みに山水文が描かれる。口径 13.5cm、器高 4.0cm、高台径 8.6

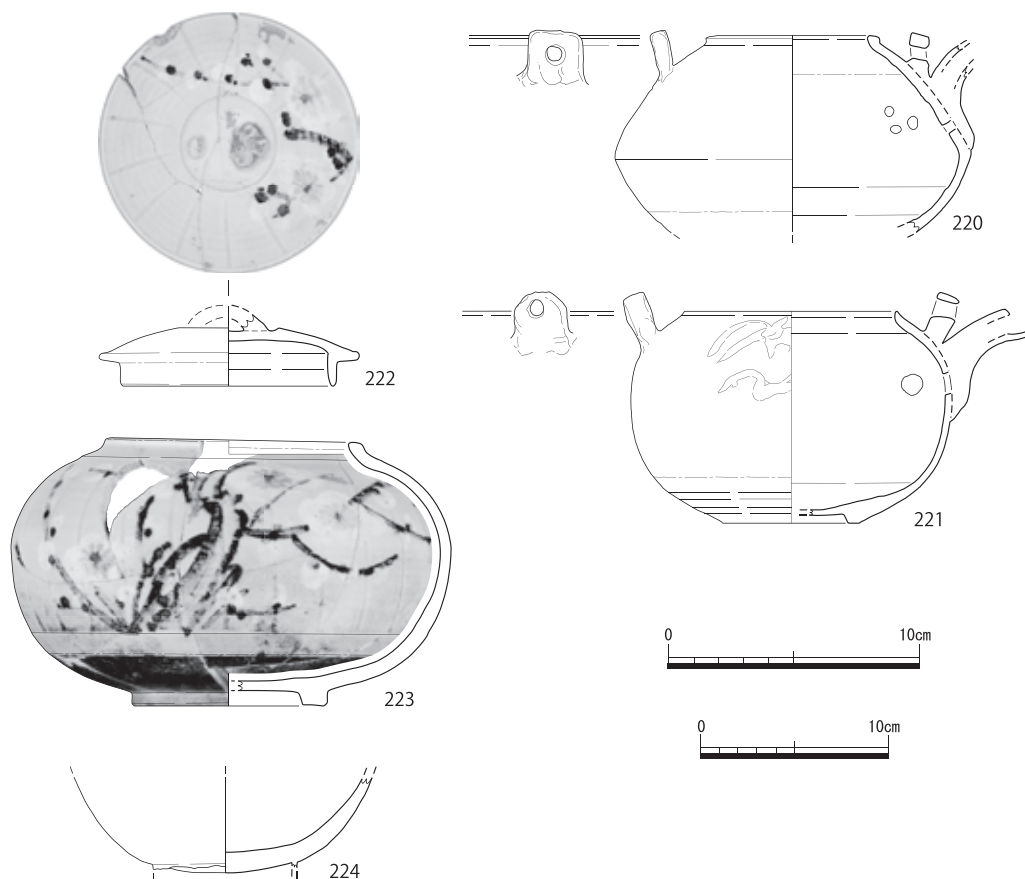


第 38 図 SK - 203・204・220・221・224 実測図 (1/40)

SK-201



SK-202



第 39 図 SK - 201・202 出土遺物実測図 (219・220・221 は 1/4、他は 1/3)

cm。口縁部は、輪花口縁。227は陶器の土瓶で、胎土は暗褐灰色を呈す。全体的に釉が施され、胴部下部は露胎、口縁部は釉剥ぎ施される。内面下部に、釉だれが残る。口径8.2cm、器高11.5cm、底径7.2cm。228は連歯下駄で、長軸23.4cm、幅8.2cm、厚さ2.4cm。

SK-204 (第38図)

調査区の北、SK-203の東に位置する不正円形の土坑。長軸0.9m・短軸0.9m、深さは最深部で0.3mを測る。底は全体的に平坦で、壁の立ち上がりは急な傾斜。

出土遺物 (第40図)

229は染付の碗で、胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。見込みにコンニャク印判、内面口縁部に襷文、外面に笹、底部に唐草文が描かれる。口径(7.6cm)、器高6.2cm、高台径4.0cm。

SK-219 (第34図)

出土遺物 (図版9、第40図)

230は土師の甕で、胎土は灰黄褐色を呈す。内面及び外面はハケ目、内面底部はナデによる調整が施される。器高7.3cm以上、底径37.7cm。

SK-220 (第38図)

調査区の中央、SK-204の東に位置する楕円形の土坑。長軸1.3m・短軸0.9m、深さは最深部で0.2mを測る。底は全体的に平坦で、壁の立ち上がりは急な傾斜。

出土遺物 (第40図)

231は染付の小碗で、胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径6.7cm、器高6.1cm、高台径5.1cm。232は陶器の瓶で、胎土はにぶい赤褐色を呈す。外面は釉及び波状紋が施され、畳付は釉剥ぎがされる。口径不明、器高18.9cm以上、高台径(10.1cm)。233は磁器の紅皿で、胎土は白色を呈す。内面から外面口唇部にかけて釉が施され、外面はほぼ露胎。口径4.3cm、器高1.5cm、高台径1.4cm。

SK-221 (第38図)

調査区の中央、SK-220の東に位置する楕円形の土坑。長軸1.1m・短軸0.9m、深さは最深部で0.2mを測る。底は全体的に平坦で、壁の立ち上がりは急な傾斜。

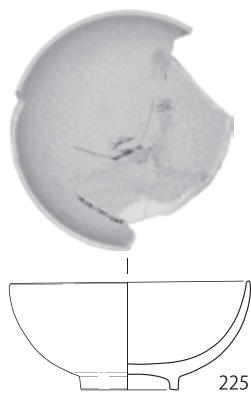
出土遺物 (第40図)

234は染付の小碗で、胎土は明緑灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径(6.9cm)、器高5.5cm、高台径(3.4cm)。235は木製の蓋で、長軸20.3cm、幅13.2cm以上、厚さ1.1cm。

SK-224 (図版7、第38図)

調査区の南、SK-220の南に位置する隅丸円形の土坑で調査区外へ延びる。長軸1.9m・短軸0.8m以上、深さは最深部で0.4mを測る。底は全体的に平坦で、壁の立ち上がりは急な

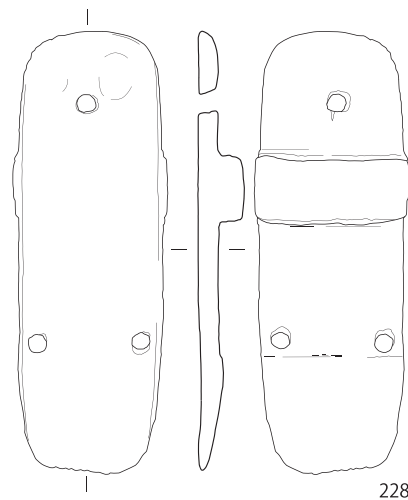
SK-203



225



226

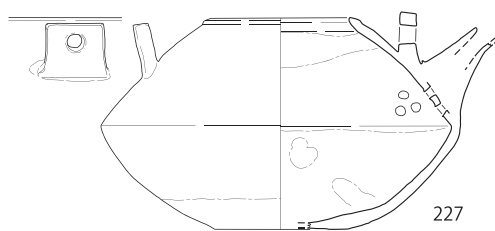


228

SK-204

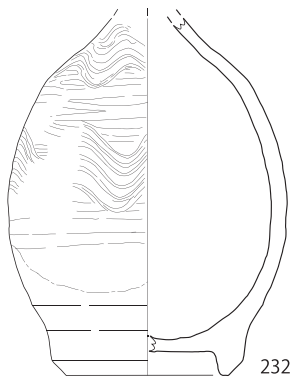


229



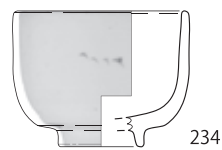
227

SK-220



232

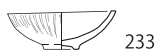
SK-221



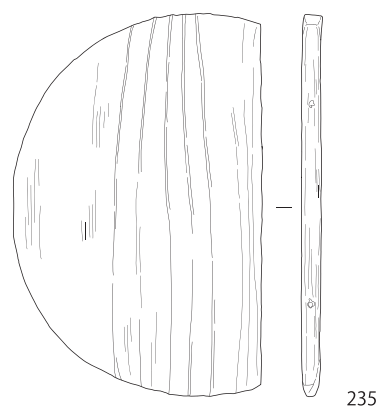
234



231

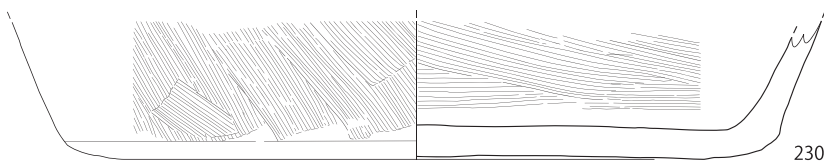


233



235

SK-219



230

SK-224



236

第 40 図 SK - 203・204・219～221・224 出土遺物実測図 (227・228・232・235 は 1/4、他は 1/3)

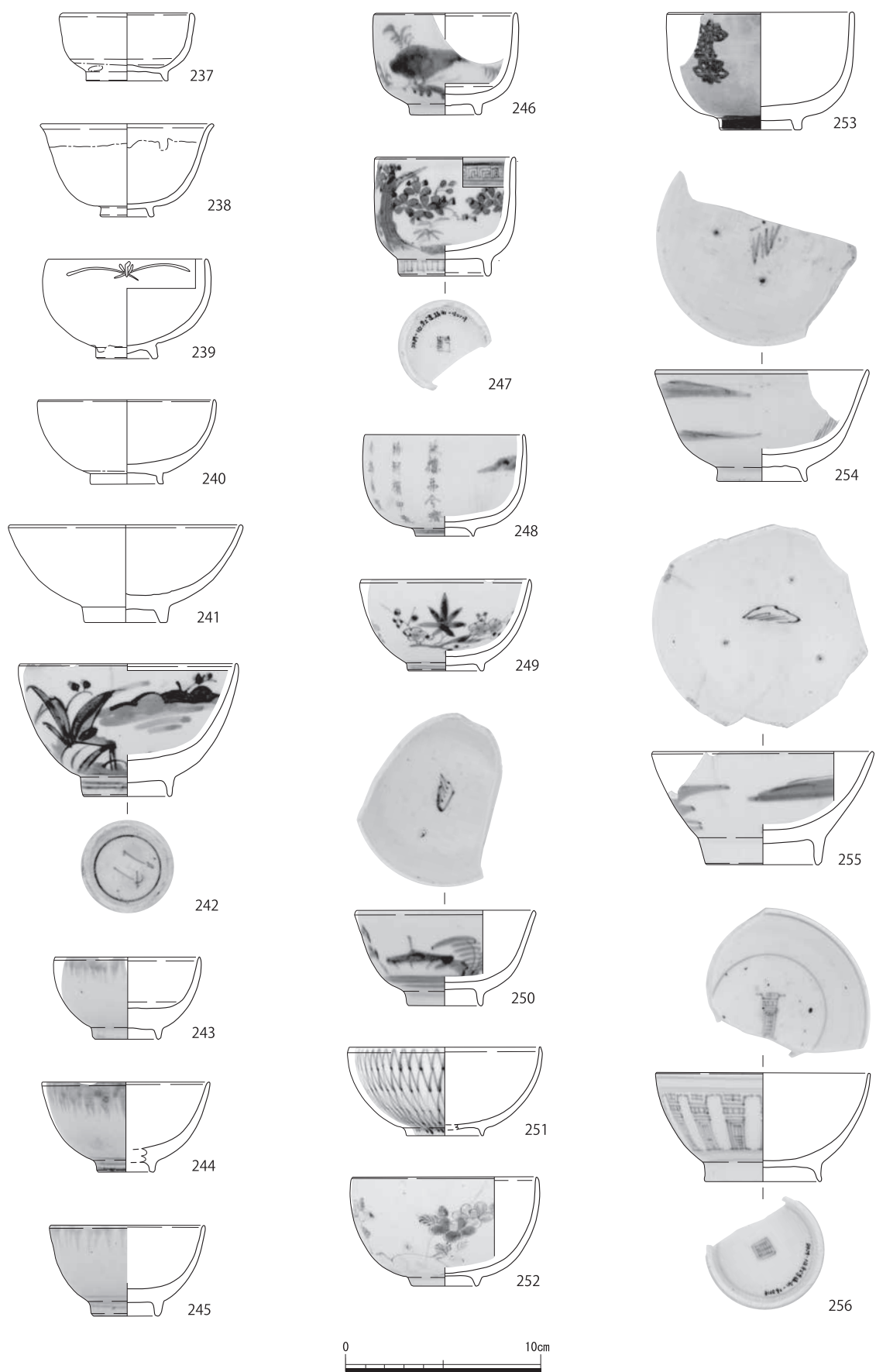
傾斜。

出土遺物（第40図）

236は染付の碗で、胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。内面の底部には、ハマの痕跡を確認できる。口径（10.0cm）、器高5.2cm、高台径（3.9cm）。

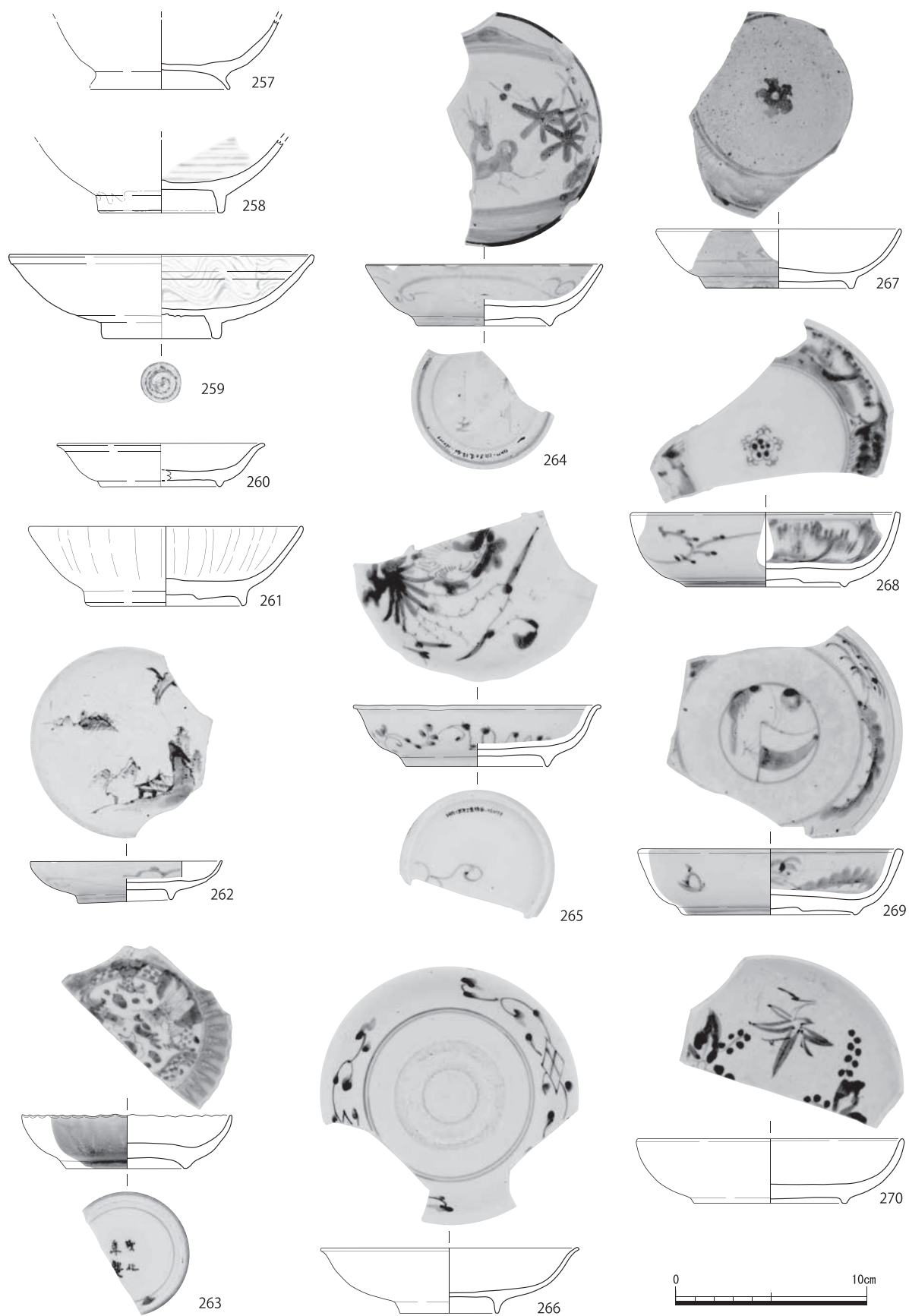
6 第1調査区第2遺構面その他の出土遺物（図版9、第41～43図）

237は陶器の小坏で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、外面下部から畳付は露胎。高台内面は、釉剥ぎが施される。外面高台上部に、釉だれを確認。口径（7.0cm）、器高3.5cm、高台径（4.2cm）。238～241は陶器の碗で、238の胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は露胎。口径（8.8cm）、器高4.8cm、高台径（2.8cm）。239の胎土は、黄灰色を呈す。全体に釉が施され、高台は露胎。口縁部外面に、施文あり。口径8.1cm、器高5.1cm、高台径3.2cm。240の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、高台は露胎。口径（9.1cm）、器高4.3cm、高台径3.7cm。241の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は露胎。見込みに、砂目跡が残る。口径（12cm）、器高5cm、高台径4.2cm。242～251は染付の碗で、242の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。高台内に、崩し文字が描かれる。口径（11.2cm）、器高6.8cm、高台径4.6cm。243の胎土は、灰白色を呈す。口縁部に、雨降文が描かれる。全体に釉が施され、畳付には釉剥ぎが施され砂が付着する。口径（7.5cm）、器高4.2cm、高台径3.5cm。244の胎土は、灰白色を呈す。口縁部に、雨降文が描かれる。全体に釉が施され、畳付には釉剥ぎが施され砂が付着する。口径（8.6cm）、器高4.6cm、高台径（4.0cm）。245の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口縁に雨降文が描かれる。口径（8.0cm）、4.7cm、3.6cm。246の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付には釉剥ぎが施される。口径（7.3cm）、器高5.2cm、高台径3.7cm。247の胎土は、白色を呈す。全体に釉が施され、畳付には釉剥ぎが施される。高台に雷文を描く。口径（7.2cm）、器高6.1cm、高台径4.7cm。248の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付には釉剥ぎが施される。高台内面に、「成化年製」を記す。口径（8.2cm）、器高5.2cm、高台径3cm。249の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径（8.8cm）、4.7cm、（3.9cm）。250の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付には釉剥ぎが施される。口径（9.2cm）、器高4.9cm、高台径4.0cm。251の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径（10.0cm）、器高4.5cm、高台径（4.0cm）。252は色絵の碗で、胎土は白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径（9.6cm）、器高5.6cm、高台径（3.5cm）。253～256は染付の碗で、253の胎土は、黄褐色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径（9.6cm）、器高6cm、高台径4.2cm。254の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付には釉剥ぎが施される。口径（11.0cm）、器高5.7cm、高台径（4.6cm）。255の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付には釉剥ぎが施される。見込みに、砂目跡が3ヶ所残る。口径（11.4cm）、器高5.8cm、高台径（6cm）。256の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、高台は釉剥ぎが施される。口径（11.0cm）、器高5.6cm、高台径（6.0cm）。257は土師質の碗で、胎土は褐

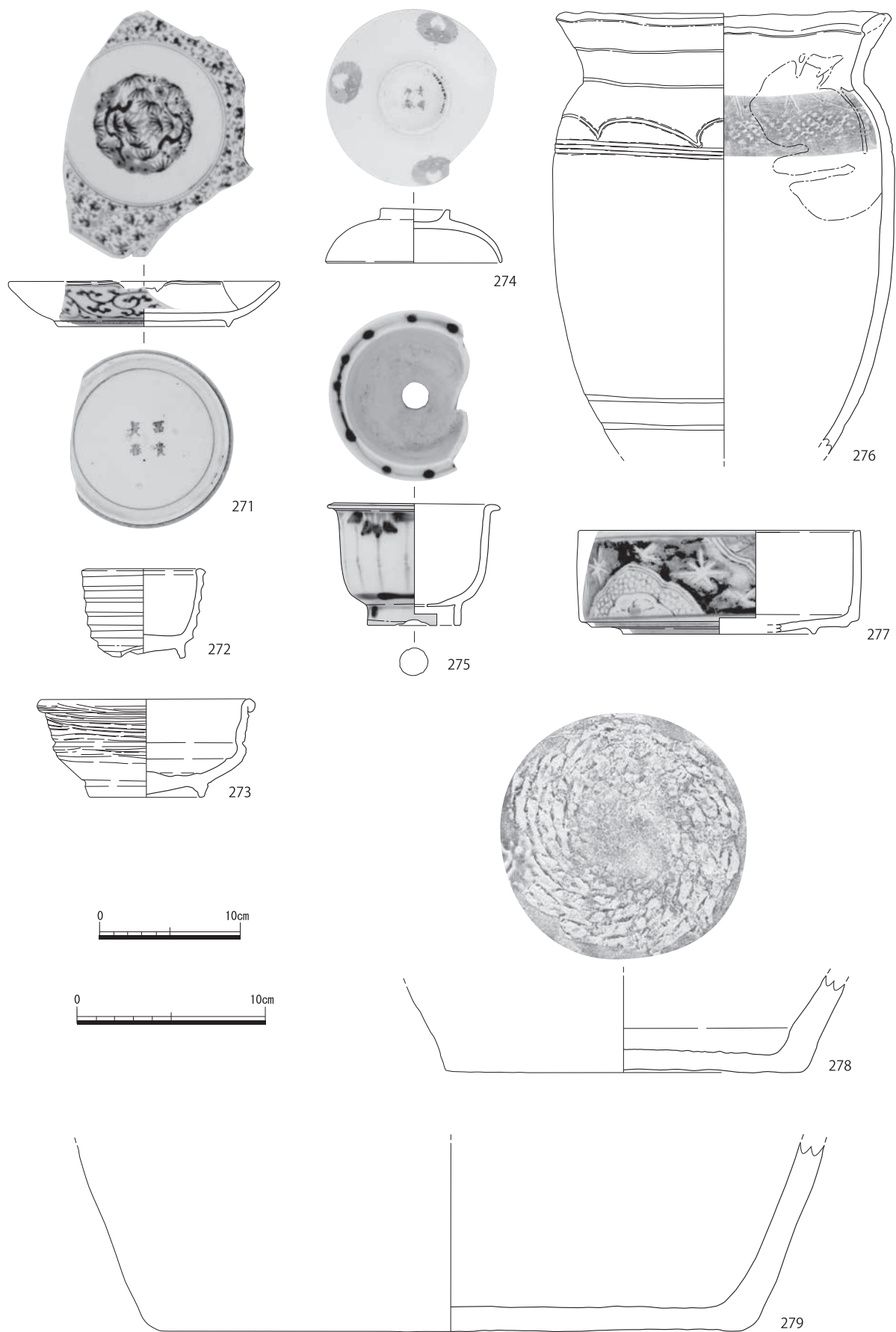


第 41 图 第 1 区第 2 遺構面出土遺物実測図① (1/3)

色を呈す。口径不明、器高不明、高台径（7.2cm）。258は陶器の埴で、胎土は黄褐色を呈す。外面に青磁釉が施され、外面はハケ目文が施される。高台は露胎、畳付は化粧土が施される。口径不明、器高不明、高台径（6.6cm）。259～261は陶器の皿で、259の胎土はにぶい黄橙色を呈す。全体に釉が施され、高台は露胎。高台内面に、工具痕が残る。見込みは、一部釉剥ぎが施される。口径（16.0cm）、器高4.4cm、高台径（6.2cm）。260は磁器の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付には釉剥ぎが施される。口径（10.8cm）、器高2.13cm、高台径（6.3cm）。261の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、高台は蛇ノ目釉剥ぎが施される。口径（14.4cm）、器高4.2cm、高台径8.4cm。口縁は、輪花口縁。262～271は染付の皿で、262の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、高台は釉剥ぎが施される。外面は、唐草文が描かれる。口径10.0cm、器高2.2cm、高台径5.0cm。263の胎土は、灰白色を呈し、口縁は、輪花口縁となる。状全体に釉が施され、畳付には釉剥ぎが施される。口径（11.0cm）、器高2.8cm、高台径6.3cm。264の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。外面に唐草文、高台内に「大明年製」の文字が描かれる。口径（12.4cm）、器高3.2cm、高台径（7.0cm）。265の胎土は、灰白色を呈し、口縁は輪花口縁となる。状全体に釉が施され、畳付には釉剥ぎが施される。口径（13.0cm）、器高3.2cm、高台径（7.6cm）。266の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付けは釉剥ぎが施される。見込みは、蛇ノ目釉剥ぎが施される。口径13.5cm、器高3.4cm、高台径5.2cm。267の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付には釉剥ぎが施される。内面見込みに花文、外面は唐草文。口径（12.8cm）、器高3.2cm、高台径7.7cm。268の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、蛇ノ目釉剥ぎが施される。口径（14.1cm）、器高3.9cm、高台径8.4cm。269の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、蛇ノ目釉剥ぎが施される。口径（13.3cm）、器高3.4cm、高台径9.2cm。270の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付には釉剥ぎが施される。口径（14.0cm）、器高3.4cm、高台径（8.1cm）。271の胎土は、灰白色を呈し、外面に唐草文が描かれる。全体に釉が施され、畳付には釉剥ぎが施され、高台内に「富貴長春」を記す。口径（19.2cm）、器高3.2cm、高台径12.1cm。272は陶器の火入で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、高台は三足から成り露胎。口径6.6cm、器高4.7cm、高台径4.7cm。273は陶器の火入で、胎土は赤褐色を呈す。内面は回転ナデ、外面はハケ目及び横方向の沈線、外面下部は回転ヘラ削りが施される。口径（12.0cm）、器高5.2cm、底径6.2cm。274は染付の蓋で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付には釉剥ぎが施される。口径9.4cm、器高2.9cm、高台径3.7cm。275は染付の鉢で、胎土は灰白色を呈す。外面は全体的に釉が施され、高台及び内面は露胎。底部に、穿孔あり。口径9.2cm、器高6.5cm、高台径5.0cm。276は陶器の壺で、胎土は暗褐色を呈す。全体に釉が施され、口縁部及び内面下部直下は露胎。外面は、タタキの上から鉄釉が施される。外面項頸部中位には一条の沈線、下部には一条の沈線が施される。胴部上部には一条の波状文、波状文直下には三条調整が施される。胴部下部には、一条の沈線が間隔を置いて施される。口径不明、器高不明、底径18.8cm。277は色絵の鉢で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、高台は釉剥ぎが施され砂が付着する。口径（15cm）、器高5.5cm、高台径（10.2cm）。278は陶器の甕で、胎土は茶褐色を呈す。全体に釉が施され、内面はヨコナデ、底部は叩き目痕が残る。外面は、ナデによる調整が施される。口径不明、器高



第 42 図 第 1 区第 2 遺構面出土遺物実測図② (1/3)



第43図 第1区第2遺構面出土遺物実測図③ (271・276は1/4、他は1/3)

不明、底径 18.8cm。279 は陶器の甕で、胎土は暗灰色を呈す。全外面下部は斜め方向のナデ、底部はヨコナデが施される。底径 32.4cm。

7 第 2 調査区第 2 遺構面土坑

SK-225 (第 44 図)

調査区の北、SK-264 の北に位置する不整形の土坑で調査区外へ延びる。長軸 1.1m・短軸 0.9m、深さは最深部で 0.5m を測る。底は全体的に平坦で、壁の立ち上がりは急な傾斜。

出土遺物 (第 45・46 図)

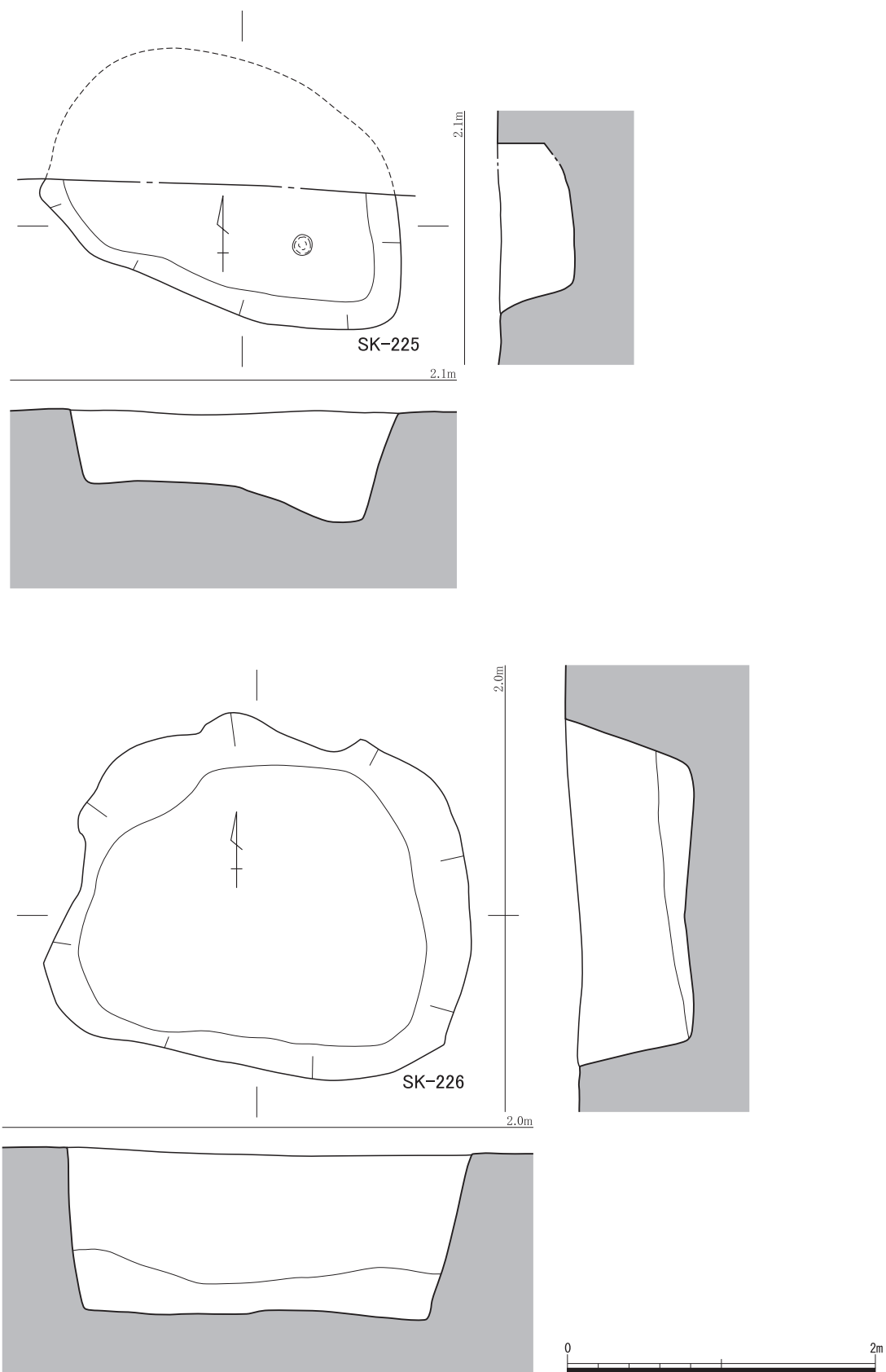
280 と 281 は染付の小坏で、280 の胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 6.8cm、器高 4.2cm、高台径 3.3cm。281 の胎土は、灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 7.1cm、器高 4.1cm、高台径 3.2cm。282 ～ 285 は染付の皿で、282 の胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、高台は蛇ノ目釉剥ぎが施される。口径 14.0cm、器高 3.8cm、高台径 8.6cm。283 の胎土は、灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。器形は、八角形を呈する。口径 23.6cm、器高 4.0cm、高台径 12.4cm。284 の胎土は、灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は露胎。高台内面に、目跡が 7 ケ所残る。口径 30.2cm、器高 5.0cm、高台径 17.6cm。285 の胎土は、灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は露胎。見込みに、山水文が描かれる。口径 23.3cm、器高 3.4cm、高台径 13.8cm。286 は漆器の蓋で、内面は赤漆、外面は黒漆が塗られる。口径 (12.4cm)、器高 (2.7cm)、つまみ径 (7.3cm)。287 は磁器の器種は鉢で、胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、外面に松竹梅文が描かれる。口径 12.6cm、器高 4.7cm、底径 11.2cm。288 は染付の瓶で、胎土は灰白色を呈す。外面は全体的に釉が施され、内面には無釉となる。口径 (3.8cm 以上)、器高 18.5cm 以上、底径 8.0cm。289 は染付の鉢で、胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施される。口径 (18.8cm)、器高 7.7cm 以上、高台径不明。290 と 291 は陶器の擂鉢で、290 の胎土は灰赤色を呈す。全体的に釉が施され、畳付けは露胎。内面は櫛描き文が施され、重ね焼きの痕が残る。口径 (35.4cm)、器高 13.42cm、底径 (16.6cm)。291 は、口縁に注ぎ口を伴う。292 は陶器の甕で、胎土は黒褐色を呈す。全体的に鉄釉が施され、外面はヨコナデ、肩部に二条の沈線が施される。内面は工具痕が残るが、摩滅し、壁面上部に釉だれが見られる。口径 22.5cm、器高 43.5cm、底径 18.5cm。

SK-226 (第 44 図)

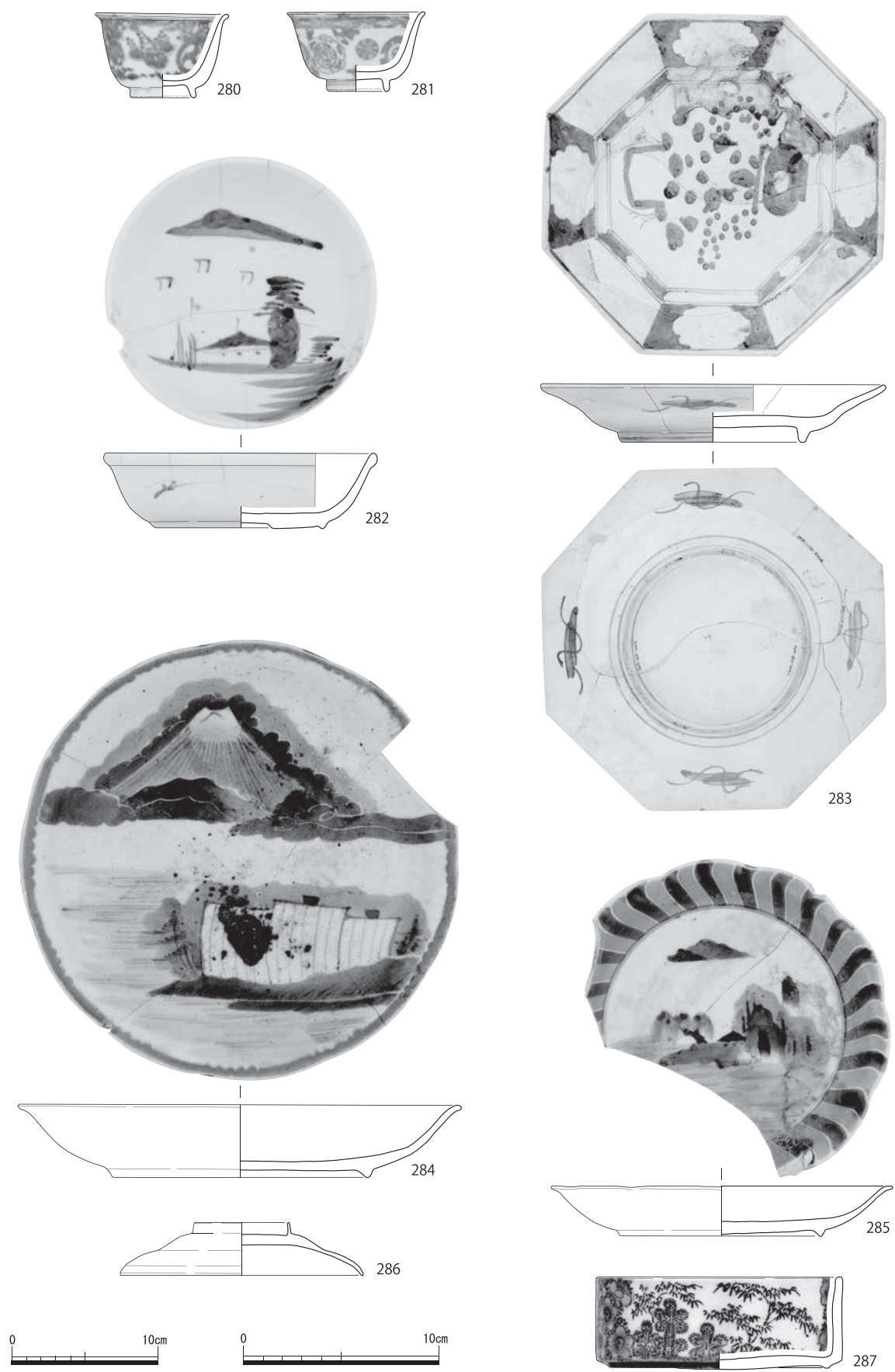
調査区の北、SK-225 の南に位置する不整形の土坑。長軸 2.6m・短軸 2.2m、深さは最深部で 1.0m を測る。底は全体的に平坦で、壁の立ち上がりは急な傾斜。

出土遺物 (図版 9、第 47～51 図)

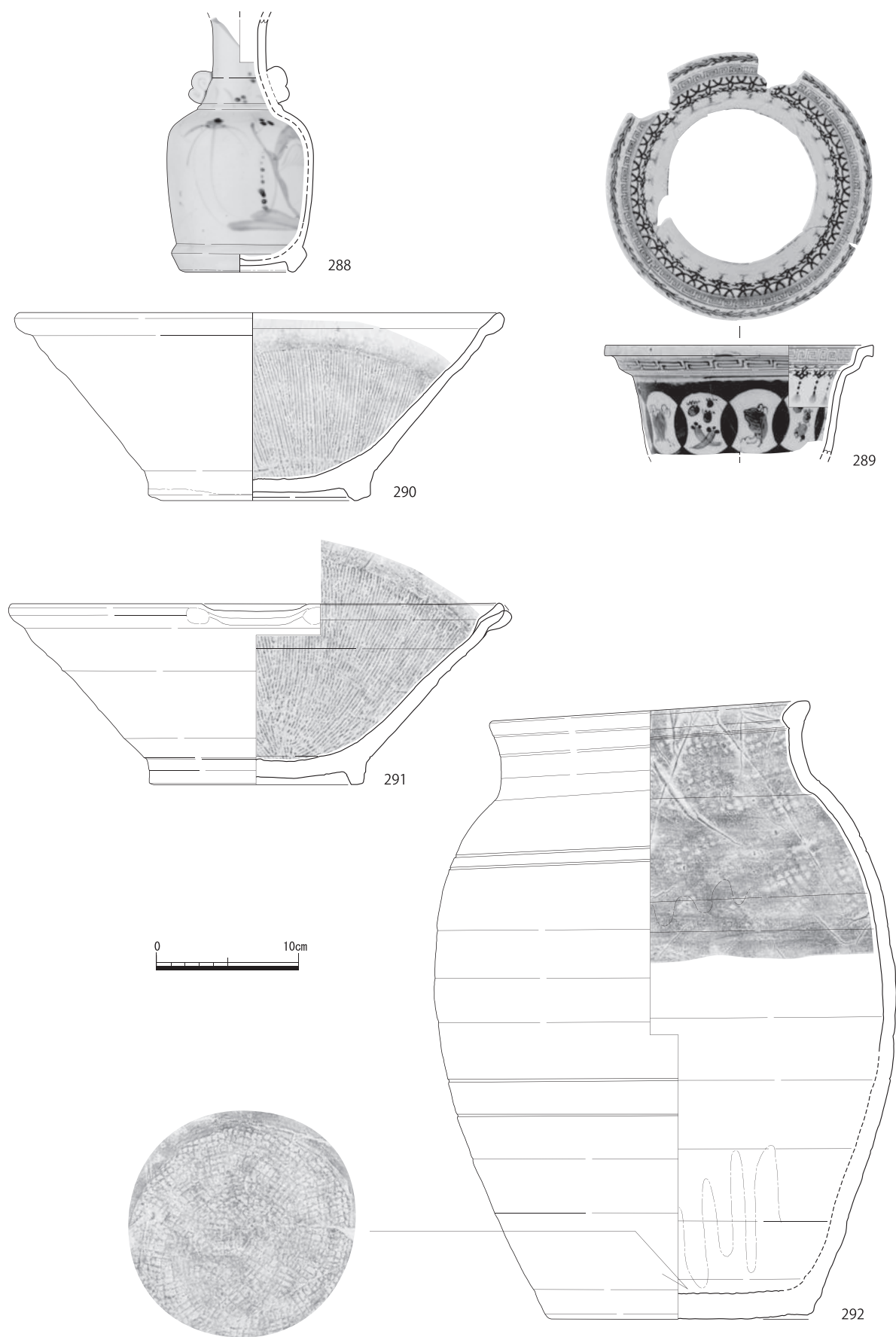
293 は染付の碗で胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 9.8cm、器高 5.6cm、高台径 4.0cm。294 は陶器の小碗で、胎土は灰黄褐色を呈す。全体的に釉が施され、高台は露胎。外面に鉄絵による、杉文が描かれる。口径 9.0cm、器高 5.0cm、高台径 3.2cm。295 は染付の碗で、胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥



第 44 図 SK - 225・226 実測図 (1/40)

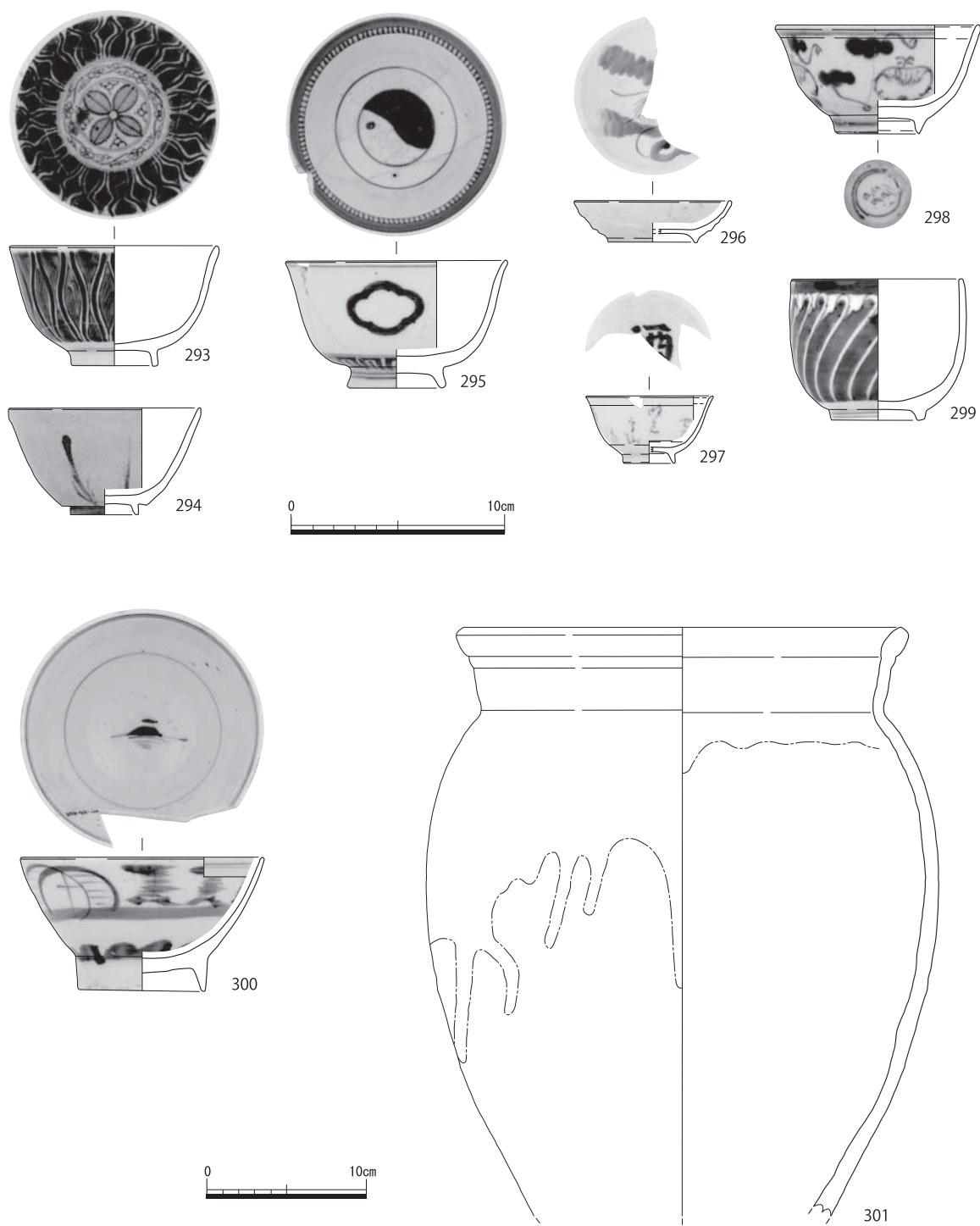


第 45 図 SK - 225 出土遺物実測図① (283~285 は 1/4、他は 1/3)



第46図 SK-225 出土遺物実測図②(1/4)

ぎが施される。口径 10.4cm、器高 6.0cm、高台径 4.4cm。296 は染付の皿で、胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、高台は露胎。口径 7.4cm、器高 1.9cm、高台径 (4.2cm)。297 は染付の小坏で、胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、外面に崩し字が描かれる。口径 (6cm)、器高 3.2cm、高台径 (2.4cm)。298～300 は染付の碗で、298 の胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。外面にスタンプによる、色絵が描かれる。口径 9.6cm、器高 5.1cm、高台径 4cm。299 の胎土は、灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 8.0cm、器高 6.6cm、高台径 4.4cm。300 の胎土は、灰白色を呈す。全体的に釉が施され、高台は露胎。口径 11.4cm、器高 6.3cm、高台径 6.0cm。301 は陶器の甕で、胎土は灰黄褐色を呈す。全体的に釉が施され、外面上部は釉だれする。口径 (28.2cm)、器高 36.9cm 以上。302 は染付の皿で、胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、高台は露胎。口径 (15.0cm)、器高 5.0cm、高台径 8.4cm。口縁は、輪花口縁。303 と 304 は染付の鉢で、303 の胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は露胎。口径 16.4cm、器高 8.5cm、高台径 6.7cm。304 の胎土は、灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施され、重ね焼きの痕跡が残る。見込みには、目跡が 4ヶ所残る。口径 (17.6cm)、器高 8.7cm、高台径 6.9cm。305 は陶器の鉢で、胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、高台は露胎。見込みに 4ヶ所目跡が残り、高台内に墨書が描かれる。口径 (20.4cm)、器高 6.8cm、底径 (7.0cm)。306 は瓦質土器の鉢で、胎土は灰白色を呈す。内面はヨコナデ、口縁部はナデ、外面はナデによる調整が施される。外面は、押型文が施される。口径 (20.0cm)、器高 8.1cm 以上、高台径は不明。307 は陶器の皿で、胎土は黄灰色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。見込みに、目跡が残る。口径 22.1cm、器高 6.3cm、底径 8.0cm。口縁は、輪花口縁。308 は染付の皿で、胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、高台は蛇ノ目釉剥ぎ。見込みに、山水文が描かれる。口径 22.2cm、器高 3.4cm、高台径 14.2cm。309 は陶器の鉢で、胎土は淡黄色を呈す。外面は釉が施され、底部及び内面は露胎。外面に、穿孔を伴う獅子頭の取手が 2ヶ所あり。の口径 (22.2cm)、器高 (18.7cm)、底径 18.8cm。310 は陶器の甕で、胎土は茶色を呈す。全体的に釉が施され、内面に重ね焼きの痕跡が輪状に残り、釉だれが確認できる。外面は、ハケ目による調整が施される。口径 30.4cm、器高 28.61cm、底径 12.4cm。311 は土師質の火入れで、胎土は灰白色を呈す。外面は押し型文、6 条の沈線、内面はナデ及び布目による調整が施される。口径不明、器高 (14.5cm)、底径 19.2cm。312 は土師器の火鉢で、胎土は灰白色を呈す。内面及び外面はナデによる調整が施され、脚部は 3 脚の貼付脚となったが、1 脚は欠損。口径 35.0cm、器高 10.0cm、高台径 20.3cm。313 は陶器の播鉢で、胎土は明黄褐色を呈す。外面及び口縁部は横ナデ、口縁下は沈線、外面底部はナデ、内面は櫛描条痕による調整が施される。口径 31.3cm、器高 13.7cm、底径 14.2cm。314 は陶器の水注で、胎土は灰白色を呈す。内面及び外面に釉が施され、外面下部はケズリ出し高台、口縁は釉剥ぎが施される。口径 6.65cm、器高 10.0cm、底径 4.9cm。315 と 316 は陶器の土瓶で、315 の胎土は灰色を呈す。内面上部から外面下部かけて釉が施され、内面は露胎、回転ケズリ後ナデによる調整が施される。外面は、上部及び注ぎ口下方に沈線、下部から底部にかけては回転ケズリによる調整が施され、煤が付着する。底部は、露胎。口径 (6.1cm)、器高 11.1cm、底径 (5.6cm)。316 の胎土は赤褐色を呈す。全体的に釉が施され、外面上部は



第 47 図 SK - 226 出土遺物実測図① (301 は 1/4、他は 1/3)

櫛目文が施される。口径9.7cm、器高13.6cm、底径7.6cm。317は漆器の椀で、内面及び外面は黒漆が塗られる。高台内に、「山」の文字が描かれる。器高7.7cm以上、底径6.2cm。318は漆器の椀で、内面は赤漆、外面は黒漆が塗られる。外面に、丸文が描かれる。器高3.0cm以上、底径5.6cm。319は陶器の灯明皿で、胎土は明赤褐色を呈す。全体的に釉が施され、外面下部は露胎。底部は、糸切りの痕跡が残る。口径5.8cm、器高3.7cm、底径4.6cm。320は陶器の灯明皿で、胎土は明赤褐色を呈す。全体的に釉が施され、外面下部は露胎、重ね焼きの痕跡が残る。底部は、糸切りの痕跡が残る。口径5.7cm、器高4.0cm、底径4.2cm。321～323は陶器の瓶で、321の胎土は赤褐色を呈す。外面は全体的に釉が施され、釉だれする。畳付は、砂目跡が残り、内面は露胎。口径3.7cm、器高23.8cm、底径7.4cm。322の胎土は、暗赤褐色を呈す。外面は釉が施され、肩部に釉だれ、畳付は砂が付着する。内面は、露胎。口径3.4cm、器高24.1cm、高台径7.8cm。323の胎土は、暗赤灰色を呈す。外面は釉が施され、一部長石釉だれあり、畳付は釉剥ぎが施される。内面は露胎、底部は回転ナデ後ケズリによる調整が施される。口径3.4cm、器高24.9cm、高台径7.6cm。324は染付の徳利で、胎土は灰白色を呈す。外面は釉が施され、畳付は釉剥ぎが施され、内面は露胎。口径4.2cm、器高26.7cm、高台径9.1cm。325は陶器の瓶で、胎土は灰白色を呈す。外面は全体的に釉が施され、畳付及び内面は露胎。頸部に蛸唐草文、体部に松竹梅が描かれる。口径1.2cm、器高14.7cm、高台径4.5cm。326と327は木製の蓋で、326は長軸12.4cm、幅13.1cm、厚さ0.9cm。327は、長軸17.1cm、幅17.1cm、厚さ1.1cm。328と329は下駄で、328は連歯下駄で、長軸23.8cm、幅8.4cm、厚さ2.1cm。329は連歯下駄で、長軸22.2cm、幅10.6cm以上、厚さ7.1cm。330は木製の栓で、長軸7.3cm、幅5.1cm、厚さ5.2cm。331は木製の駒で、長軸4.3cm以上、幅4.9cm、厚さ3.2cm。

SK-227 (第52図)

調査区の北西、SK-226の西に位置する不整形の土坑。長軸2.0m・短軸1.4m、深さは最深部で0.2mを測る。底は全体的に平坦、南側から杭を検出。壁の立ち上がりは急な傾斜。実測に耐えられる遺物は出土していない。

SK-228 (第34図)

出土遺物 (第51図)

332は軒丸瓦で、胎土は灰色。右巻の巴文。

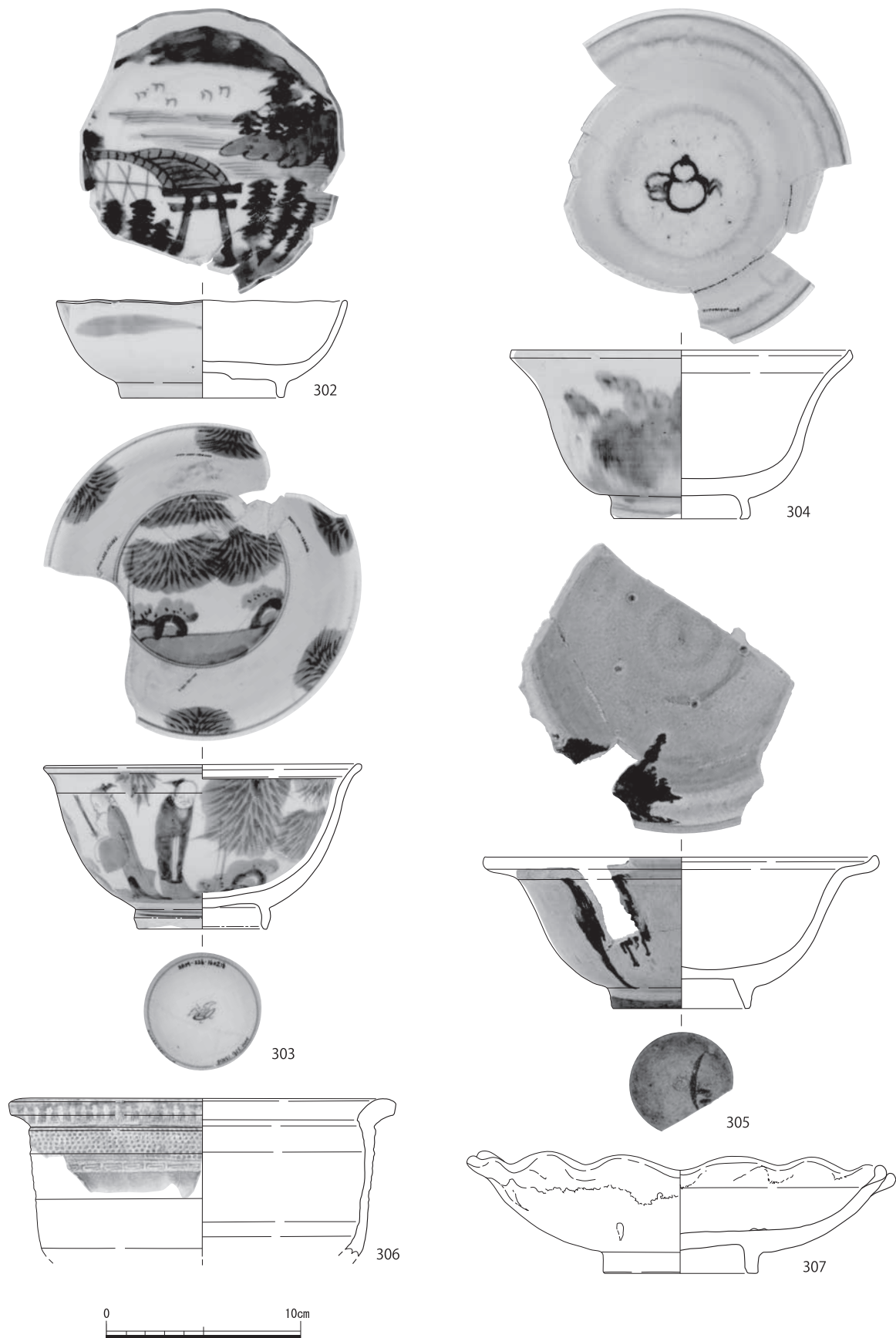
8 溝

SD-85 (第34図)

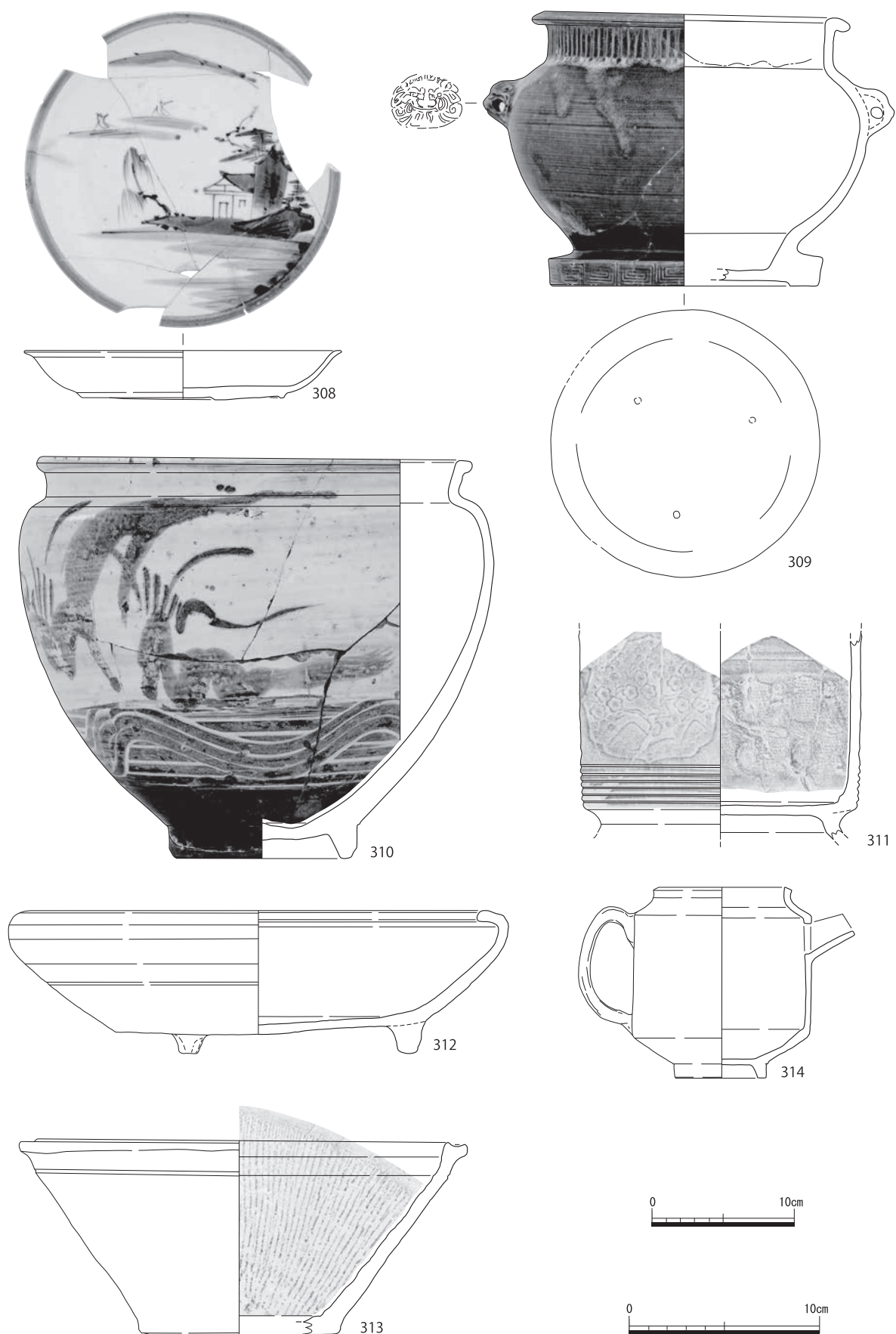
調査区の中央に位置し、東西の調査区外延びる長方形の溝。長軸8.0m以上・短軸4.5m以上、深さは最深部で2.5mを測る。

出土遺物 (図版9・10、第53～62図)

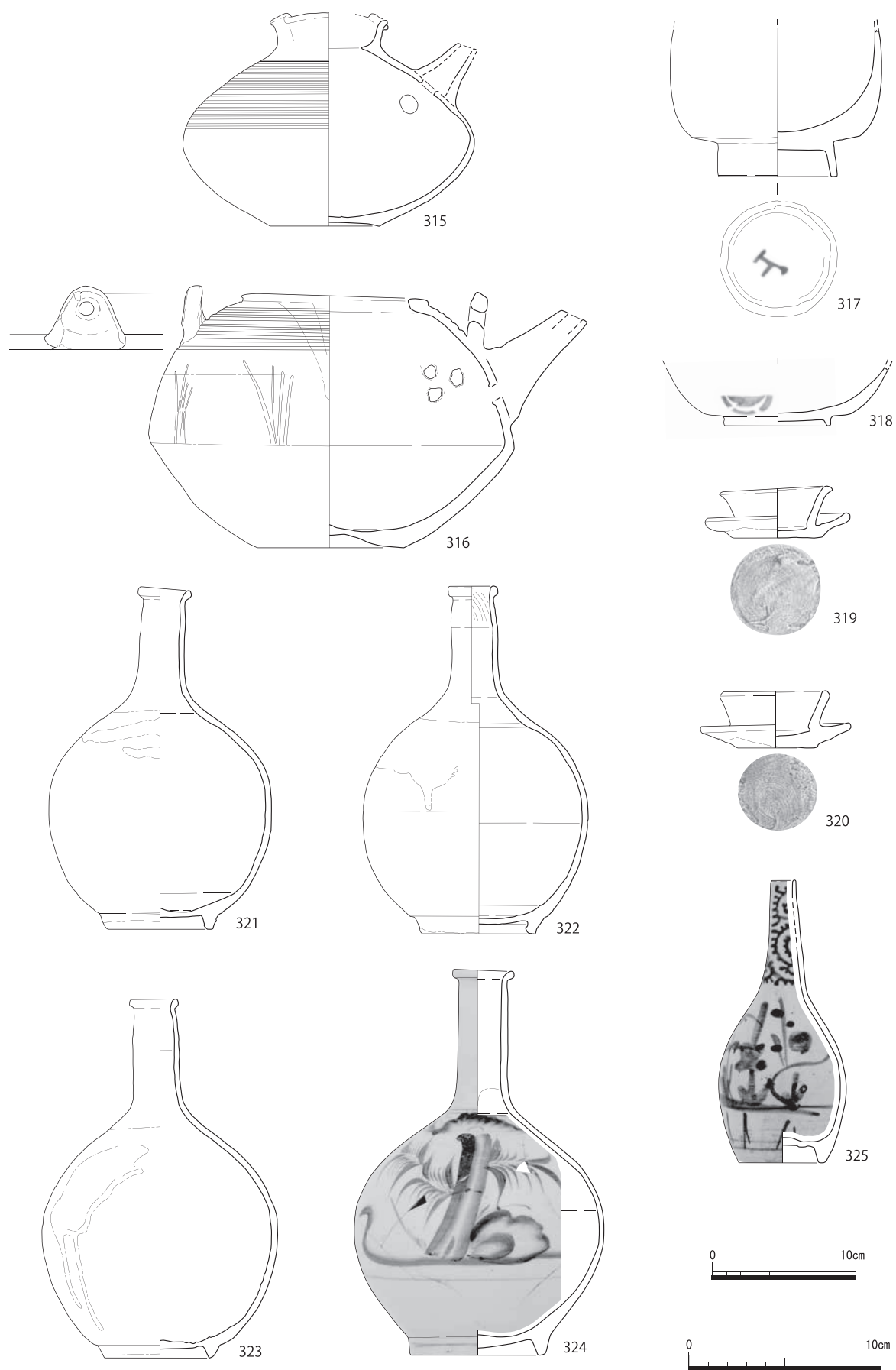
333は陶器の小坏で、胎土は暗褐色を呈す。全体に鉄釉が施され後、長石釉が施され、畳



第 48 図 SK - 226 出土遺物実測図② (1/3)

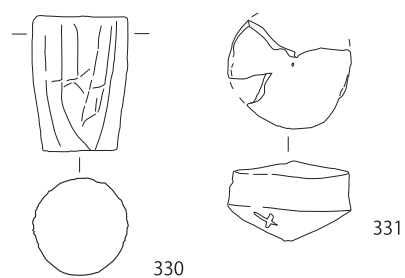
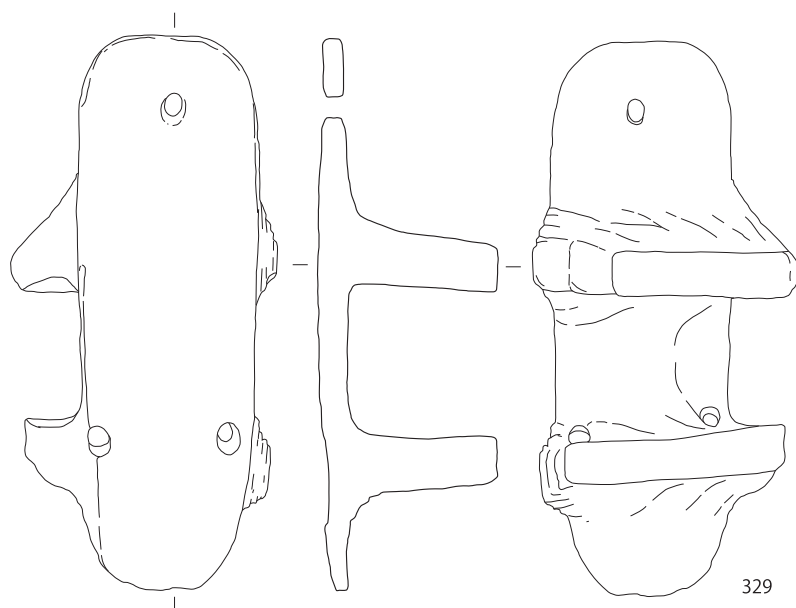
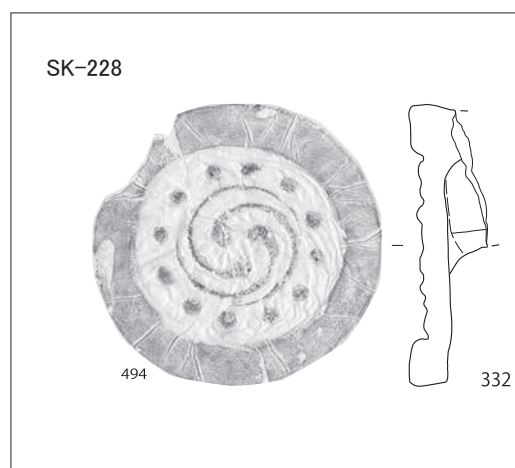
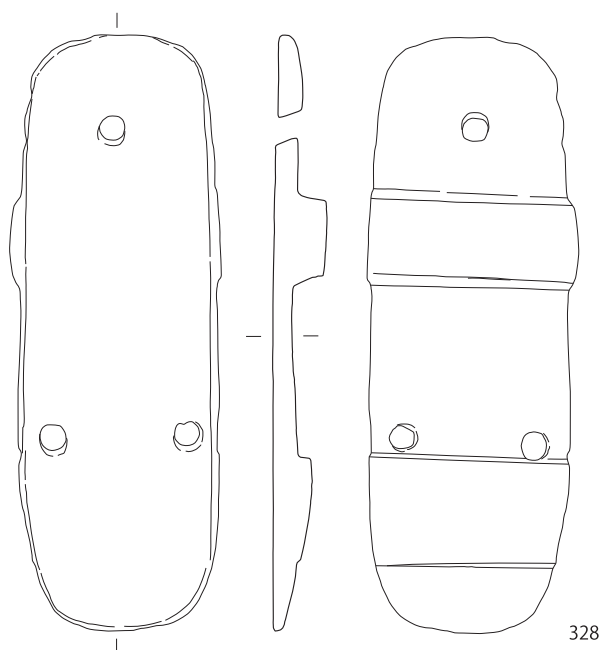
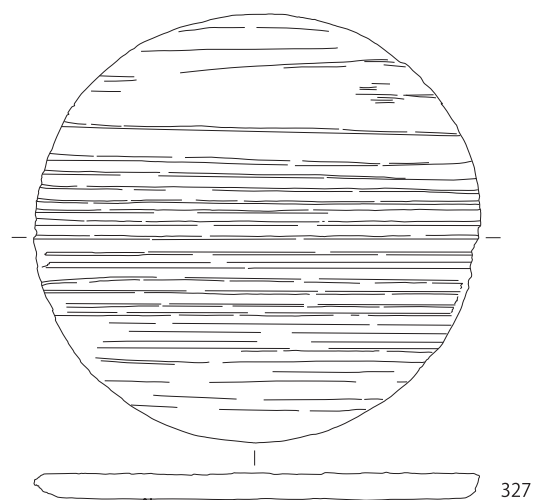
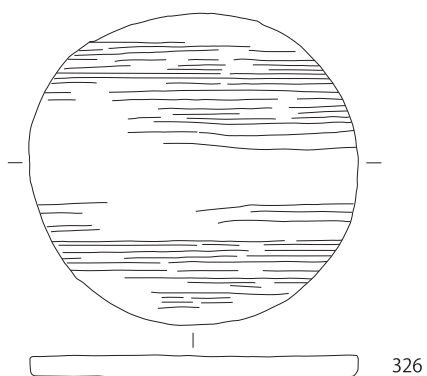


第 49 図 SK - 226 出土遺物実測図③ (314 は 1/3、他は 1/4)

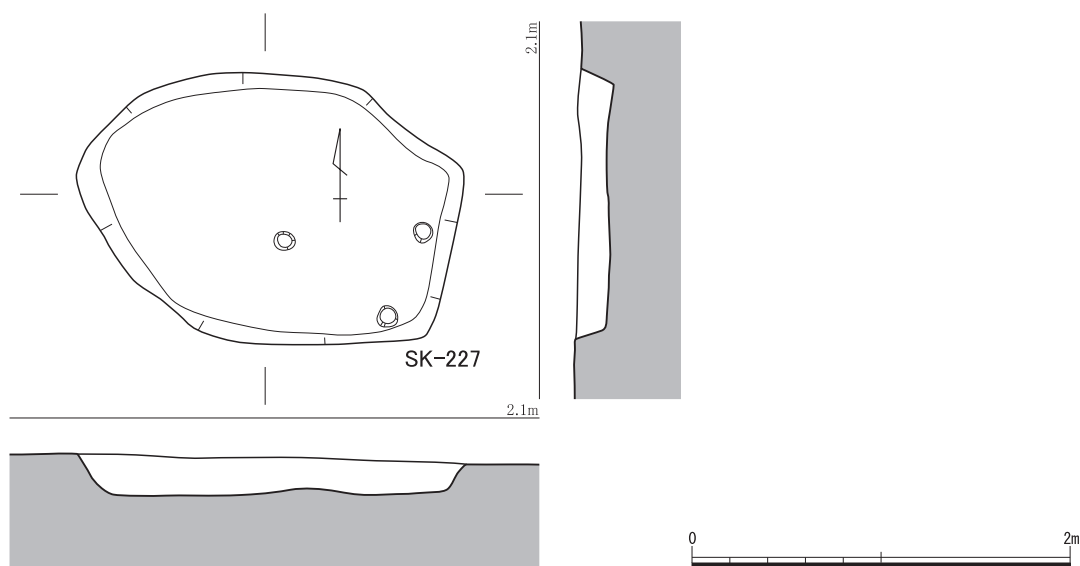


第50図 SK - 226 出土遺物実測図④ (321～324 は 1/4、他は 1/3)

SK-226



第 51 図 SK - 226・228 出土遺物実測図⑤ (330・332 は 1/4、その他は 1/3)

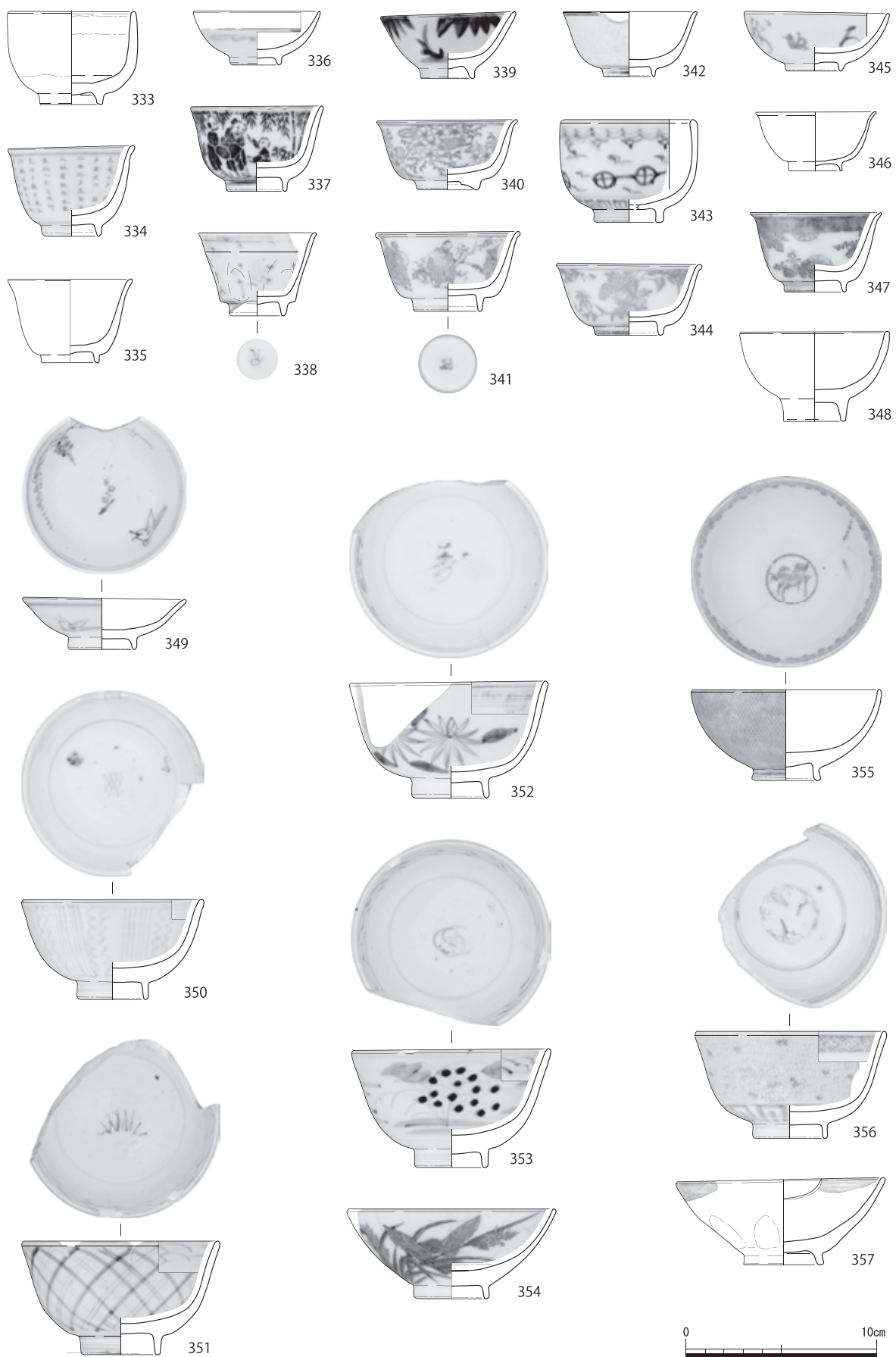


第 52 図 SK - 227 実測図 (1/40)

付は露胎。口径 (6.7cm)、器高 4.9cm、高台径 3.3cm。333～345 は磁器の小坏で 334 は染付、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 6.7cm、器高 4.7cm、高台径 3.1cm。335 の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は露胎。口径 (6.4cm)、器高 4.4cm、高台径 (3.0cm)。336～345 は染付で、336 の胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。内面に、細砂粒付着。外面口縁部に、篋が描かれる。口径 6.7cm、器高 2.8cm、高台径 2.7cm。337 の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 6.9cm、器高 4.5cm、高台径 3.2cm。338 の胎土は、白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 (6.2cm)、器高 4.4cm、高台径 (3.0cm)。339 の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 7.1cm、器高 3.5cm、高台径 2.8cm。340 の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、高台は露胎。口径 7.4cm、器高 3.7cm、高台径 3.3cm。341 の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 7.6cm、器高 4.2cm、高台径 3.6cm。342 の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 (7.1cm)、器高 3.4cm、高台径 2.7cm。343 の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 (7.2cm)、器高 5.4cm、高台径 (3.7cm)。344 の胎土は白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 7.6cm、器高 3.7cm、高台径 3.6cm。345 の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 7.5cm、器高 3.1cm、高台径 2.9cm。346～349 は磁器の坏で、346 の胎土は白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は露胎。口径 6.3cm、器高 3.1cm、高台径 2.8cm。347 の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 6.9cm、器高 4.1cm、高台径 3.3cm。348 の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 7.8cm、器高 4.7cm、高台径 3.2cm。349 の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。外面及び内面に、鳥が描かれる。口径 8.6cm、器高 2.6cm、高台径 3.6cm。350～360・362～364 は染付の碗で、

350 の胎土は白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 9.5cm、器高 5.2cm、高台径 3.7cm。351 の碗胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 10.4cm、器高 7.0cm、高台径 4.2cm。352 の胎土は、白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 10.4cm、器高 6.1cm、高台径 4.0cm。353 の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 10.4cm、器高 6.2cm、高台径 3.8cm。354 の胎土は、白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。見込みに、蛇ノ目釉剥ぎの痕跡が残る。口径 10.9cm、器高 4.7cm、高台径 3.9cm。355 の胎土は、白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 10.0cm、器高 4.7cm、高台径 3.6cm。356 の胎土は、白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 10.0cm、器高 5.7cm、高台径 3.9cm。357 の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。外面下部に 7ヶ所、ケズリが施され、内面及び外面の口縁部に鉄釉による不定形の円が描かれる。口径 11.0cm、器高 4.6cm、高台径 4.2cm。358 の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。外面は、草花文。口径 (10.3cm)、器高 5.7cm、高台径 3.9cm。359 の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 10.5cm、器高 6.0cm、高台径 4.1cm。360 の胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 10.1cm、器高 4.1cm、高台径 3.5cm。361 は色絵の碗で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 11.6cm、器高 4.9cm、高台径 4.4cm。口縁は、輪花口縁。362 の胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 10.2cm、器高 4.2cm、高台径 3.5cm。363 の胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。外面及び内面に、魚が描かれる。口径 11.5cm、器高 5.2cm、高台径 4.6cm。364 の碗で、胎土は白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 11.1cm、器高 5.0cm、高台径 4.1cm。口縁は、輪花口縁。

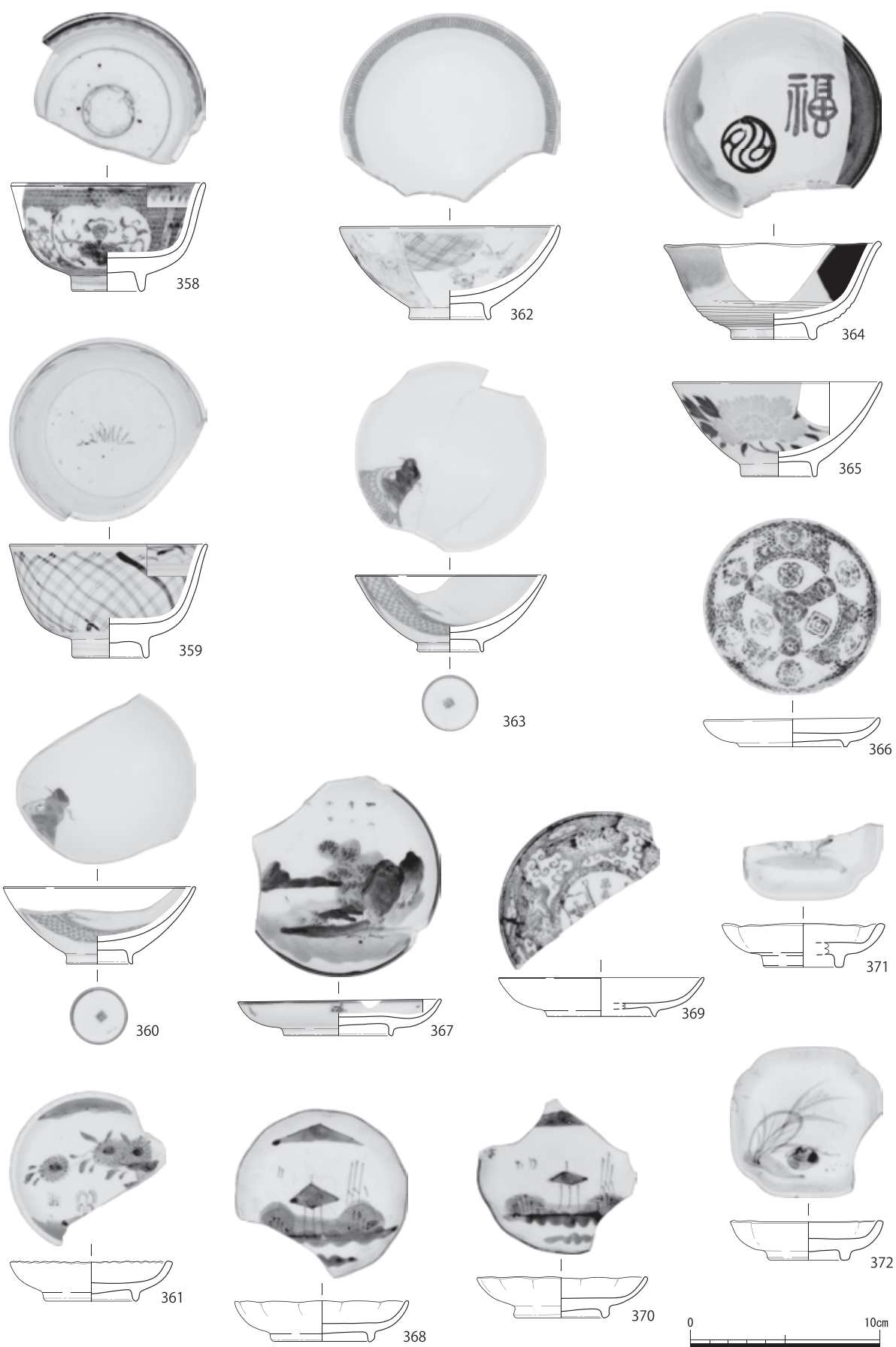
365～384 は染付の皿で、365 の胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 9.3cm、器高 1.5cm、高台径 5.7cm。366 の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。外面に、寿、見込みに山水文が描かれる。口径 10.7cm、器高 2.0cm、高台径 5.7cm。367 の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 9.2cm、器高 2.1cm、高台径 5.4cm。368 の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。見込みに、山水楼阁文が描かれる。口径 (10.8cm)、器高 2.05cm、高台径 (5.7cm)。口縁は、輪花口縁。369 の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 9.0cm、器高 2.1cm、高台径 5.0cm。370 の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。型押しにより、整形された隅入角皿。口径 (8.6cm)、器高 2.3cm、高台径 (4.2cm)。371 の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。型押しにより、整形された隅入角皿。一辺 8.1cm、器高 2.1cm、高台径 4.3cm。372 の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。型押しにより、整形された隅入角皿。一辺 (8.6cm)、器高 2.1cm、高台径 (5.1) cm。373～378 は近代の皿で、373 の胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。見込みに、鳥花文が描かれる。口径 (11.05cm)、器高 1.93cm、高台径 6.4cm。374 の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。見込み



第 53 図 SD - 85 出土遺物実測図① (1/3)

に、人物が描かれる。口径(11.0cm)、器高2.05cm、高台径(6.0cm)。375の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。見込みに、鳥が描かれる。口径11.9cm、器高1.9cm、高台径6.4cm。376の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。見込みに、人物が描かれる。口径11.5cm、器高1.80cm、高台径6.35cm。377の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。見込みに、人物、亀、草花が描かれる。口径(12.0cm)、器高2.3cm、高台径6.95cm。378の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。見込みに、竹、花が描かれる。口径12.85cm、器高2.15cm、高台径7.35cm。379～380、382～384は染付の皿で、379の胎土は、灰色を呈す。全体に釉が施され、高台は蛇ノ目釉剥ぎが施され、見込みに蛇ノ目釉剥ぎが残る。口径21.4cm、器高3.55cm、高台径7.0cm。380の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は蛇ノ目釉剥ぎが施される。見込みに、ハマの痕跡が3ヶ所残る。見込みに、唐草文、松が描かれる。口径12.6cm、器高3.4cm、高台径7.4cm。381は近代の皿で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口縁は、輪花口縁を呈す。見込みに、草花文が描かれる。口径13.7cm、器高3.6cm、高台径6.9cm。382の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は蛇ノ目釉剥ぎが施される。見込みに、ハマの痕跡が3ヶ所残る。見込みに、山水文が描かれる。口径12.8cm、器高3.1cm、高台径8.7cm。383の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は蛇ノ目釉剥ぎが施され煤が付着する。見込みに、ハマの痕跡が3ヶ所残り、鳥、波が描かれる。口径(14.4cm)、器高4.2cm、高台径8.5cm。口縁は、輪花口縁。384の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、高台は蛇ノ目釉剥ぎが施される。口縁は、輪花口縁。口径(14.7cm)、器高4.9cm、高台径(7.1)cm。385は色絵の碗で、胎土は灰白色を呈し、全体に釉が施される。内面及び外面に、花、唐草が描かれる。口径(13.2cm)、器高5.0cm以上、高台径不明。口縁は、輪花口縁。

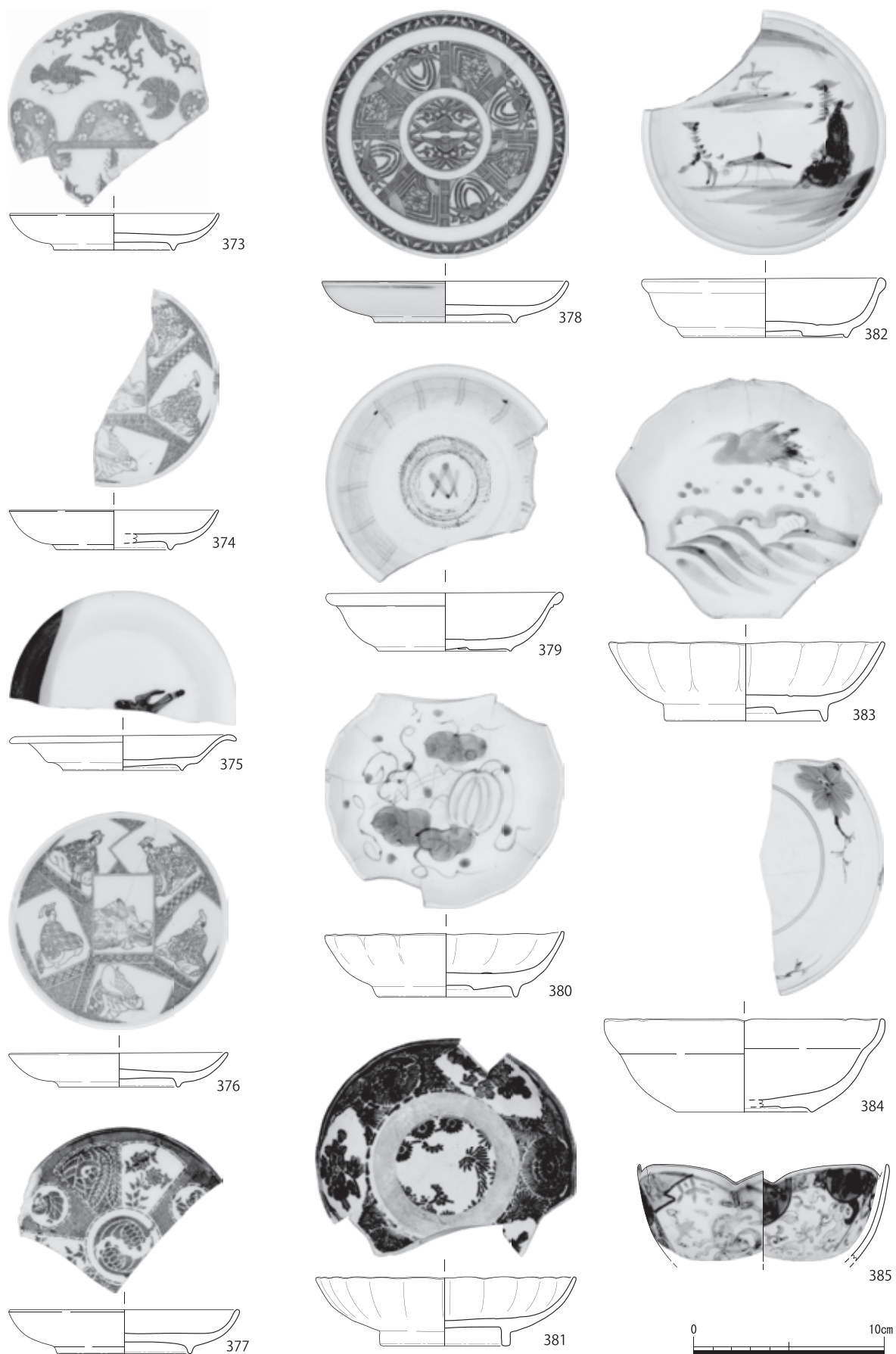
386～398は近代の皿で、386の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は蛇ノ目釉剥ぎが施される。見込みに、ハマの痕跡が3ヶ所残り、扇、唐草文が描かれる。口径14cm、器高4.1cm、高台径7.8cm。口縁は、輪花口縁。387の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。外面に唐草、内面口縁部に雷文、見込みに山水文が描かれる。口縁は、輪花口縁を呈す。口径12.9cm、器高3.08cm、高台径8.15cm。388の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。見込みに扇、草花文、口縁は輪花口縁を呈す。口径12.8cm、器高3.5cm、高台径6.7cm。389の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口縁は、輪花口縁を呈す。見込みに、鳥、松が描かれる。口径(9.5cm)、器高2.9cm、高台径4.6cm。390の胎土は、褐灰色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施され、見込みは化粧掛けが施され、緑色で草花が描かれる。口径10.9cm、器高1.8cm、高台径6.3cm。391の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施され、見込みは化粧掛けが施され、緑色で草、黒色で鳥が描かれる。口径10.2cm、器高2.1cm、高台径6.4cm。392の胎土は、灰色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施され、見込みは化粧掛けが施され、緑色で垣根と花が描かれる。口径9.7cm、器高1.9cm、高台径5.7cm。393胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、高台内蛇ノ目釉剥ぎ。見込みに、竹、花が描かれる。口径11.2cm、器高2.3cm、高台径6.9cm。394の胎土は、灰白色



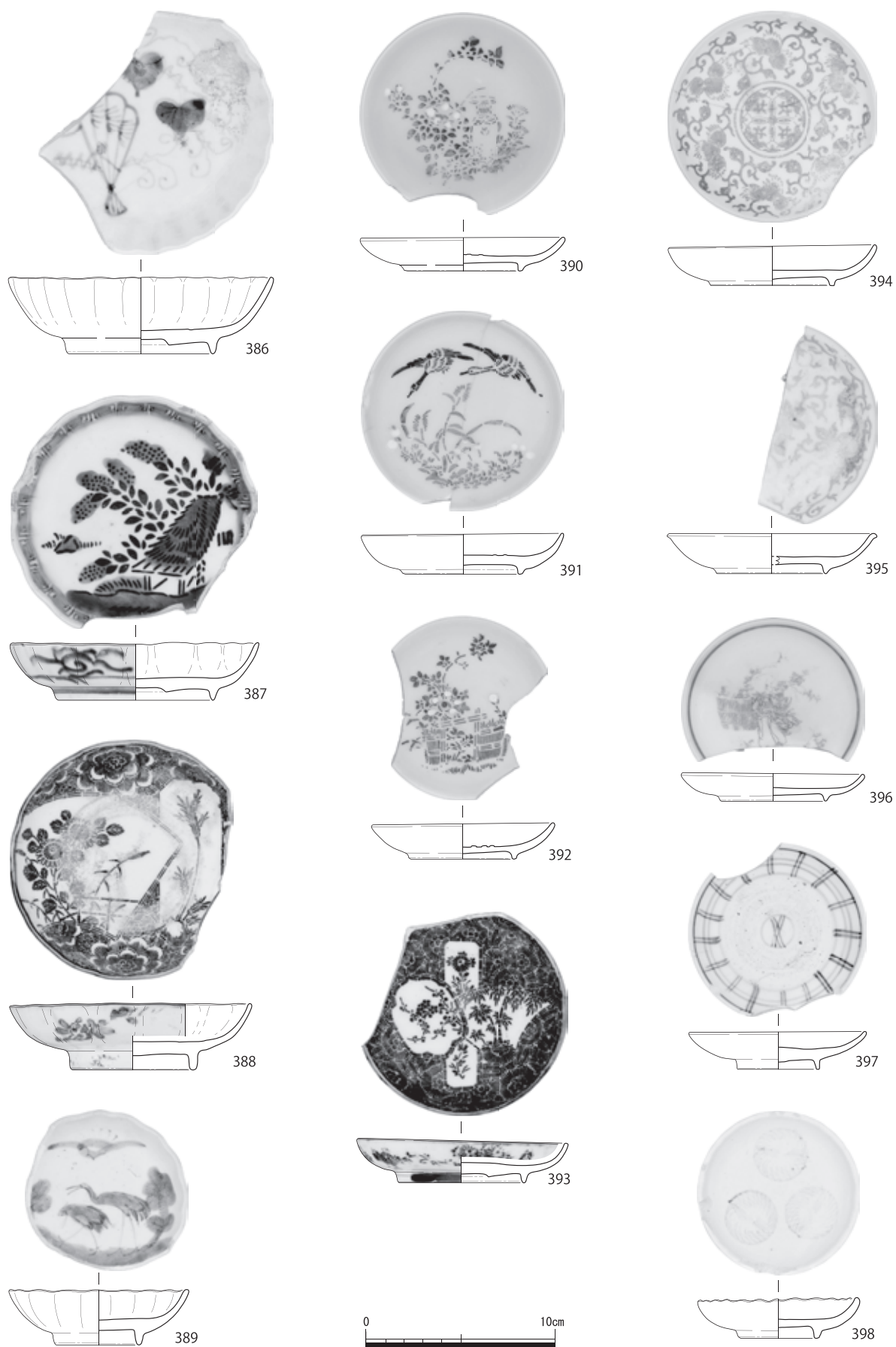
第 54 図 SD - 85 出土遺物実測図② (1/3)

を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。見込みに、緑色で唐草文が描かれる。口径 11.0cm、器高 2.2cm、高台径 6.6cm。395 の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。見込みに、唐草文が描かれる。口径 11.1cm、器高 2.1cm、高台径 5.9cm。396 の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。見込みに、人物が描かれる。口径 9.7cm、器高 1.4cm、高台径 5.7cm。397 の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施され、見込みは蛇ノ目釉剥ぎが残る。口径 9.4cm、器高 2.0cm、高台径 4.4cm。398 の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口縁は輪花口縁を呈す。見込みに、丸文が描かれる。口径 8.6cm、器高 2.1cm、高台径 4.3cm。

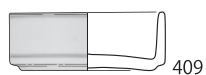
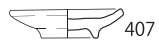
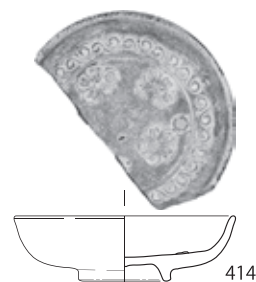
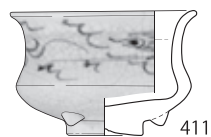
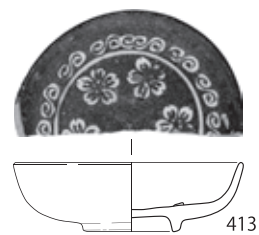
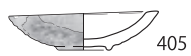
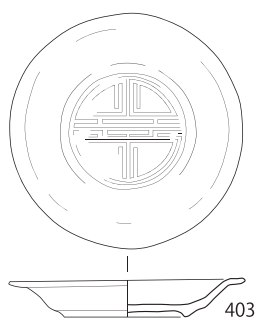
399～402 は近代の皿。399 の胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口縁は、輪花口縁を呈す。見込みに、草、花が描かれる。口径 (21.0cm)、器高 3.7cm、高台径 10.0cm。400 の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎ。口縁は、輪花口縁を呈す。見込みに、人物、花が描かれる。口径 21.2cm、器高 4.1cm、高台径 11.7cm。401 の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。見込みに、鳥、笹、花が描かれる。口径 (29.4cm)、器高 4.6cm、高台径 (16.8) cm。402 の胎土は、灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は削り出高台による露胎。見込みに、葉文が描かれる。口径 15cm、器高 4.8cm、高台径 (7.6cm)。口縁は、輪花。403 は磁器の皿で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎ。見込みに「寿」の文字が描かれる。口径 9.4cm、器高 1.5cm、高台径 5.8cm。404 は陶器の灯明皿で、胎土は暗茶色を呈す。外面上部から内面にかけて釉が施され、外面下部は露胎。口径 7.5cm、器高 2.1cm、高台径 2.7cm。405、406 は陶磁器の紅皿で、405 の胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は露胎。口径 5.9cm、器高 1.5cm、高台径 2.1cm。406 の胎土は、灰白色を呈す。釉が内面及び外面中部にかけて施され、胴部中部から高台にかけては露胎。型押しにより、整形される。口径 (6.1cm)、器高 1.6cm、高台径 2.1cm。407 は磁器の皿で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は露胎。口径 4.5cm、器高 1.2cm、高台径 2.3cm。408 は磁器の坏で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、胴部下部から高台は削りによる露胎。口径 4.7cm、器高 2.0cm、高台径 2.0cm。409 は磁器の鉢で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、口縁部及び畳付は釉剥ぎが施される。口径 6.2cm、器高 2.3cm、高台径 5.6cm。410、411 は磁器の火入れで、410 の胎土は、白色を呈す。外面に釉が施され、内面及び高台は釉剥ぎが施される。口径 7.0cm、器高 4.5cm、高台径 2.9cm。411 の胎土は、暗黄色を呈す。外面は全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。内面は、露胎で回転ナデによる調整が施される。口径 7.4cm、器高 5.0cm、高台径 3.0cm。412 は染付の鉢で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 9.6cm、器高 4.7cm、高台径 4.8cm。413、414 は陶器の皿で、413 の胎土は赤褐色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。見込みに、ハマの痕跡が残り、象嵌が施される。口径 (9.1cm)、器高 2.7cm、高台径 3.8cm。414 の胎土は、灰色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。見込みに、ハマの痕跡が残る。口径 (8.8cm)、器高 2.6cm、高台径 3.6cm。415、416 は色絵の蓋で、415 の胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 10.2cm、器高 2.7cm。416 の胎土は、灰白色



第 55 図 SD - 85 出土遺物実測図③ (1/3)

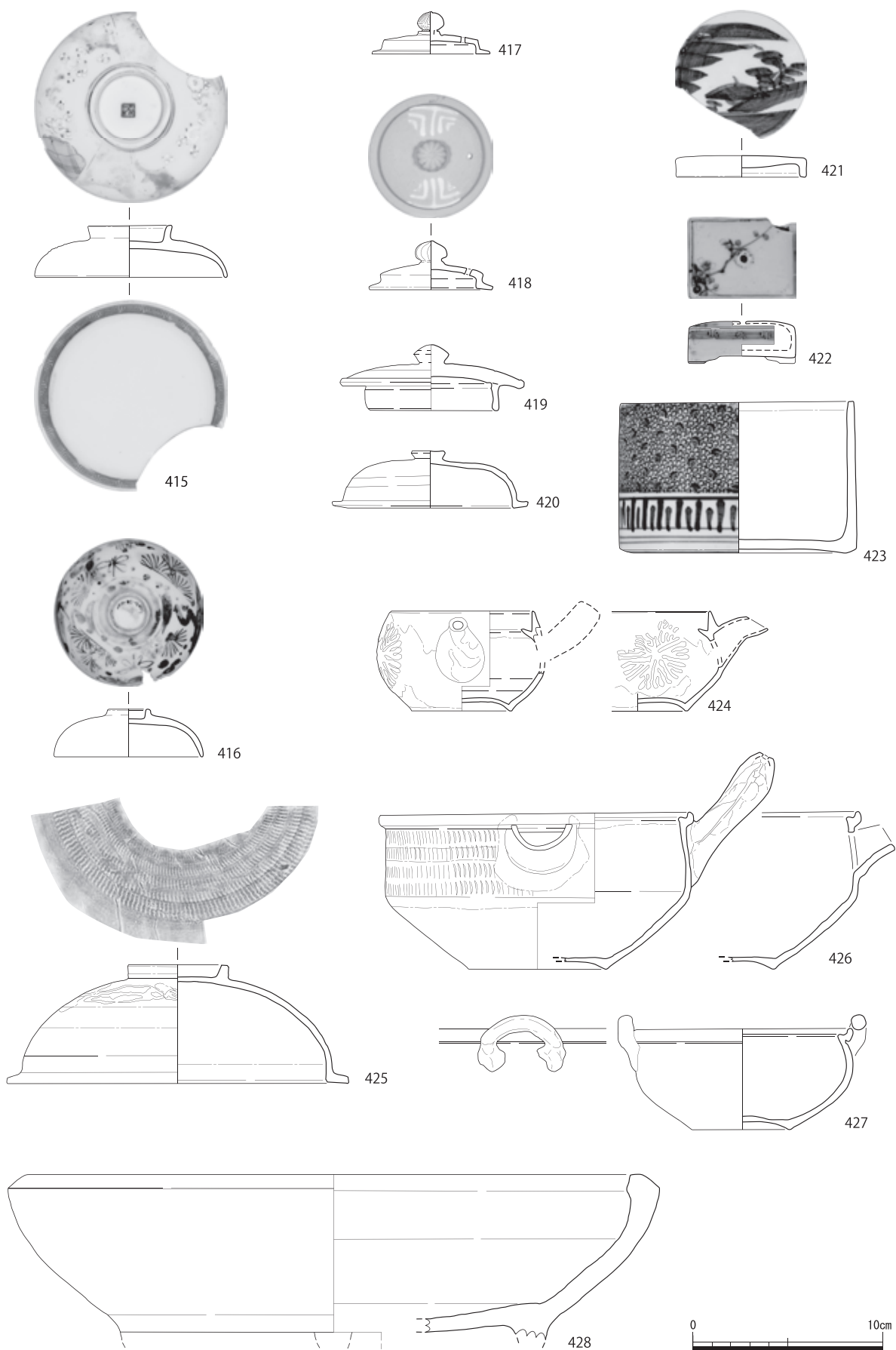


第 56 図 SD - 85 出土遺物実測図④ (1/3)

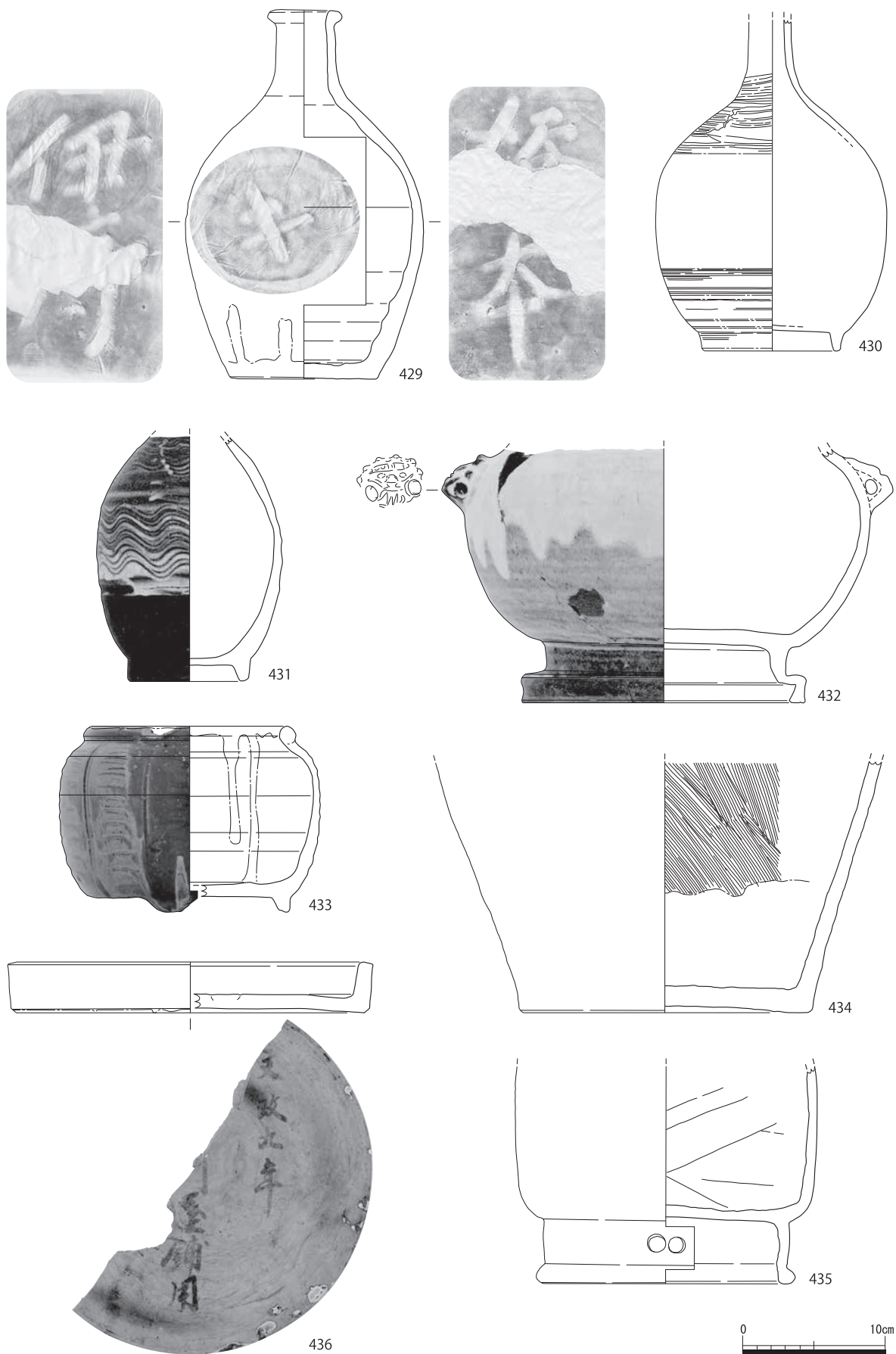


第 57 図 SD - 85 出土遺物実測図⑤ (1/3)

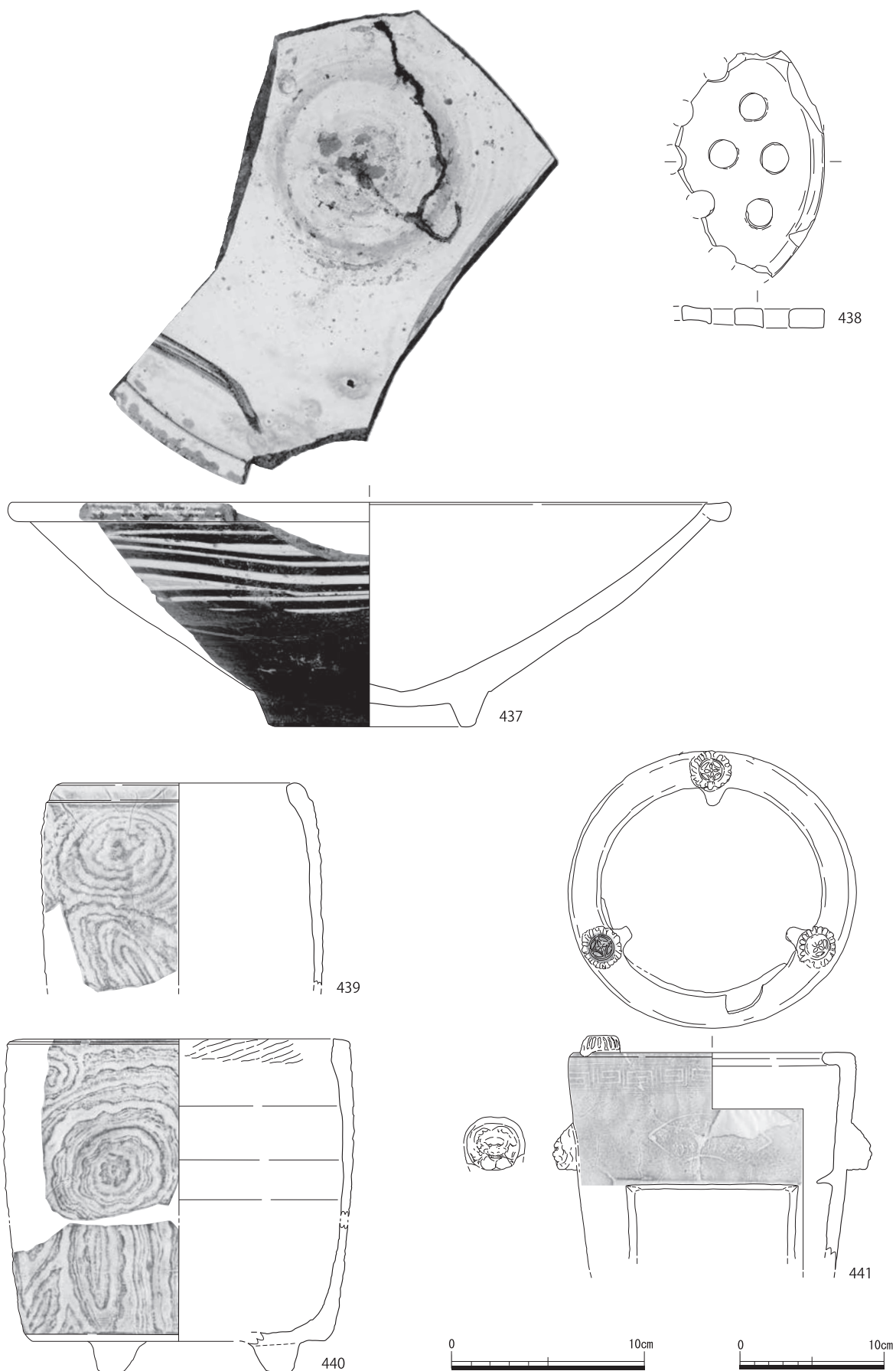
を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径7.8cm、器高2.5cm、つまみ径7.8cm。417～420は陶器の蓋で、417の胎土は明褐色を呈す。外面は釉が施され、内面は露胎。つまみ部の頂部は、長石釉が施され、僅かに可動する。口径6.2cm、器高2.2cm。418の胎土は灰色を呈す。外面は釉が施され、内面は露胎。口径6.5cm、器高2.5cm。419の胎土は、明褐色を呈す。外面は釉が施され、内面は露胎。内面上部は回転ナデによる調整が施される。口径9.7cm、器高3.5cm。420の胎土は、暗黄色を呈す。全体に釉が施され、外面はヨコナデに。口径10.3cm、器高3.0cm。421は染付の蓋で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径6.9cm、器高1.0cm。422は磁器の水注で、胎土は青灰色を呈す。全体に釉が施され、底部は釉剥ぎが施される。器高2.2cm、底径5.7cm。423は染付の鉢で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、口縁部及び畳付は釉剥ぎが施される。口径12.3cm、器高8.0cm、高台径12.4cm。424は陶器の土瓶で、胎土は赤褐色を呈す。全体に釉が施され、内面口縁部及び外面下部は無釉。口径7.6cm、器高5.3cm、底径5.3cm。425は陶器の蓋で、胎土は暗黄色を呈す。全体に釉が施され、高台は無釉。口径18.0cm、器高6.2cm。426は陶器の土鍋で、胎土は灰黄色を呈す。全体的に釉が施され、外面は飛び匏により調整が施される。口径16.4cm、器高8.1cm、底径(7.3cm)。427は陶器の土鍋で、胎土は灰白色を呈す。口縁部及び内面に釉が施され、内面及び外面は回転ナデによる調整が施される。外面下部から底部にかけて、煤が付着する。口径11.3cm、器高6.0cm、底径5.2cm。428は土師質の火鉢で、胎土は暗黄橙色を呈す。内面及び外面上部はヨコナデ、外面下部は工具使用のナデによる調整が施される。外面底部に、3足の脚が付くと考えられる。口径(34.2cm)、器高8.7cm以上。429は陶器の徳利で、胎土は暗黄褐色を呈す。内面及び外面は釉が施され、外面下部は露胎。口径5.2cm、器高25.8cm、高台径10.3cm。430は陶器の瓶で、胎土は灰黄色を呈す。外面は釉が施され、畳付は釉剥ぎが施され、内面は露胎。器高28.2cm以上、高台径9.5cm。431は陶器の花器で、胎土は暗赤色を呈す。外面は釉が施され、内面及び外面底部は露胎。器高17.1cm以上、底径8.4cm。432は陶器の甕で、胎土は赤褐色を呈す。外面は釉が施され、内面及び外面底部は露胎。穿孔を伴う、獅子の頭の取手が二カ所にある。器高17.7cm以上、底径19.8cm。433は陶器の花器で、胎土は灰黄色を呈す。外面は釉が施され、釉だれする。内面及び外面底部は、露胎。口径(14.8cm)、器高13.0cm、底径(14.1cm)。434は土師質の甕で、胎土は灰黄褐色を呈す。内面はハケ目、底部部ナデ、外面は剥落により調整不明、底部はハケ目による調整が施される。器高17.6cm以上、底径20.4cm。435は土師質の火鉢で、胎土は暗黄褐色を呈す。内面はナデ及びケズリ、外面は横ナデによる調整が施される。器高15.2cm以上、高台径18.0cm。436は陶器の鉢で、胎土は灰白色を呈す。全体に釉が施され、外面底部は露胎、文政九年〇屋店舗用」の文字が書かれる。口径(25.5cm)、器高3.5cm、高台径(24.4cm)。437は陶器の鉢で、胎土は赤褐色を呈す。内面は長石釉が施され、重ね焼きの痕跡が残る。外面は鉄釉の上からハケ目による調整が施され、ケズリ出し高台。口径(50.0cm)、器高15.5cm、高台径14.3cm。438は土師質の七輪の中底で、胎土はにぶい橙色。残存高7.4cm以上。439は土師質の鉢で、胎土は暗黄橙色を呈す。内面はヨコナデ、外面は押型による整形が施される。口径12.6cm、器高10.5cm以上。440は土師質の鉢で、胎土は暗黄橙色を呈す。内面はヨコナデ、外面は押型による整形が施される。高台は、3脚の貼付高



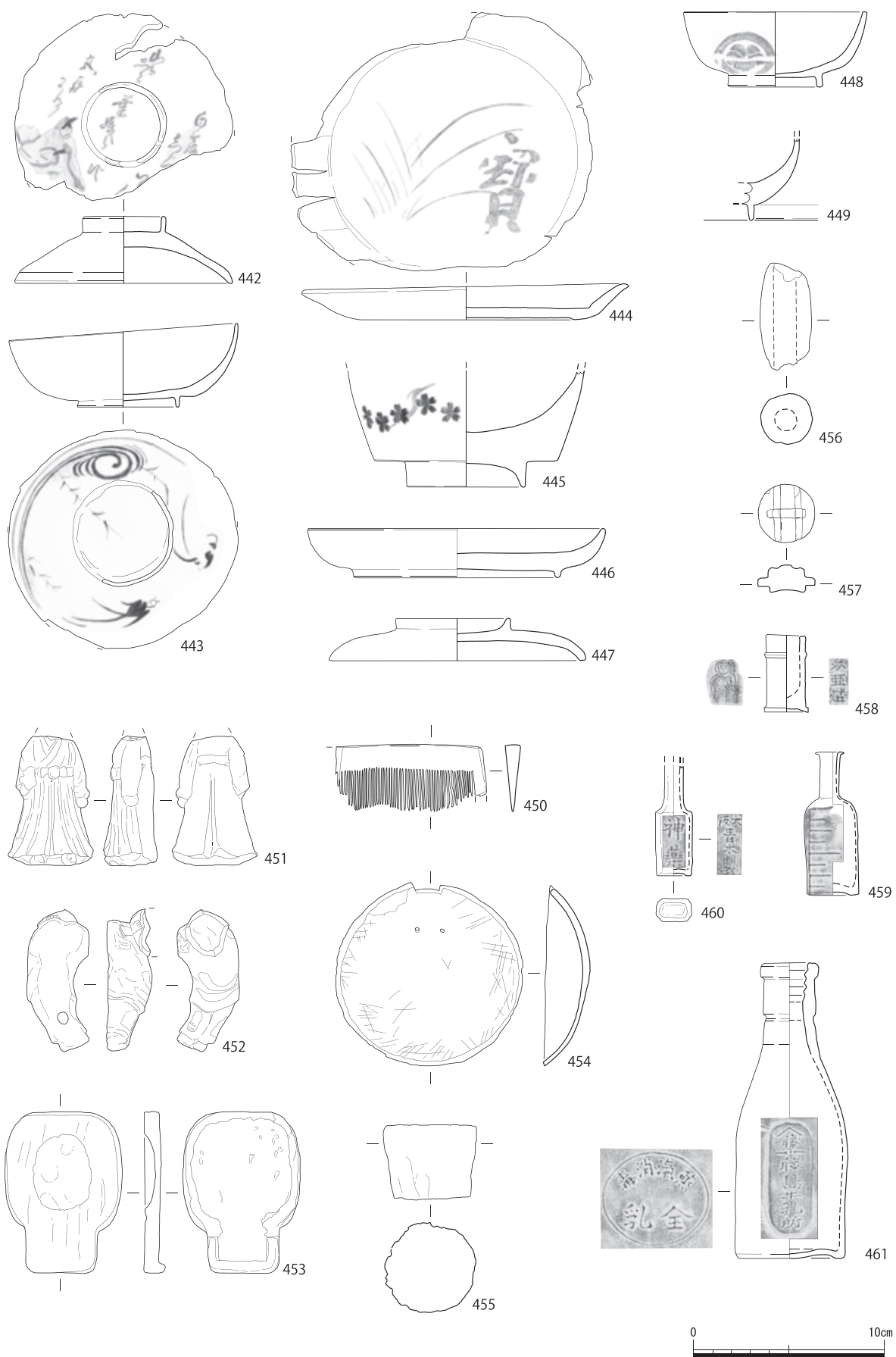
第 58 図 SD - 85 出土遺物実測図⑥ (1/3)



第59図 SD-85 出土遺物実測図⑦(1/4)



第60図 SD - 85 出土遺物実測図⑧ (437・441 は 1/4、他は 1/3)



第 61 図 SD - 85 出土遺物実測図⑨ (1/3)

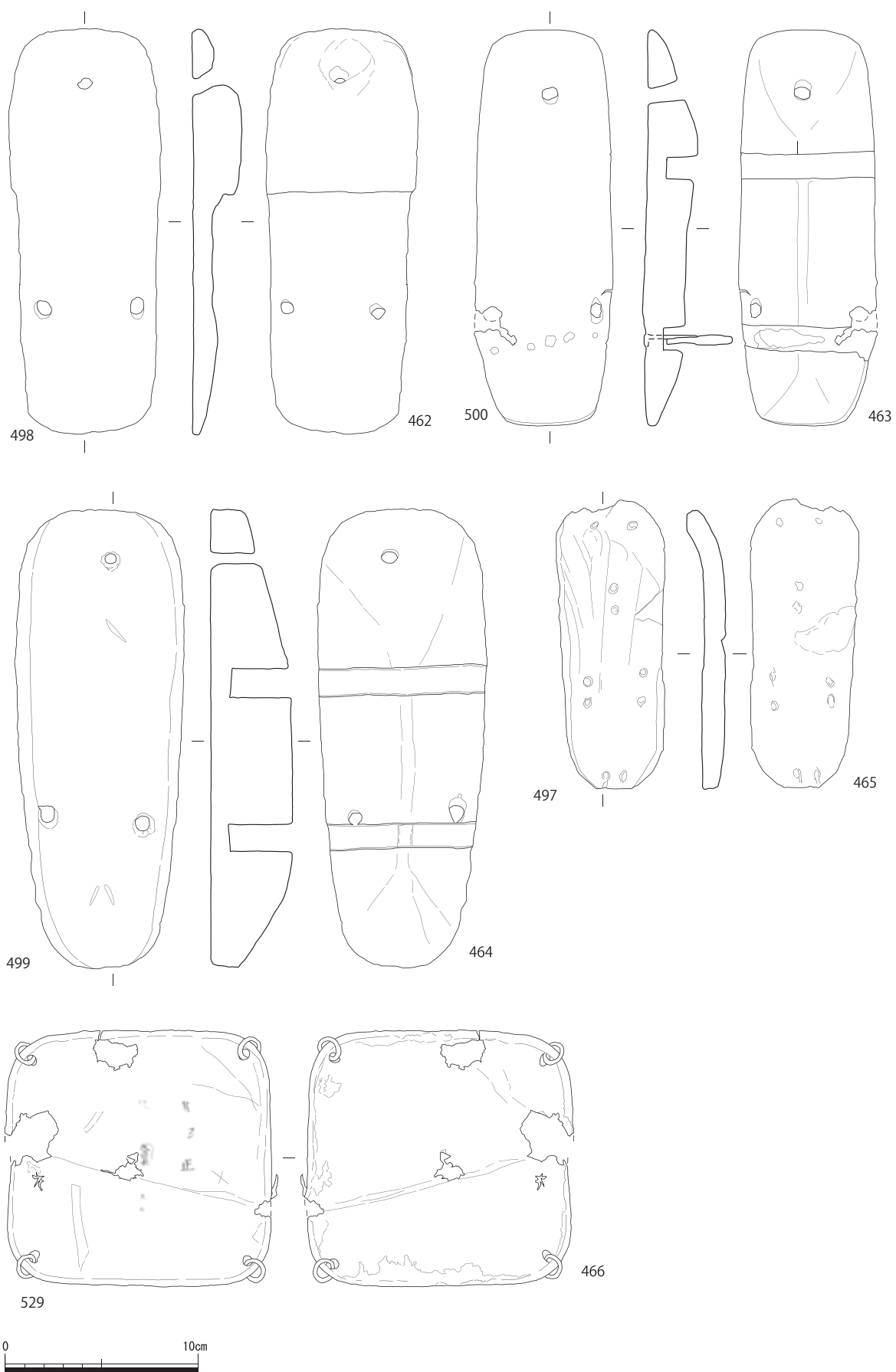
台からなる。口径(17.7cm)、高台径(15.1cm)。441は陶器の七輪で、外面に獅子頭、口縁外面に雷文が施される。442は漆器の蓋で、外面に金彩等で人物と歌が描かれる。口径(11.4cm)、器高3.5cm、つまみ径(4.4cm)。443は漆器の椀で、内面は赤漆、外面は黒漆が塗られる。外面は赤漆で、草と燕図が描かれる。口径12.0cm、器高(4.4cm)、底径(4.8cm)。444は漆器の皿で、内面底部は黒漆、内面壁面から外面は赤漆が塗られる。見込みに、赤漆で「寶」、草図が描かれる。口径(17.1cm)、器高(1.9cm)、底径11.2cm。445は漆器の椀で、内面及び外面に黒漆が塗られ、外面は金彩で桜図が描かれる。器高6.2cm以上、底径(6.2cm)。446は漆器の皿で、内面及び外面は黒漆が塗られる。口径15.6cm、器高2.6cm、底径10.8cm。447は漆器の椀蓋で、内面及び外面は黒漆が塗られる。口径(12.9cm)、器高2.2cm、つまみ径6.0cm。448は漆器の椀で、内面は赤漆、外面は黒漆が塗られる。外面に赤漆で、丸に花文が描かれる。口径(9.6cm)、器高3.9cm、底径(5.0cm)。449は漆器の椀で、内面及び外面に赤漆が塗られ、器高4.3cm以上。450は木製品の櫛で、長軸7.9cm以上、幅3.5cm、厚さ0.8cm。451は磁器色絵の人形で、上衣はにぶい赤色、長衣は白色、靴は黒色の着色が施される。452は染付の人形で、胎土は灰白色、底部に穿孔を施す。453は土師質の土製品で、用途は不明である。中央の窪みには、指頭圧痕が残る。454は木製品で、長軸9.7cm、幅9.7cm、厚さ0.4cm。用途不明。455は木製品の栓で、長軸3.9cm、幅4.9cm、厚さ4.7cm。456は土師質土製品で、土錘。灰黄褐色を呈し、長径5.6cm、幅2.6cm、厚2.6cm。457は陶器の蓋で、胎土は明赤褐色を呈す。外面上部に釉が施され、外面下部は無釉となる。長径3.0cm、幅3.0cm、厚1.4cm。458はガラスの製品で、色調は青色透明。口径2.1cm、器高4.1cm、底径2.3cm。459はガラスの瓶で、色調は透明。口径(1.5cm)、器高7.5cm、底径2.7cm。460はガラスの瓶で、色調は青。表面に神薬、裏面に大阪 青木製藤の文字。口径1.0cm、器高5.8cm、底径1.8cm。461はガラスの瓶で、色調は透明。表面に燕飴消毒、裏面に藤島牛乳所の文字。口径3.0cm、器高15.5cm、底径5.5cm。

462～465は下駄。462は連齒下駄で、長軸21.0cm、幅7.8cm、厚さ2.6cm。463は差齒下駄、長軸20.5cm、幅7.2cm、厚さ2.4cm。464は差齒下駄、長軸23.8cm、幅8.8cm、厚さ4.2cm。465は下駄で、長軸15.0cm、幅5.6cm、厚さ1.2cm。

466は金属製の下皿天秤の皿で、表面に「廿八」、「正」、「久留米?」、「九二」の文字。長軸13.3cm、幅14.1cm、厚さ0.6cm。

9 第2調査区第2遺構面その他の出土遺物(図版10、第63～65図)

467は白磁の碗で、胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎ。口径(5.3cm)、器高3.4cm、高台径(3.0cm)。468～470は染付の小坏で、468の胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径6.8cm、器高5.0cm、高台径3.1cm。469の胎土は白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径6.2cm、器高3.55cm、高台径3.2cm。470の胎土は、灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎ。口径(8.0cm)、器高4.3cm、高台径(3.3cm)。471～474は染付の碗で、471の胎土は、白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径7.1cm、器高5.4cm、高台径3.4cm。

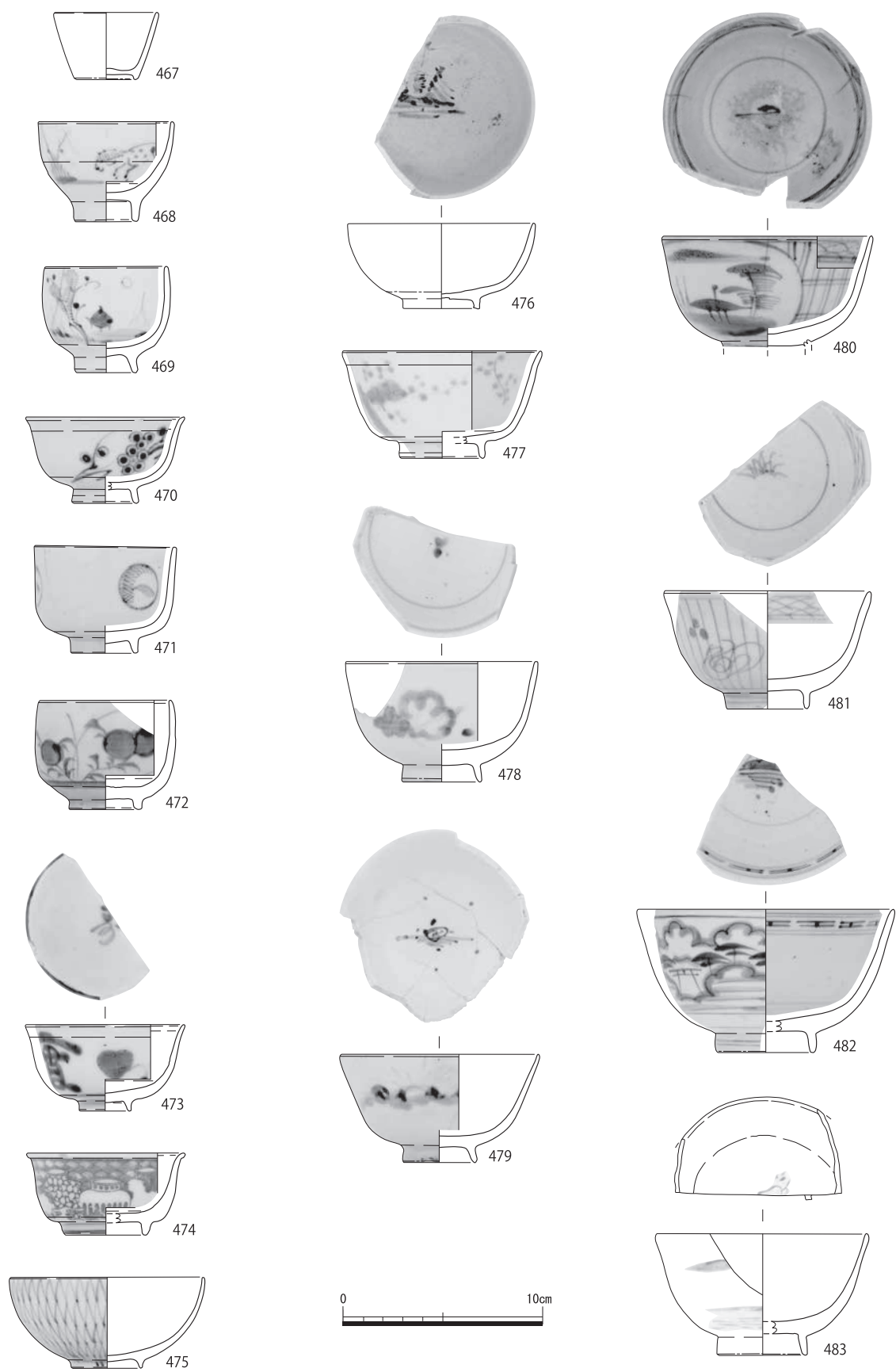


第 62 図 SD - 85 出土遺物実測図⑩ (1/3)

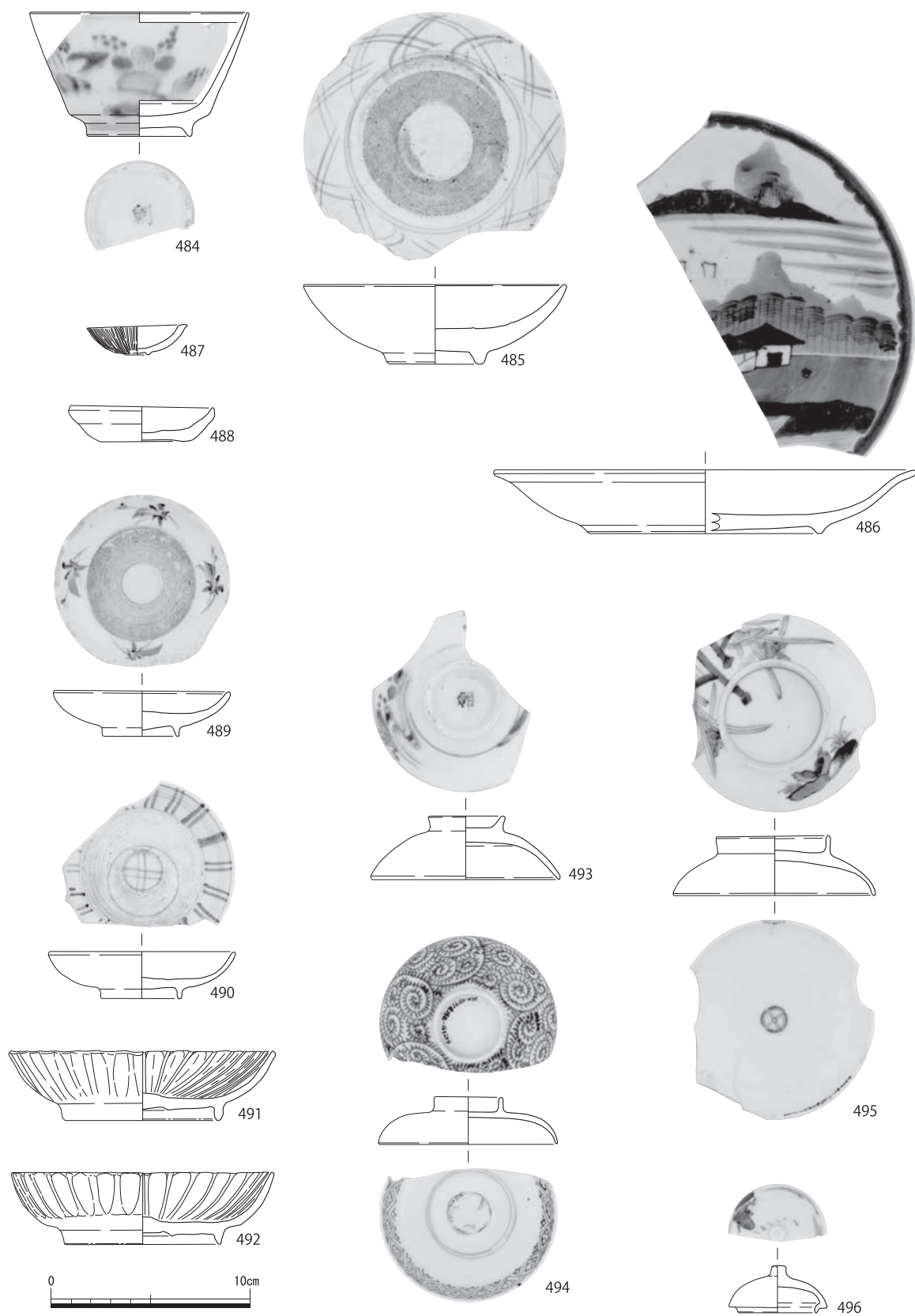
472 の胎土は、灰白色を呈し、全体的に釉が施される。口径 (6.7cm)、器高 5.5cm、高台径 3.6cm。473 の胎土は、灰白色を呈す。全体的に釉が施され、見込みに寿の文字が描かれる。口径 (8.0cm)、器高 4.3cm、高台径 (2.5cm)。474 の胎土は、灰白色を呈し、全体的に釉が施される。口径 (8.0cm)、器高 4.1cm、高台径 (4.0cm)。475 は肥前系染付の丸碗で、胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。網目文 1710～1750 年代。口径 (9.8cm)、器高 4.55cm、高台径 (3.6cm)。476 は京風陶器の碗で、胎土は黄褐色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は露胎。高台内に印有り。17 世紀後半から 18 世紀初。口径 (9.4cm)、器高 4.3cm、高台径 3.8cm。477～482 は染付の碗で、477 の胎土は灰白色を呈し、全体的に釉が施される。口径 (10.0cm)、器高 5.4cm、高台径 (4.2cm)。478 の胎土は、灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 (9.7cm)、器高 6.0cm、高台径 (4.0cm)。479 の胎土は、灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施され、見込みに 5ヶ所の目跡が残る。口径 (10.0cm)、器高 5.4cm、高台径 3.7cm。480 の胎土は、灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は欠損のため不明。口径 10.6cm、器高 5.5cm 以上。481 の胎土は、灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 (10.4cm)、器高 5.9cm、高台径 4.2cm。482 の胎土は、灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 (13.0cm)、器高 7.2cm、高台径 (5.0cm)。483 は陶胎染付の碗で、胎土は茶褐色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は露胎。口径 (10.6cm)、器高 5.1cm、高台径 (4.3cm)。484 は染付の碗で、胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。朝妻焼。口径 (11.0cm)、器高 6.3cm、高台径 (5.3cm)。485 は肥前系染付の皿で、胎土は白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。二重圏線内に、蛇ノ目釉剥ぎが残る。口径 13.2cm、器高 4.0cm、高台径 5.0cm)。486 は肥前系染付の皿で、胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施され、砂が付着する。1740～1750 年代。口径 (21.2cm)、器高 3.2cm、高台径 (12.0cm)。

487 は白磁の紅皿で、胎土は白色を呈し、全体的に釉が施される。口径 5.0cm、器高 1.5cm、底径 1.2cm。488 は土師質の皿で、胎土は明黄褐色を呈す。内面及び外面面はヨコナデ、外面底部は回転糸切りによる調整が施される。口径 7.1cm、器高 1.8cm、底径 4.6cm。489 は染付の皿で、胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎ、見込みは蛇ノ目釉剥ぎが施される。口径 8.9cm、器高 2.3cm、高台径 3.8cm。490 は染付の皿で、胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎ、見込みは蛇ノ目釉剥ぎが施される。口径 (9.4cm)、器高 2.4cm、高台径 4.0cm。491・492 は白磁の皿で、491 の胎土は白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎ、高台は蛇ノ目釉剥ぎが施される、口縁部は、輪花口縁。菊花皿。口径 (13.4cm)、器高 3.5cm、高台径 7.7cm。492 の胎土は、白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は露釉、高台は蛇ノ目釉剥ぎが施される、口縁部は、輪花口縁。菊花皿。口径 (13.2cm)、器高 3.6cm、高台径 (7.8cm)。

493～496 は染付の蓋で、493 の胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。朝妻焼、1780～1810 年。口径 (9.5cm)、器高 3.2cm、つまみ径 3.9cm。494 の胎土は、灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 9.0cm、器高 2.4cm、つまみ径 3.5cm。495 の胎土は、白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが



第 63 图 第 2 区第 2 遺構面出土遺物実測図① (1/3)



第 64 图 第 2 区第 2 遺構面出土遺物実測図② (1/3)

施される。口径 10.2cm、器高 3.0cm。496 の胎土は、灰白色を呈す。全体的に釉が施され、口縁は釉剥ぎが施される。口径 4.0cm、器高 2.4cm。497、498 は陶器の鉢で、497 の胎土は褐灰色を呈す。全体的に釉が施され、外面及び内面は回転ナデによる調整が施される。口径 (20.8cm)、器高 13.3cm 以上。498 の胎土は、灰褐色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は露胎、見込みに砂目跡が残り、高台内面に砂が付着する。口径 (30.2cm)、器高 20.2cm、底径 (11.8cm)。499 は陶器の壺で、胎土は茶褐色を呈す。全体的に釉が施され、外面下部は露胎。外面底部は、回転ヘラ削りによる調整が施される。底径 10.8cm。500 は陶器のカンテラで、胎土は茶褐色を呈す。全体に釉が施され、外面下部は露胎。口径 3.9cm、器高 4.3cm、底径 3.8cm。501 は白磁の瓶で、胎土は白色を呈す。外面は全体的に釉が施され、内面及び畳付は露胎。底径 9.0cm。502 は陶器の壺で、胎土は黄褐色を呈す。全体的に釉が施され、外面下部は露胎。口径 7.0cm、器高 10cm、底径 4.4cm。503 木製の蓋で、長軸 11.1cm、幅 12.7cm、厚さ 0.9cm。504 は連歯下駄で、長軸 23.0cm、幅 9.1cm、厚さ 3.1cm。

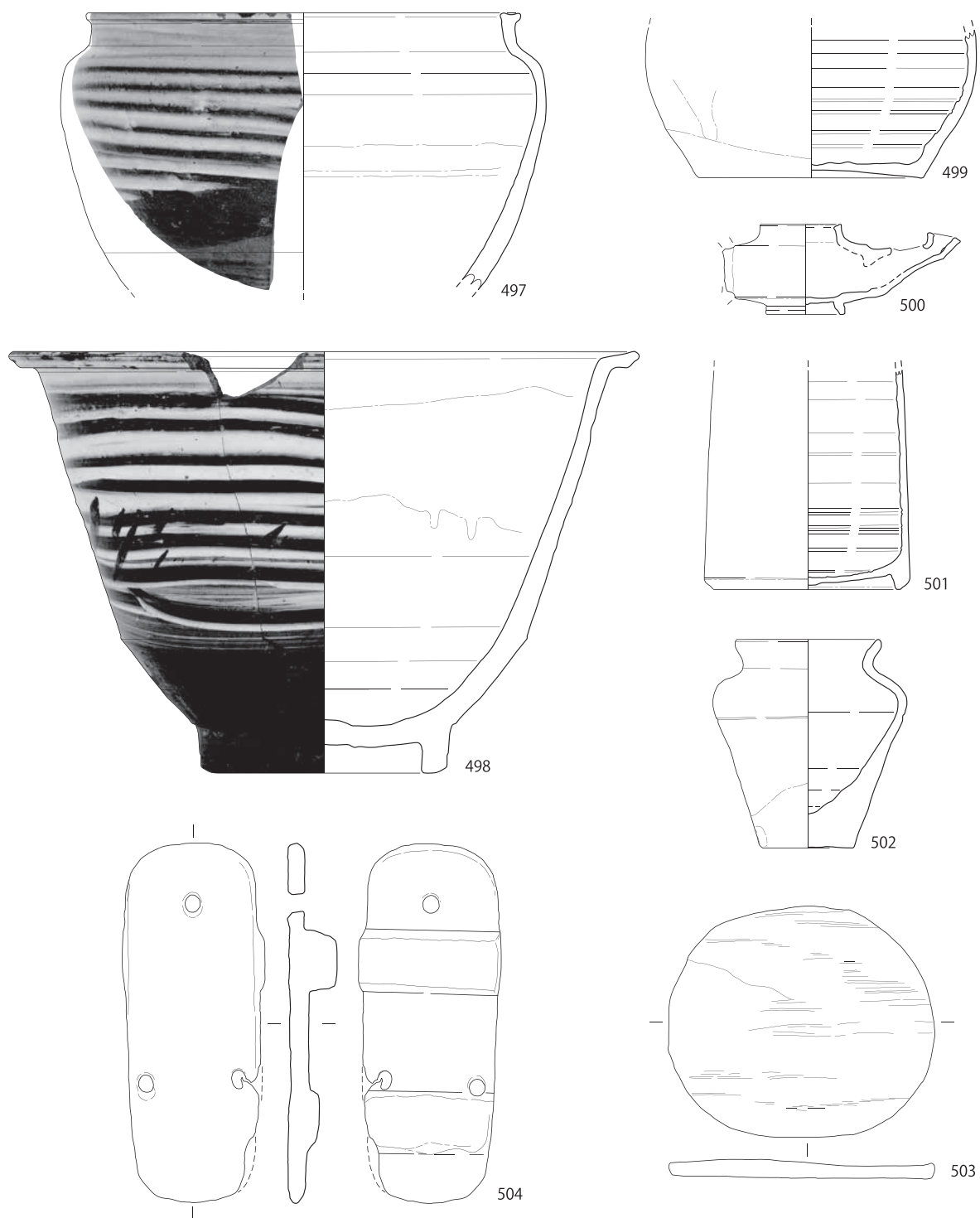
10 第 2 遺構面出土遺物 (第 65 図)

505 は近代の磁器で、小杯。胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 7.0cm、器高 3.8cm、高台径 3.0cm。506 は陶器の火入れで、胎土は灰色を呈す。外面口縁部から下部に釉が施され、内面及び外面下部は露胎畳。口径 9.5cm、器高 3.9cm、高台径 4.1cm。507 は漆器の椀で、内面は赤漆、外面は黒漆が塗られる。外面に竹輪、雪持ち笹が銀彩で描かれる。器高 6.2cm 以上、底径 (5.7cm)。

11 その他の出土遺物 (図版 10、第 66～69 図)

508 は白磁の坏で、胎土は白色を呈し、全体的に釉が施される。口径 15.2cm、器高 2.9cm、高台径 2.4cm。509 は染付の小杯で、胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 6.8cm、器高 4.5cm、高台径 3.42cm。510・511 は染付の碗で、510 の胎土は、灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 (7.6cm)、器高 4.4cm、高台径 (4.0cm)。511 の胎土は、灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 7.6cm、器高 4.6cm、高台径 3.4cm。512 は染付の小杯で、胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 (6.6cm)、器高 2.7cm、高台径 (2.5cm)。

513 から 514 は染付の小杯で、胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 (7.2cm)、器高 3.5cm、高台径 2.8cm。514 の胎土は、灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 (7.6cm)、器高 4.6cm、高台径 (3.2cm)。515 は染付の碗で、胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 (8.0cm)、器高 4.7cm、高台径 (4.2cm)。516 は白磁の碗で、胎土は白色を呈す。全体的に釉が施され、口縁内面及び外面に鉄釉による模様が描かれる。口径 (10.6cm)、器高 4.6cm、高台径 (4.2cm)。517～519 は染付の碗、胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は



第2遺構面

0 10cm

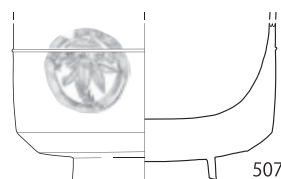
0 10cm



505

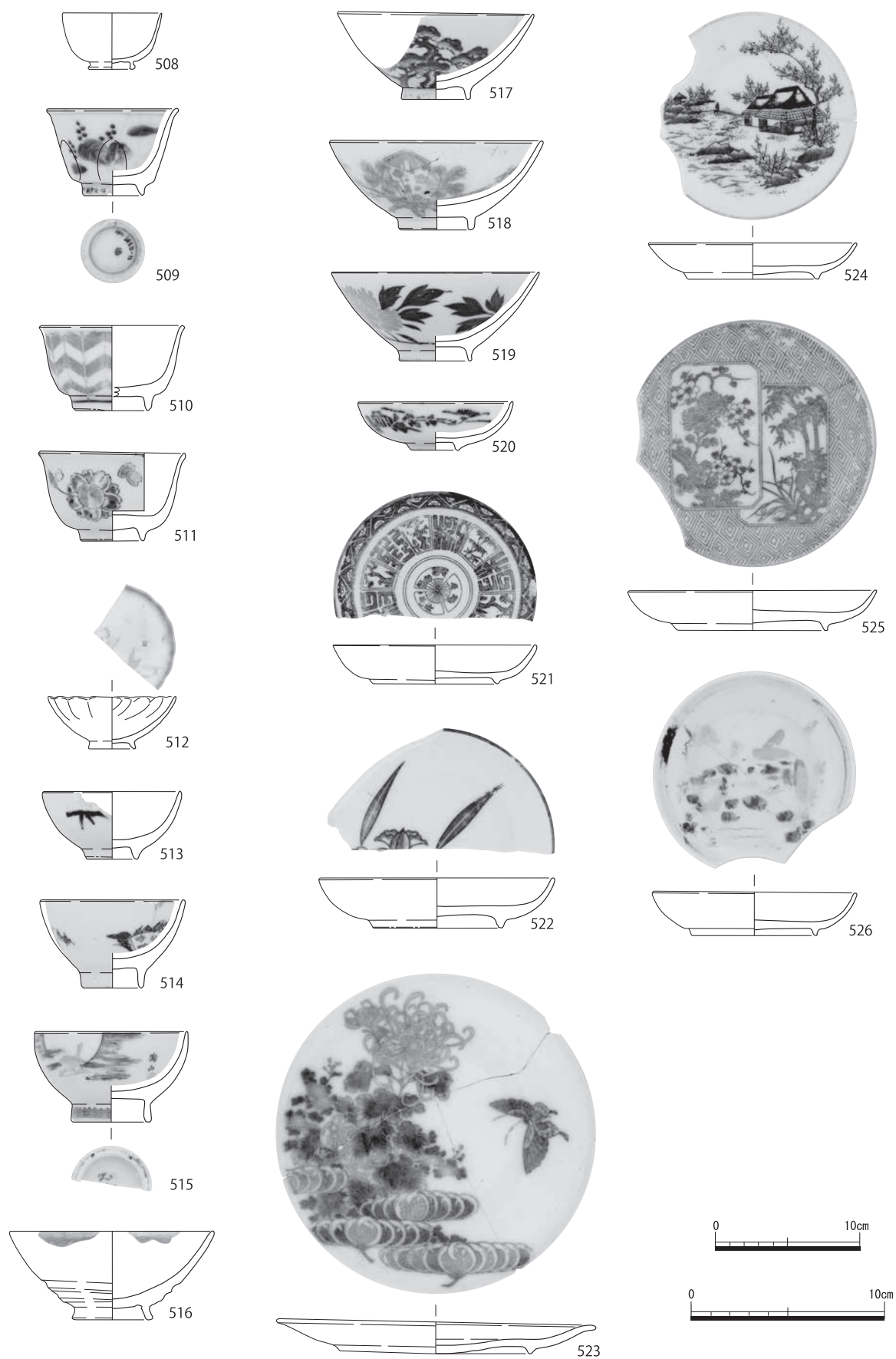


506



507

第65図 第2区第2遺構面・第2遺構面出土遺物実測図(504は1/4、他は1/3)



第 66 図 調査区出土遺物実測図① (523 は 1/4、他は 1/3)

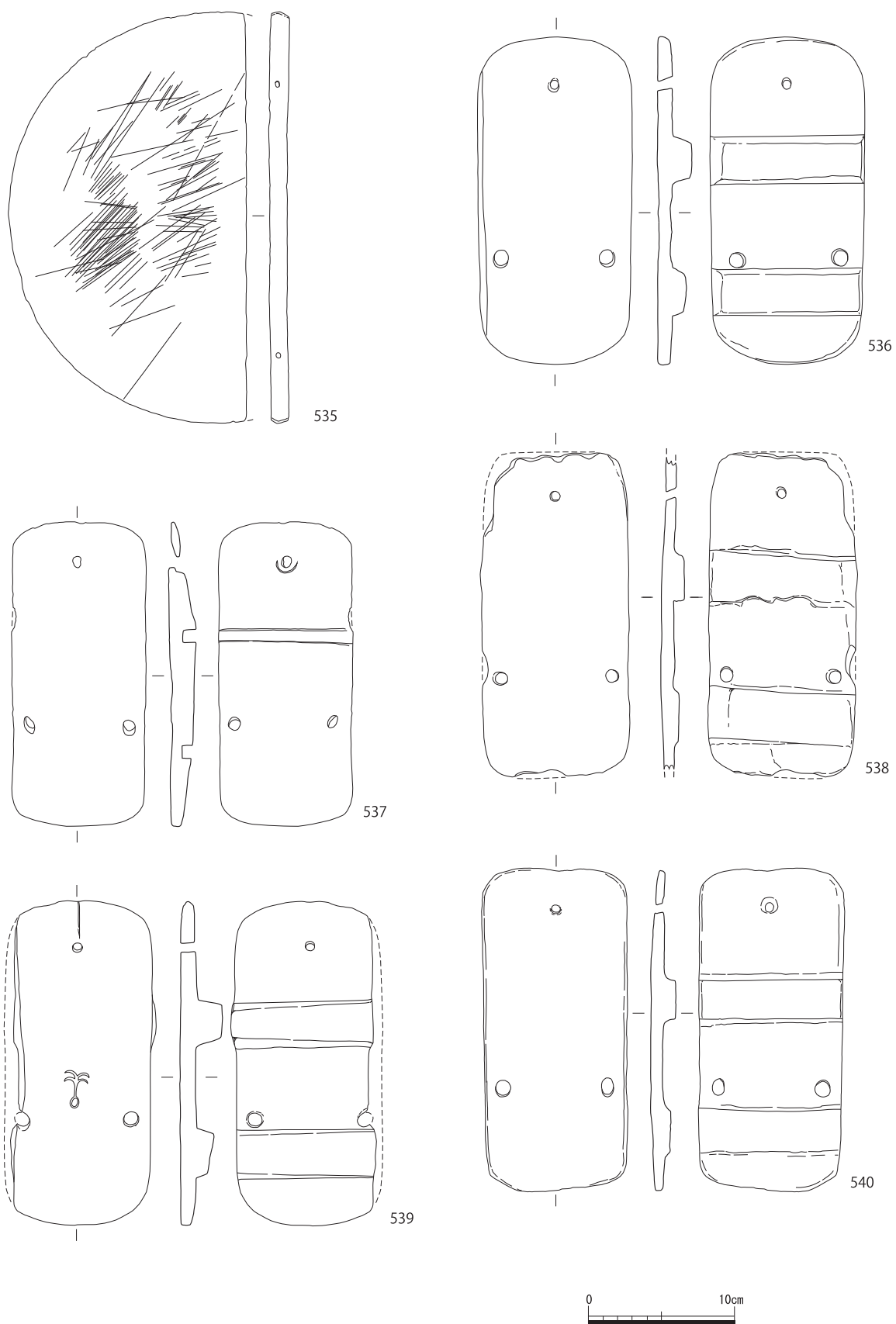
釉剥ぎが施される。口径 10.2cm、器高 4.5cm、高台径 3.6cm。518 の胎土は、白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 11.5cm、器高 4.6cm、高台径 3.9cm。519 の胎土は、灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 (10.8cm)、器高 4.6cm、高台径 (3.8cm)。520～525 は染付の皿で、胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 8.0cm、器高 2.5cm、高台径 2.1cm。521 は染付の皿で、胎土は白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 10.5cm、器高 2.0cm、底径 6.6cm。522 は染付の皿で、胎土は白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 (12.2cm)、器高 2.6cm、底径 6.7cm。523 の胎土は、白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 22.0cm、器高 2.4cm、高台径 13.2cm。524 は染付の皿で、胎土は白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 10.8cm、器高 1.9cm、底径 6.8cm。525 の胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 12.8cm、器高 2.1cm、高台径 7.8cm。526 は色絵の皿で、胎土は白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 10.6cm、器高 2.3cm、底径 6.5cm。527 は陶器の蓋で、胎土は暗赤灰色を呈し、露胎。口径 6.0cm、器高 1.2cm。528 は染付の合子の蓋で、胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、唇部は露胎。鉛ガラスによる焼き付け痕あり。口径 8.2cm、器高 2.6cm。529 は染付の鉢で、胎土は灰白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 11.2cm、器高 3.8cm、底径 10.0cm。530 は染付の碗で、胎土は白色を呈す。全体的に釉が施され、畳付は釉剥ぎが施される。口径 (8.6cm)、器高 8.3cm、底径 5.4cm。531・532 は染付の徳利で、胎土は灰白色を呈す。外面は全体的に釉が施され、内面は露胎、横ナデによる調整が施される。器高 13.7cm 以上、底径 9.1cm。532 の胎土は、灰白色を呈す。外面は釉が施され、畳付は釉剥ぎが施され、内面は露胎。器高 23.5cm 以上、高台径 9.0cm。533・534 は磁器の人形で、胎土は灰白色を呈し、全体的に釉が施される。長軸 5.7cm、厚さ 3.2cm 以上、幅 3.85cm 以上。534 の胎土は、白色を呈し、全体的に釉が施される。長軸 15.3cm、厚さ 3.8cm、幅 7.7cm。535 は木製の蓋で、長軸 28.0cm、幅 16.3cm 以上、厚さ 1.3cm。536～547 は連歯下駄で、536 は、長軸 22.3cm、幅 10.5cm、厚さ 2.3cm。537 は、長軸 21.5cm、幅 9.1cm、厚さ 1.8cm。538 は、連歯下駄で、長軸 22.1cm、幅 10.0cm、厚さ 1.7cm。539 は、長軸 22.1cm、幅 9.6cm、厚さ 2.9cm。540 は、長軸 22.2cm、幅 9.8cm、厚さ 1.7cm。541 は、長軸 21.5cm、幅 9.6cm、厚さ 2.6cm。542 は、長軸 21.4cm、幅 9.8cm、厚さ 2.3cm。543 は、長軸 21.4cm、幅 9.9cm、厚さ 2.3cm。544 は、長軸 21.0cm、幅 9.6cm、厚さ 2.3cm。545 は、子供用か。長軸 15.7cm、幅 7.6cm、厚さ 2.0cm。546 は、長軸 21.3cm、幅 9.0cm、厚さ 2.8cm。547 は、長軸 14.15cm、幅 8.0cm、厚さ 1.6cm。

12 石製品出土遺物 (第 70 図)

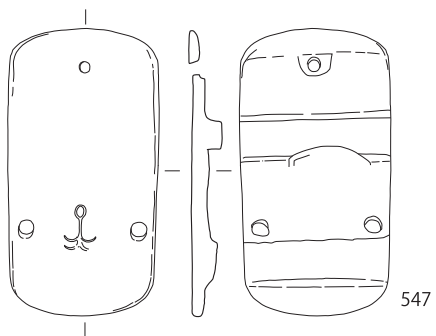
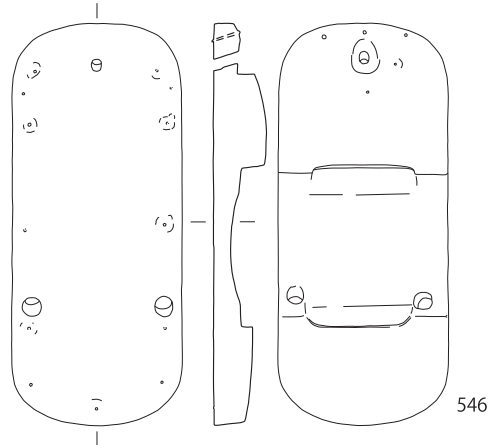
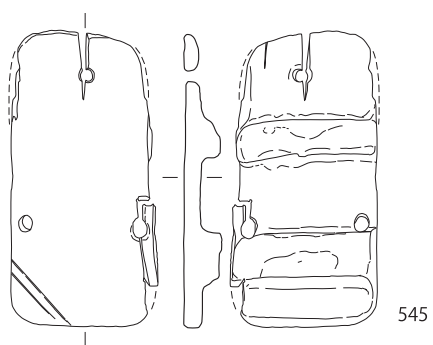
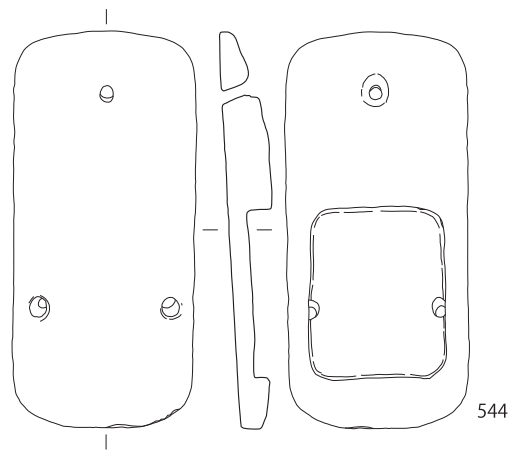
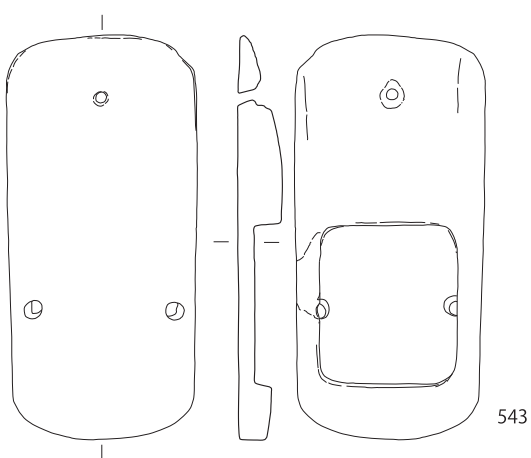
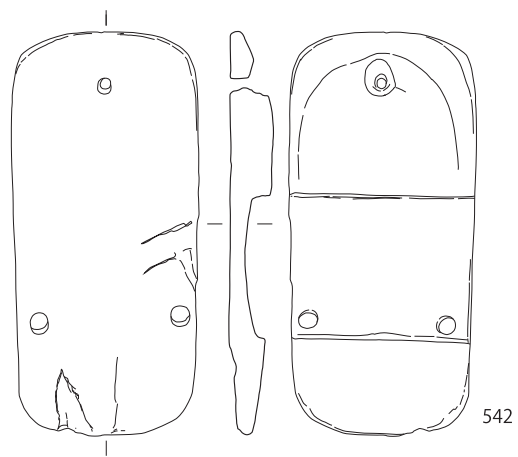
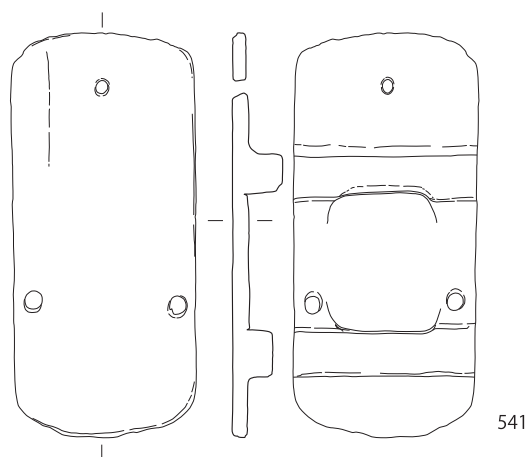
548～550 は石臼。548 は直径 18cm、厚さ 14cm。549 は直径 24cm、厚さ 12cm。550 は直径 30cm、厚さ 8cm



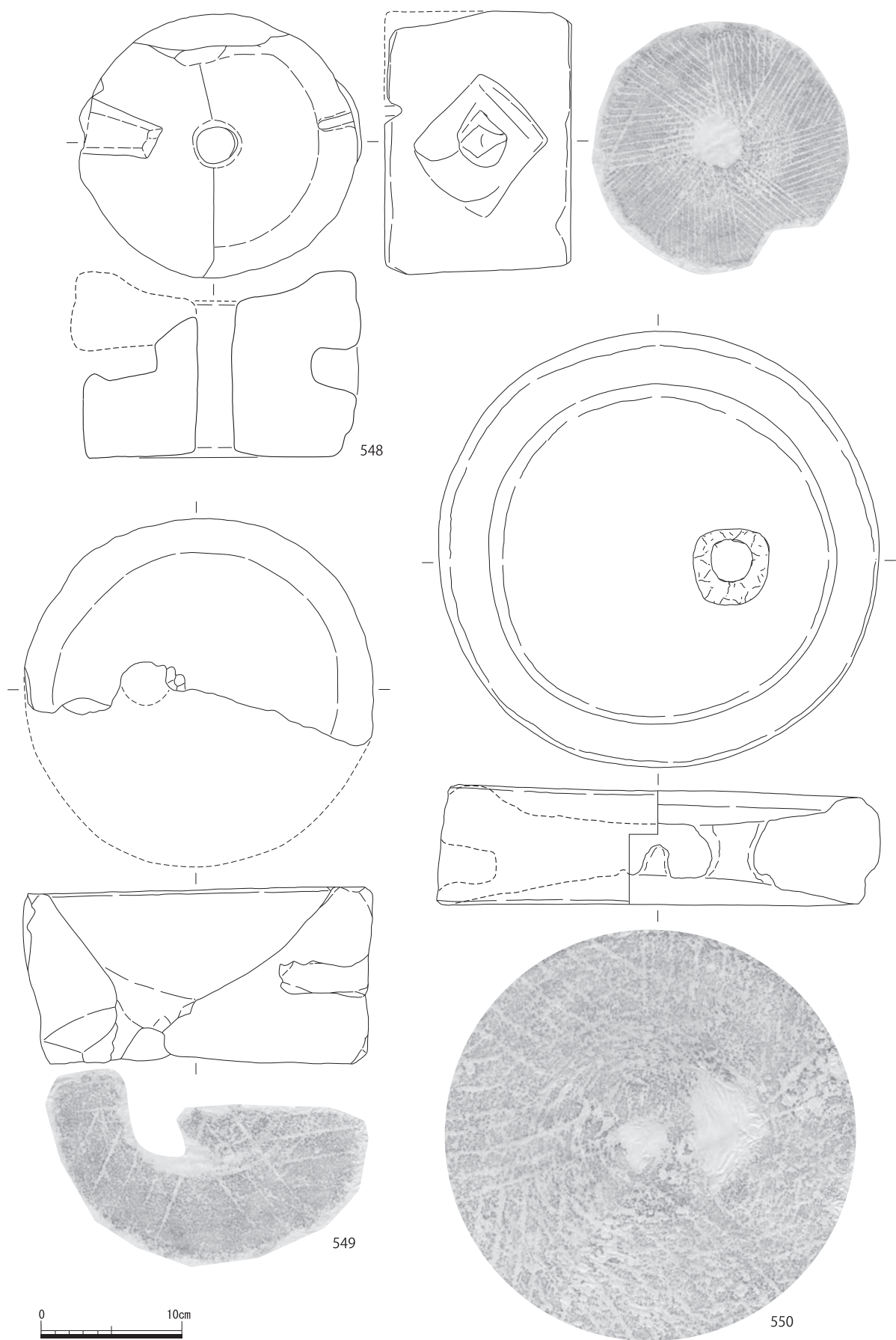
第 67 図 調査区出土遺物実測図② (1/3)



第 68 図 調査区出土遺物実測図③ (1/4)



第 69 図 調査区出土遺物実測図④ (1/4)



第70図 石製品出土遺物実測図(1/4)

IV 総括

今回の調査区は、出来町天満宮の北、出来町地区東端、城内の最東に位置する。今回の調査区では現在の水路に平行するように溝が検出されている。

土坑は第1調査区では東側に多く、西側では後世の攪乱の影響により遺構を確認するには至らなかった。第2調査区では、第1調査区に隣接する南側では土坑の検出は少なく、調査区の中央付近に密集する。

溝は第2調査区のやや北寄りに調査区に、所在する。溝出土の遺物は非常に多く、遺物の時期については近代の遺物が多くを占める。

小穴については、本文中では触れていないが、第2調査区の第1遺構面において、調査区北側に等間隔に並んだ小穴を多数検出していることから、近代の建物に付随する可能性が考えられる。

今回の調査で出土した遺物を見てみると、第1調査区、第2調査区の第1遺構面から出土した陶磁器は近代の遺物が多い。また、第1調査区、第2調査区の第2遺構面から出土した陶磁器については、17世紀前半の物が多いことから第2遺構面の下限は17世紀前半と考えられる。陶磁器の他には金属・土製品・木製品なども出土し、なかでも木製品は遺存状態の良好なものが多い。漆器をはじめ下駄や、曲物など多様な製品が出土し、町人の生活の一端を窺うことができる。今後の調査の蓄積により、近世柳川における町人地と武家地との出土遺物の比較から様相の違いを検討することができるであろう。

—参考文献—

- 『九州陶磁器の編年—九州陶磁学会10周年記念—』 2000 九州陶磁学会
『新・柳川明証図会』柳川市史特別編 2002
『京町遺跡』柳川市文化財調査報告書 第7集 2009 柳川市教育委員会
『上町遺跡』柳川市文化財調査報告書 第10集 2016 柳川市教育委員会
『東蒲池榎町遺跡』有明海沿岸道路大川バイパス関係埋蔵文化財調査報告 第1集 2005 福岡県教育委員会
『矢加部町屋敷遺跡』有明海沿岸道路大川バイパス関係埋蔵文化財調査報告 第3集 2007 福岡県教育委員会
『矢加部南屋敷遺跡・矢加部五反田遺跡』有明海沿岸道路大川バイパス関係埋蔵文化財調査報告 第5集 2009 福岡県教育委員会
『矢加部町屋敷遺跡Ⅳ・蒲船津西ノ内遺跡・蒲船津水町遺跡』有明海沿岸道路大川バイパス関係埋蔵文化財調査報告 第12集 2012 九州歴史資料館

図 版



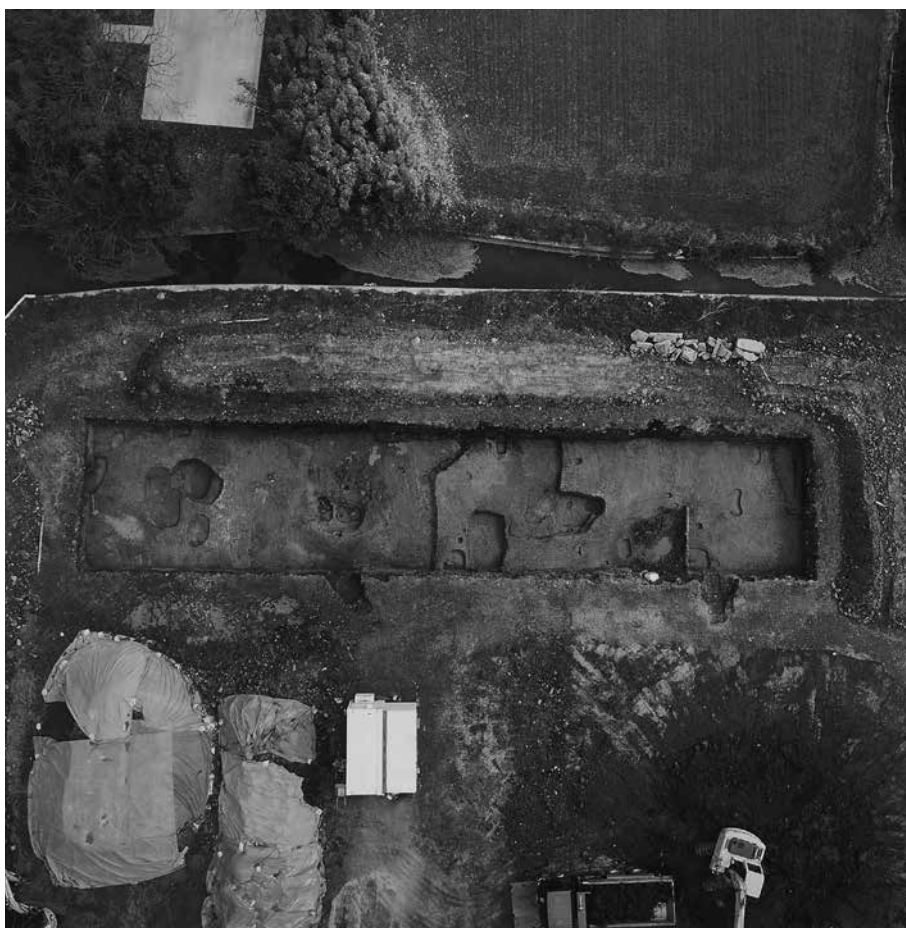
1. 出来町遺跡調査区遠景
(南東上空から)



2. 出来町遺跡調査区全景
(西上空から)



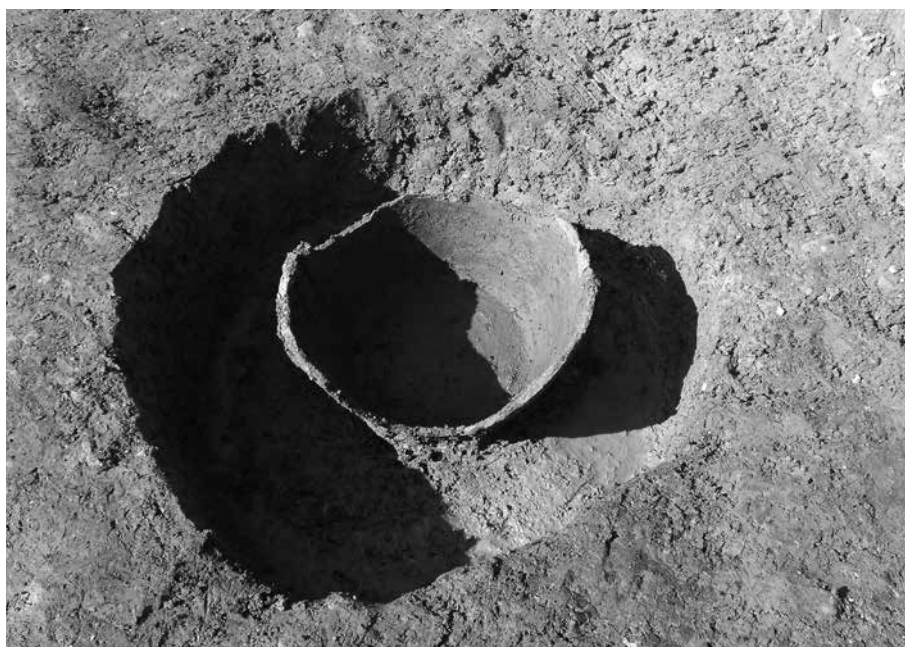
1. 出来町遺跡第1区調査区
(北から)



2. 出来町遺跡第2区調査区
(西から)



1. 基本土層堆積状況



2. SK-1 (東から)



3. SK-28 (西から)



SK-37 (北西から)



SK-43 (北から)



SK-50 (北西から)

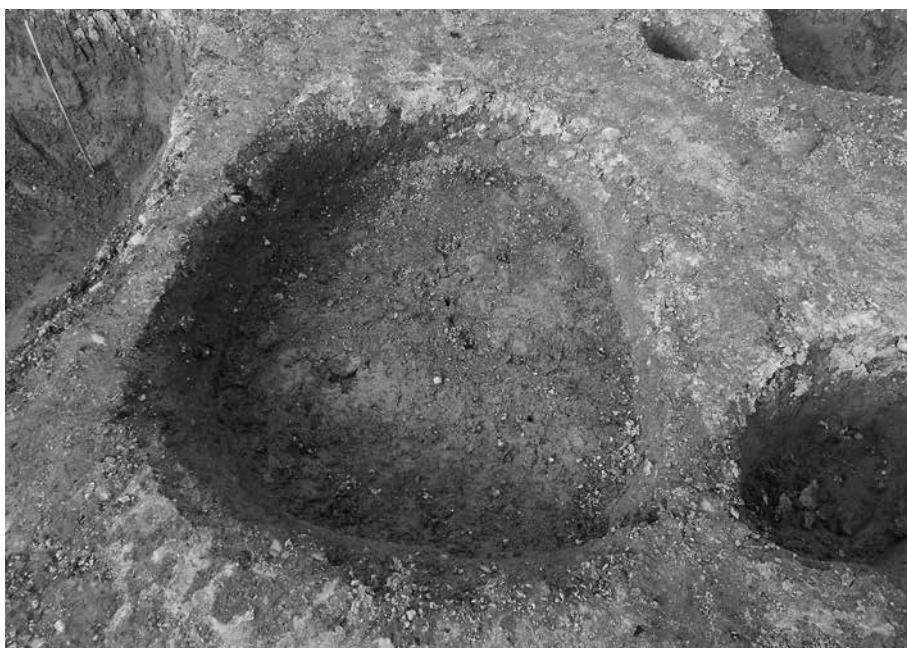
SK-54 (北西から)



SK-86 (南から)



SK-115 (南から)





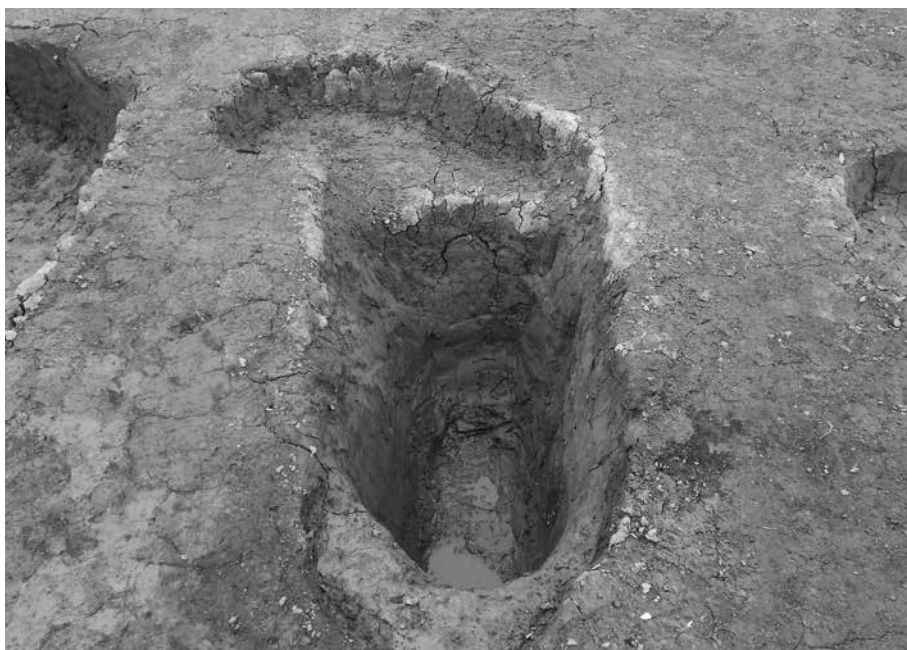
SK-118 (西から)



SK-149 (西から)



SK-150 (西から)



SK-177 (南から)



SK-179 (北西から)



SK-224 (西から)



SK-28-24



SK-93-108



SK-98-110



SK-30-29



112



SK-33-40



SK-37-46



SK-167-139



52



202



SK-177-212



273



SK-201-219



SK-226-313



SK-203-227



330



331



SK-220-232



SE-85-435



SD-85-438



456



463



466



487



531



534

報告書抄録

ふりがな	できまちいせき								
書 名	出来町遺跡								
副書名									
巻 次									
シリーズ名	柳川市文化財調査報告書								
シリーズ番号	第 13 集								
編著者名	橋本 清美								
編集機関	柳川市教育委員会								
所在地	〒 832-8555 福岡県柳川市三橋町正行 431								
発行年月日	2017 年 3 月 31 日								
ふりがな	ふりがな		コード		北緯	東経		調査面積	
所収遺跡名	所在地		市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "	調査期間	(㎡)	調査原因
できまちいせきしょうさ 出来遺跡調査	ふくおかけんやながわしできまち 福岡県柳川市出来町 1		40207	80159	33° 9' 43"	130° 24' 39"	2015.12.15 ～ 2016.2.18	640	民間開発 (共同住宅)
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物			特記事項	
出来町遺跡	城下町	近世	土坑・溝		陶磁器・木製品・瓦・ 銅銭			17 世紀前半～近代	
要 約	当遺跡は、近世柳川城下町の町人町である。排水遺構、廃棄土坑など、城下町の生活遺構を検出。また、陶磁器や木製品、金属器等の出土遺物から城下町の変遷が明らかになった。								

出 来 町 遺 跡

柳川市文化財調査報告書

第 13 集

平成 29 年（2017）3 月 31 日

発 行 柳川市教育委員会
〒 832-8555 福岡県柳川市三橋町正行 431
電話 0944-77-8832
印 刷 ダイヤモンド秀巧社印刷(株)
〒 812-0064 福岡市東区松田 3 丁目 9-32
電話 092-621-8711